UFO・超能力・宇宙哲学

UFO contactee

SINCE 1961
GAP-JAPAN NEWSLETTER

UFO・ESP・Cosmic Philosophy

コンタクティー

SPRING
1998

140

火星には大都市があるか!

ホワイトサンズUFO搭乗事件(2)

宇宙論の疑惑とニセ宇宙探査報告類

私の透視能力開発法

宇宙の法則のもとに生きるスペースブラザーズ(3)

イスラエルーUFO目撃の旅

CONTENTS 〈*Dedicated to Space Brothers and Cosmic Consciousness*〉

〈巻頭言〉歴史と真実 — 1

火星には大都市があるか！ — 秋山　眞人　2

NASAによる火星探査報告の欺瞞性 — 杉山　敏樹　9

ホワイトサンズUFO搭乗事件(2) — ダニエル・フライ　10

宇宙論の疑惑とニセ宇宙探査報告類 — 小山　洋一　18

UFO目撃日記 — 加藤　純一　20

私の透視能力開発法 — 高梨　十光　22

GAP短信 — 26

科学——SCIENCE — 27

UFOをよく見る私 — 川野　学　30

盛況！久保田先生との質疑応答会 — 31

宇宙の法則のもとに生きるスペースブラザーズ(3) — ジョージ・アダムスキー　32

日本GAP主催1997年度UFO写真展 — 36

〈予告〉ユネスコ村でUFO写真展 — 37

イスラエルーUFO目撃の旅 — 久保田八郎　38

〈投稿欄〉ユーコン広場 — 48

編集後記 — 51

日本GAP全国月例セミナー案内 — 52

GAPについて

GAPは「知らせる運動」という意味の世界的なグループ活動で、世界中の人々がUFOの真相について“知る”機会を与えられるべきであるという見地に基づいて1959年にジョージ・アダムスキーによって創始されました。彼の願いは「最大多数の人が現代の真実を発見して、来たるべき時代に眼を転じること、人間はすべて“コズミック・パワー”の子であり、そのパワーの諸法則が宇宙に遍満している事実を確信をもって知ること」にありました。この諸法則は他の世界（惑星）から来る友好的な訪問者からもたらされた“生命の科学”の研究と理解を通じて体得できます。

日本GAPの目的はUFOとスペース・ブラザーズ問題を関心ある人々に伝えることにあり、奉仕活動を通じて真実の解明と宇宙の法則の実践を呼びかけることにあります。その中心思想は次のとおりです。

1．この太陽系の他の惑星群には偉大な発達をとげた人類が居住しているが、米・他の大国政府はこの真相を隠している。

2．他の世界から来る人々はこの世界の政治家や科学者とひそかにコンタクト（接触）しており、危機にひんした地球に対して救援の手をさしのべている。官民を問わずスペース・ブラザーズとコンタクトしている人々が少数存在すると思われるが、通常その真相は洩らされていない。

3．ジョージ・アダムスキーがもたらした哲学は、人類の精神の向上と地球の輝かしい未来を築くために不可欠のものである。

本誌は他の団体・個人と対立するものではなく、政治・宗教と関係のない非営利刊行物です。本誌が読者に対して多少とも役立てば幸いです。

日本GAPへ入りませんか

●日本GAPはわが国最大のUFOと宇宙哲学の会員制団体です。会員は約1600名。世界でもトップクラスの研究集団として、国際的なUFO団体や個人研究家と交流を保っています。

●東京本部と地方の16支部は毎月、月例セミナーを開催し、UFO問題や宇宙哲学について研鑽しており、UFO観測会その他の会合を開催して活動しています。

●東京では毎月第1日曜日に港区東京タワー前の機械振興会館で月例セミナーを開催。わが国のUFOと宇宙哲学研究の大先駆者・久保田八郎会長の解説講演、超能力開発練習、UFOビデオ映写、その他を実施。宇宙的な波動のもとに真面目に研究し、品格のある楽しい雰囲気に満ちています。

●入会は中学生以上なら誰でもできます。下記へハガキで案内書をお申し込み下されば、お送りいたします。

〒133　東京都江戸川区本一色1-12-1-511
日本GAP　☎03-3651-0958

〈表紙写真〉
1997年11月2日、12時頃日本GAP本部役員幹事の加藤純一がK市の自宅前で撮影したUFO。このときかなりの低空で飛んでいたという。本号20頁の「UFO目撃日記」を参照されたい。

©日本GAP

〈巻頭言〉

歴史と真実

今年は太平洋戦争終結後五三年目になる。早いものですでに半世紀が経過したが、大戦争の余韻がまだ残っているような気がするのは編者だけではあるまい。結局、時間の流れというのはアリストテレスやプロティノス以来主観的なものであるとみなされて、それをカントは直観の形式と説いた。しかし哲学者がどのように表現しようと、光陰矢の如しとは万人が起こす実感であって、イギリスの評論家W・E・ヘンリーが言うように「人生は、私達が人生とは何かを知る前に、もう半分過ぎている」と言えるだろう。だから年月の経過は早いのだが、見ようによっては遅いと感じるかもしれない。

そんなに急速に飛び去る時間の流れの中にあって、わずか六〇年前の出来事の真偽が論議の的になったりする。たとえば中国を侵略した旧日本軍が南京を攻略した際に三〇万人を虐殺したかどうかで揉めに揉めている。絶対にナカッタという派とアッタという派が真っ向から対立しているのだ。ここにおいて歴史というものの曖昧さが浮上するのである。わずか半世紀前の事件が奇怪な暗の中で空転しているというのは何を意味するのだろう。

このことで二千年昔のイエスをめぐる大事件に関しても考えざるを得ない。イエスという偉大な人物が実在したことは確かであるが、その言動に関しては極めて不鮮明な陰影が残る。イエスを信奉する宗教では新約聖書の内容を絶対真実の記述としているが、子細に検討すると、ずいぶん不自然な作為的な部分が目につくのである。具体例の一部は本号掲載記事「イスラエル－UFO目撃の旅」に引用しておいたが、イエスの言行をあまで克明に記録できたからには、誰かがビデオカメラで絶えずイエスの行動を撮影し、その言葉を録音しておいて、あとで編集し直したものが新約という形で刊行されたということになる。

そんな便利な機械が皆無であった原始的な時代に誰があれほど詳細に筆記したのか。謎は解けない。新約に含まれる二七巻は西暦五〇年頃から二世紀の始め頃までのあいだに書かれたと推定されているが、現在の新約全部が正典として承認されたのは三九七年のカルタゴの教会会議である。つまりイエスの磔刑後四〇〇年近く経過してからだ。これではずいぶんフィクションも混ぜられているに違いない。だからキリスト教神学の大家でもあったアダムスキーも新約なるものにさほどの信憑性を認めていなかったことは本号の彼の講演で分かるのである。

しかし内容はともかくとして、あれほどの偉大な人物に対する顕彰または記念碑として壮大な記録を残した地球人達が存在した事実を考慮すれば、地球人の「宇宙の真理」に対する認識能力も捨てたものではない。ここが重要な問題と言えるだろう。つまりあらゆる面で未発達な原始的な時代に、純粋さの極致に到達していた神に近い人物に対する憧憬と賛嘆の心は、何人かの人達の中に存在していたのである。

こうしてみれば、いつの時代でも宇宙の法則なるものに対する人類の希求と接近は消え去ることはないだろう。むしろ宇宙開発の発展とともに宇宙の法則の発見と人間世界の調和を目ざす意欲は熾烈化してくるのではないだろうか。

南京事件に返ると、ナカッタ派は日本人の残虐性を否定して生来温和な民族であることを強調しようとするのだろうし、アッタ派は中国人に同情して謝意を表明しようとするのだろう。事件の真相は不明だが、いずれにしても事を荒だてるのではなくてむしろ両国の和平を願う気持の現われであるとみたい。歴史なるものの成立過程は複雑怪奇であるけれども、真相解明の手だてがない以上、これを忘れるのではなくて、むしろこれを契機として前進の方法を見つけ出す方向に向かえばよいのかもしれない。

UFO問題にしても謎だらけである。しかし一つだけ挙げれば、ジョージ・アダムスキーの体験なるものは絶対に真実であったということだ。これは学校の教科書に載るほどの段階には達していないけれども研究家達の調査で判明しているし、だいいち彼の体験を裏づける類似の現象が多数発生しているのである。日本人だけでも実は太陽系の他の惑星からきた宇宙船（大母船や俗に円盤と呼ばれる小型のスカウトシップ）に乗せられた人は一人や二人ではない。しかしこの人達は黙して語らない。簡単にしゃべれるほどに安全な世の中ではないからだ。それでなくてさえ世間には危険な物事が充満している。だから地球に来て調査活動を続けている異星人達も絶対に正体を示さない。どだいUFO問題というのは子供の夢や童話どころではないのだ。

物凄い現実の出来事が発生しているのに全く気づかないでいる一般の地球人は全員が盲目状態にあるかというと、必ずしもそうではない。覚醒して、異星人達と連絡をとりながらスペースプログラムに協力している超進歩的な人達が少数ながら存在しているのだ。この人達が新たな新約を正確に書き続けるならば地球社会は飛躍的に進歩して行くだろう。その新約を確実に読み取ってスペースプログラムに力を与える人達が増大するからだ。大いなる勇気をもって前進したいものである。（久）

火星には大都市があるか！

★秋山眞人
国際気能法研究所所長　哲学博士

撮影／久保田八郎

超能力者で異星人とのコンタクティーとして名高い秋山氏は著書やテレビ等でよく知られた方。今回も久しぶりに編者との対談で宇宙問題に関する最新の情報を伝えた。場所は豊島区長崎の同氏の事務所「オフィス江戸幕府」。

日本GAPは長期存続する

（編者が提示した一枚の不思議な写真を見て氏は語る）私は最近スペースブラザーズにむかって、日本GAPについて三度ほど質問したことがあります。その三回の質問とも日本GAPの将来に関する件ですが、彼らは日本GAPは非常に長期に渡って日本のUFO研究界で存続してゆくと言うのです。とにかく長く続くというわけです。

（編注＝スペースブラザーズ〈Space Brothers〉というのは近隣の惑星群から来る友好的な異星人を意味する英語でアダムスキーの造語。スペースピープル〈Space People〉とも言う）

ブラザーズはあくまでもそれを基準にしているんです。（団体というものが）長く続くかどうかということをです。ですから誰かがUFO問題を受け入れる研究グループを作った場合、その問題だけをつらぬけるかどうかをブラザーズは非常にはっきり見ているんです。そこの違いだと思うんですよ。それを考えますと、あまりにも美しい批評なので、非常に示唆的だと思います。

火星の人工建造物発見と政府の隠蔽

久　このまえ火星に到着したマーズパスファインダーの件についてはその後はほとんどこれという情報を出していません。インターネットで情報が出ますけれども、まったくありきたりのことしか言っていないわけです。二一年前に火星に行ったバイキングのときには人面岩を撮影したと言われていますし、その他いろいろなものを発見したと言われています。

ところが今回は空中に雲が浮かんでいるのを撮影したということです。雲があれば水蒸気も空気もあるわけで、古くから言われた火星は全くの死の世界だという説が雲の件でわずかに救われたという程度ですが、これについてはどうですか。

秋　たぶん人工建造物を見つけていると思います。そこにはいろんな意味での異星人の技術の片鱗（へんりん）があって、当然そこにテクノロジーの名残りがあれば、それはそのまま情報として非常に大きな利権をもつわけです。

まず最初に見つけた者たちがNASA（米航空宇宙局）やアメリカの軍部も含めてですがその情報を完全にコントロールできるようになることと、それをどのように流通させるかの将来的な利権抗争までに結びつけられなけ

れば絶対に発表しないと思うんです。たぶん今回は三カ所以上の歴史的建造物を発見しているはずです。それはわざとブラザーズが見つけさせているのですがね。一種の遺跡を見つけたわけですよ。それはバクテリアの化石というものではなしに、非常に知的な物を見つけているわけです。私がブラザーズから聞いた話では、それを解読するまでにまるまる一〇年はかかるだろうということです。その内容情報を完全に解読して地球人側が自分たちのものにするまでに一〇年というわけです。

しかしブラザーズは地球人側がそういう行動に出ることを予測した上でその建造物を見せているわけです。

というのはその間に（地球人は）情報を必ず出してゆく。人の口に戸は立てられない。それによって逆に隠し通してきた構図がまた洗い出されるという形が出てくるだろうというのがスペースブラザーズの見解なのです。

今年の六月二四日のUFO記念日にあらためてロズウェル基地は「UFOではなかった（あれは気球だった）」と発表してから、NASAは非常に強固な姿勢を保っているんです。その他ある問題でNASAは特に日本に対して非常に強固に情報踏査をしてくるという動きがはっきりしているんです。

（編注＝ロズウェルのUFO事件というのは、一九四七年七月四日、米ニューメキシコ州ロズウェル市の陸軍航空隊基地の北西一二〇キロのフォスター牧場に一機のUFOが墜落。空軍五〇九爆撃部隊情報部のマーセル少佐の一隊が機体の残骸や小人異星人の遺体四体を回収し、これらをテキサス州フォートワースのカーズウェル空軍基地へ移送したという大事件。しかし後に空軍は観測気球だったとの情報を流し、昨年七月にもロズウェルのUFOをまたも観測気球だと発表したあげく、小人異星人の死体は気球に積載されていたマネキン人形だったというデマを流した。軍が人形を使用したのは一九五〇年代に入ってからの事なのだ。この事件の詳細は本誌一三四号に異星人の遺体写真と共に掲載されている）

党派の利権争いに隠蔽（いんぺい）がからむ

これも世界的に言ってもそうですけれど、ただ逆に言えば共和党の勢力が強いNASAや空軍も含めて、要するに隠蔽には共和党が動いているわけです。ところが、民主党は出来るところまでは公開していいんじゃないかと言っているわけです。

ただ民主党にしても利権がはっきりすれば俺たちも加えさせろと言って一緒に隠蔽することは目に見えています。それを共和党が持っているうちは共和党いじめの材料として使うという非常にどろどろしたものがあるんです。

今まではNASAが隠そうとすれば完全に隠せたし、CIA（中央情報局）や空軍が隠そうとしても完全に隠せたんですが、アメリカもそういう意味では少しずつ「何のために隠すのか」ということに関して誰もが分かりつつあるんです。そういう意味では一枚板の政府の情報隠蔽工作が割れつつあるので、これは逆に非常に面白い起点に立っているのではないかと思われるんです。

ただ、おおやけに発表する方側の隠す側は、非常にはっきりと隠すべきだという意図をもっていますし、とにかく分極化しているんです。政府の中でも分極化していることは事実だと思います。それでいつか上院を含めてUFO問題の専門家を呼んでまた公聴会をやり始めるようですね。

それと同時にロシアがUFOを開発したという情報が方々に出回っています。しかしこれもアメリカを牽制するためにロシアがハリボテをやっているんじゃないかとも思われるんですがね。

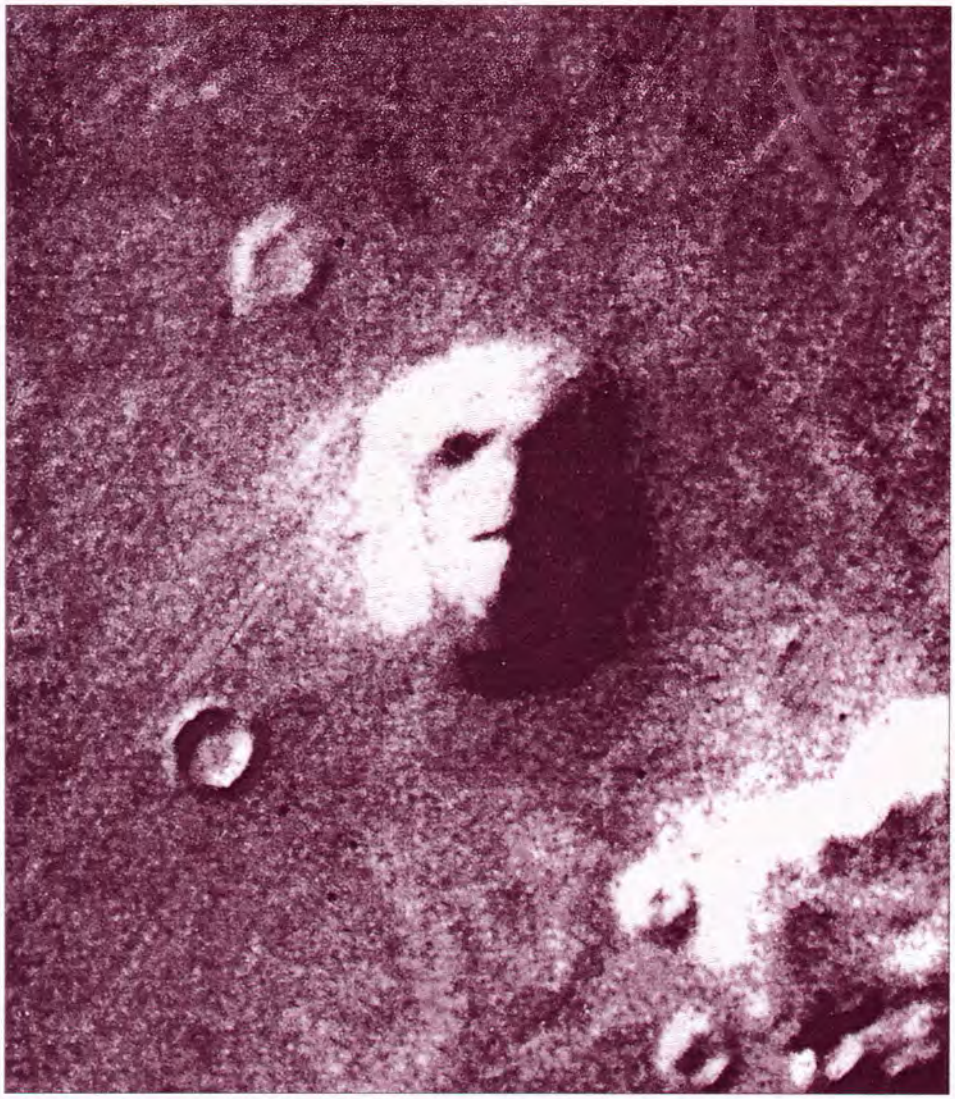
要するに一つの利権としては、みんながはっきりと共通認識をするようになってきたんですね。ですから、これからは利権争いがはっきりとした形で始まるだろうと思います。

そうなってきますと、逆に言えば情報を完全に隠し抜くということが非常に出来にくい状態になってくるでしょう。その情報自体がお金になるわけですから、スクープするやつも出てくるし、皆に流せという者も出てくるわけです。こういうふうに利権や欲望が集中したからこそ、組織が混乱して崩れてゆくということになりそうですね。だから火星に関する情報は、これからいくつか非常に大きなものが出てくると思います。

人面岩（じんめんがん）も人工建造物

火星の人面岩自体も建造物だと思います。ただし自然の地形を加工して造られたものですから、論議としては人面岩の場所へ行ってもむつかしいと思いますね。視点側の人はこれは自然の風景のいたずらだと考えるでしょう。たとえば、日本にピラミッドがあったという論争と同じですね。非常にピラミッドのように見えるけれども、自然の妙だということでアカデミズム側は生きるわけです。たぶん人面岩はそういう種類のものだと思いますよ。

ただしあのような人面岩であれスフィンクスのシンボル、あのライオンのシンボルですね、なにせピラミッドとはセットになっておりまして、そこに宇宙人が来た痕跡があるよと、その地下に必ず何かが埋蔵されているんだよということも大きな目印ですから、それはNASAには当然わかっていると思いますよ。



●火星の人面岩

1975年８月20日、ＮＡＳＡ（米航空宇宙局）は火星の生物発見を目的とする火星探査機ヴァイキング１号を打ち上げたあと、続いて同年９月９日にヴァイキング２号を打ち上げた。約１年後の６月19日、１号は火星に到着して午前５時過ぎにクリュセ平原に着陸した。この着陸船が地上を探索していたとき、付近の岩石群に文字に似た奇妙な記号が刻み込まれているのを発見したが、この件は大騒ぎにならなかった。偶然の現象とみなされたからだ。一方、ヴァイキング１号の周回船が２号の着陸地点を探して火星を回っていたあいだの米時間７月25日、上空1873キロの位置から北平原の北緯40.89度、西経9.55度のシドニア地域を周回船のカメラが撮影した写真の中に、人間の顔そっくりの巨大な岩を撮影して送信した。この構造物は大問題になったが結論は出されていない。しかし秋山眞人氏は火星人による人工的な物であると指摘している（本文参照）。この人面岩の付近にはピラミッド型の不思議な構造物も多数撮影されている。

火星に住むグレイ

久　一説によると火星人は地下に巨大な都市を造っているということですが。

秋　そうですね、要するにグレイたちが火星に来るようになってから――。グレイというのは赤茶けた鉄分の多い所とか、水のある所のそばでないと、なかなか生命を平穏に維持するのがむつかしいんです。死んでしまうわけではないんですが――。それで火星の地下で水のある所がグレイにとっては非常に住みやすいんです。だから地下での共同都市計画というのは昔から沢山あったようです。

　そのうちの一つの廃墟みたいなものを、地球人に見つけさせているらしいんです。そういう動きは明確にあるとは聞いています。そしてグレイと普通のヒューマノイドタイプの（普通の人間タイプの）火星人とは共同で生活しているんです。

　結局、宇宙計画としてグレイと直接コンタクトするのは問題があるんですが、広い意味ではやはり――。実は今回スペースブラザーズとあらためて先々月にその問題に関していろいろと討議したんです。火星の問題も非常に話題になっているし、どういうふうな意図があるのかということなんです。

地球人の意識改革プログラム

　結局、ブラザーズたちの共通見解としては、非常に広い範囲で地球人の意識というものに対しての教育プログラムを持っているんです。彼らは私に対して私がわかりやすい形で表現したと思うんですけれども、心理分析だと考えたらいいんじゃないかと言うわけです。たとえば非常に心理的に混乱している人がいるとして、その人の心理的なカウンセリングをしようとした場合、その人にとっていちばん重要なのは、その人がイメージできる最も美しい部分、最も希望のある部分、そういう将来につながる非常にクリアーな部分を強調してあげることだというわけです。これは「元気を出せ。頑張れ。おまえの未来は明るいぞ」というやり方です。つまりポジティヴ・シンキングですね。それと同時にその人が最もネガティヴに恐れていること、最も隠そうとしていること、そういうことに関しても、ある程度自由に開放してクリアーしてあげる必要があるんです。これは人間のマインドパワーを高めるための非常に重要なことで、ポジティヴな世界、美しい世界は必ずあなたの未来にあるけれども、今はネガティヴの方を整理してゆこうねということで、人間という存在に対していちばん恐れの対象になるのは、要するに哺乳類と対立した昔の恐竜の流れであるというわけです。そういう生命の出す波動です。これは無条件で最も深い恐れを刺激するわけです。そこをどうクリアーするかということです。たとえば地球人が今後宇宙に出て行った場合に、グレイと接触することは増えてゆくわけです。そうするとグレイの先祖にあたる恐竜のイメージが潜在意識を刺激して、その恐れはもっと強くなるかもしれません。

　我々は強い恐れを感じると、相手と戦うか自虐的に自分たちを滅ぼすか、どちらかの反応に出てしまうカルマを持っているわけです。ですから恐怖にはそういう処理の仕方で対応することしか出来ないカルマを今のところ持っているんです。

火星は精神の調整を果たす場所

　これはネガティヴな部分を解決するためにグレイも来ていることを、ある程度許してほしいということで、一方、いちばんポジティヴなところをメインにするためにヒューマノイドタイプもやって来ているわけです。

　そういう意味では火星は調整を果たす場所、グレイがどれぐらい来てヒューマノイドがどういう行動で行こうよという、たとえば一世紀なら一世紀の地球計画に対するプログラミングの討議をする場所のような所です。したがってヒューマノイドタイプとグレイタイプの意見交換の場所にもなっているんです。たしかに一九五〇年代、六〇年代においては、非常に混乱が生まれたこともあったし、討議の席上で非常にもめたこともあったらしいんです。その意味では非常に闘争的な波長を火星は持っているわけです。というわけで、一時期はヒューマノイドタイプは火星という惑星を非常に敬遠した時期もあったようです。今はだんだん共同策を講じているんです。

中国と波動の合う火星なのだが

　大体に火星のバイブレーションは中国と非常に共鳴するんだそうです。昔の中国の古代の易で言っても、火星は中国の守護星なんです。それで中国のチベット国境沿いの雲南省でしたか、いくつかある古代のピラミッドと共鳴するんだそうです。

　ところが中国側はそのピラミッドの使い方といいますか、ある種の儀式をチベットの僧侶が継承していたらしいんです。しかしチベット侵攻のときに大虐殺をやって全員を殺してしまったらしいんです。したがってそのピラミッドはもう機能しないんです。本当は火星という惑星は今後の中国情勢と非常に密接に連動するんです。ですから地球上では中国は非常に注目されてきていますから、その中国のバイブレーションをコントロールする上でも火星

が重要だとしてブラザーズは動いてきたんですけれども、その機能が今のところうまく果たせないんだそうです。それをちょっと南米の方に移して、南米で機能しているピラミッドから火星と交信しながら南米から中国を動かすというようなことをやっているそうです。

南米には実は中国の要人たちで亡命した昔の仙人とか超能力者がいっぱいいるんです。それでその人たちを通じて華僑を動かし中国人が動く。それでまたアメリカが変わる。というような国際情勢の調整を彼らは見えないところでだいぶやっているようです。

中国の謎のピラミッド

いちばん恐ろしいのは、これからアメリカと中国が対立し、それを深めて戦争を始めてしまうことですから、そこのあいだにおいても火星のバイブレーションというのは、地球人の潜在意識にすごく影響を及ぼすのだそうです。

ですから彼らが共通見解として持っているのは、火星を闘争的な惑星から進化させようとするわけで、それによって中国も進化させようという超時空的な構想があるようです。

久 さきほどの中国のピラミッドはまだあるんですか。

秋 それはあるそうですが、外人が中へ入ることは許されないような場所にあるんだそうです。私は何人かの探検家たちに聞いたことがありますが、まだアンタッチャブルな場所にあるんだと言っていました。チベットとの国境沿いに――。

中国の開放軍がチベットの僧侶を大虐殺した理由というのは、あまり定かではないらしいですね。一時期はナチスなんかもそのチベットへ入り込んで場所を陣取ろうとしていたようです。どうも昔からそういう仕組みというのは知られきったようですね。

ですからオイルメイジャーとかお金を持っているような人たちは、そうした重要な力が宿っていて、そこが地球を守っているんだといわれるような場所を熟知していて、それを守ったり、あるときには破壊したりするということを効率よくやっているのかもしれません。

第三次大戦は起こらない

久 今の問題の関連ですが、中国とアメリカは戦争をやるかもしれないと軍事評論家みたいな人たちがしきりに流していますが、戦争は実際に起こりますか。

秋 流血戦争になるかどうかはわかりません。しかしながら、これはまだ消化されていないカルマが残っているように思うんです。これは昔のムー大陸とアトランティス大陸の闘争そのものが、今や中国とアメリカという構図の中に生まれてきているわけです。

ただし対立する方向には向かってゆくと思いますが、今回それを乗り越えれば、むかし人類がつくった、地球の地軸をひっくり返すほどの大闘争のカルマはそこで消えます。これはある意味ではカルマを消すための戦いです。ですから、小さないざこざはあるかもしれませんが、アメリカと中国を巻き込むような全体的な第三次世界大戦になるようなことは、私はないと思いますね。今はだいぶそのカルマを超えていると思いますね。

戦争願望の日本人がいる

そこでひっかかるのは、逆に言いますと、今の日本人の中には、ある意味の平和ボケで、終末論ではないですけれど「戦争を起こしたい！」という意識を持っている人たちの気持ちも非常に高まっているんです。

たとえば、北朝鮮で小さないざこざがあったとすれば、そのとばっちりを絶対に起こしたいと思っている国に災いがかってくるんです。そこがいちばん問題だと思うんです。

アメリカと中国の戦争が起きるよという日本の軍事評論家たちの騒ぎというのは、逆に言えば、日本で戦争を起こしたいという願望の裏返しで、大衆の集合意識のあらわれではないかという気がするんです。

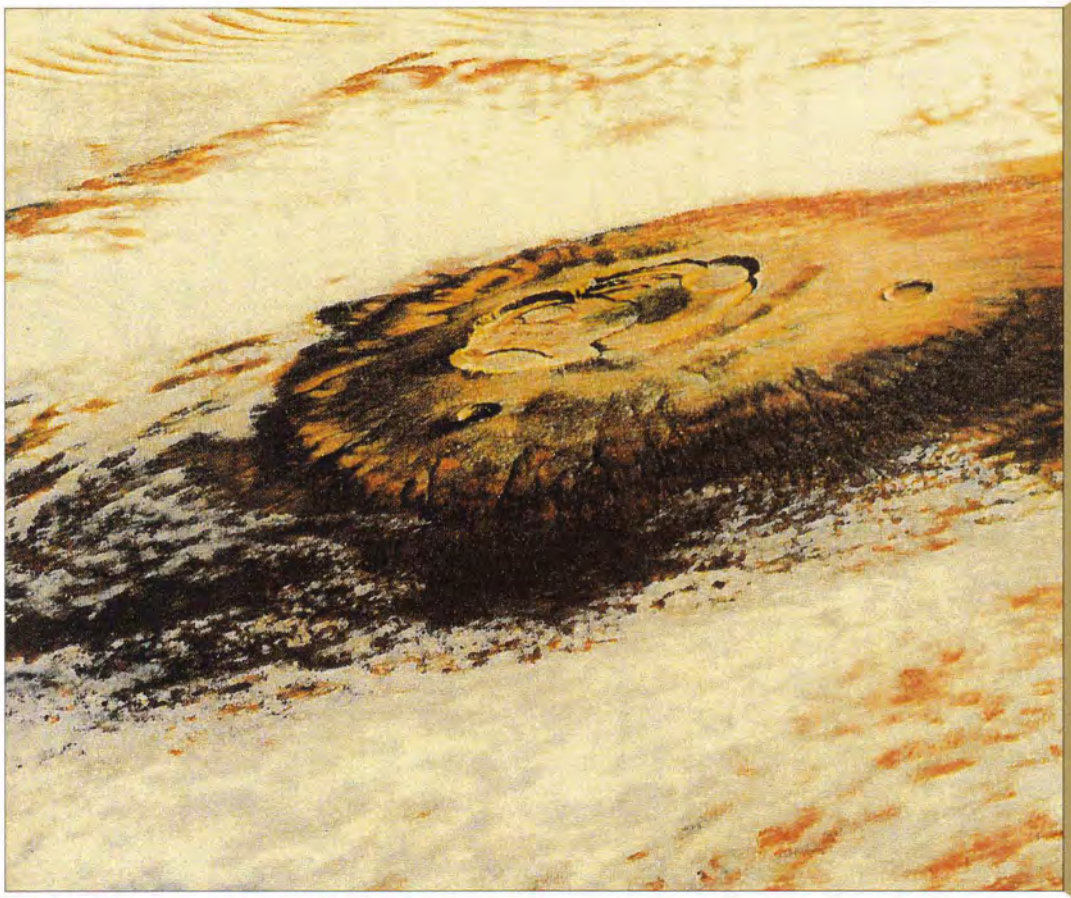
日本人は他国を許す民族

ですから日本にとっては、それはいいことか悪いことか、非常に難しい判断を要するわけですが、そういう緊迫感が逆にあることによって、日本はまた大きな変化があって生きるのかもしれませんし、これはわかりません。

ただ、基本的に日本という国は、そういう非常に壮健なと言いますか、カルマがあらわれてきて、いろんな形になって闘争が始まりますと、意外と、その中では優位に立てるといいますか、ラッキーな国ではあるんです。というのは、お祭り好きではありますが、気分的に非常に鷹揚（おうよう）なというか、「許す」ということを念頭においている民族です、日本人は。ですから、そういう方面の（闘争の）カルマには乗らないですね。

たとえばアメリカ人も中国人も、日本人から見ると、非常に戦争には乗りやすい感じがするわけです。言語学的にいっても「結論を先に言わなきゃ分からない」という民族ですからね。日本人は結論をよーく考えてから、あとで言おうねという言葉の体系からもそうです。

ですが、経済戦争は激化すると思うんです。このカルマだけは超えられないと思うんです。ですから、逆に経済



●火星の白雲

ヴァイキング１号火星探査機が撮影した火星のオリンパス山頂上付近にたちこめる大白雲群と植物の群葉。火星の大気は極薄なので雲は存在しないという説はこれでくつがえされる。（写真はダニエル・ロス著／久保田八郎訳「ＵＦＯ－宇宙からの完全な証拠」（中央アート出版社）より。

戦争が非常に激化して株が乱上下すると、これはヨーロッパをも含めて大経済紛争になりますよ。今もすでに始まっています。日本では山一証券だとかその他の証券会社がバタバタとひっくり返っていますし、その中でビッグバンが迫っています。そして外貨、つまり中国のお金も欧米のお金も大量に流れ込んでくるわけです。とうとう日本という国を経済的な中国とアメリカの貿易の坩堝（るつぼ）として整備してゆこうという動きが着々と動いているわけです。

だけど、逆に言えば、そうした激しい経済的なぶつかりあいのさなかで、ビッグビジネスのチャンスも沢山訪れるわけですから、経済戦争はいちがいに悪いことだとは言えません。そこでお金の大切さを再認識するための試練ではないかと思いますね。ですから、ポジティヴに考えてゆく人間は滅びないということの結論だと思いますね。社会がどのように混乱しても、ビッグバンですが、とりあえず来年の二月から四月にかけて日本の経済がとんでもなく発展的になるとは思えないですね。当然、日本の独自の経済力を押さえて、中国もアメリカも日本を利用して有利な経済状態に立とうとしますからね。これでは日本はなかなか伸びない、韓国もなかなか伸びない。そこをアメリカの出先にするのか、中国の出先にするのかということで、非常に激烈な戦いが続くでしょう。

経済戦争のカルマの清算

ですから新世紀を迎えるまでに、最終的な今世紀のウミ出しが、つまりカルマの結果が世紀末に全部清算されるでしょう。それが流血戦争の形になるかどうかはまだ分かりません。経済戦争という形ではかなり激化するだろうと思います。

これはここ半年でだいぶ固まってきましたね。経済戦争でさえも回避できるのではないかと私は思っていたのですが、ここ半年のあいだに激烈な経済戦争の形が固まってきていますね。

あとは、中国でのいざこざが起きたときに、流血戦争に日本が巻き込まれないかどうかですね。それにしても、それが今までのカルマの結果だとすれば、日本人としてどのように生きるべきか、アジア人としてごまかしてしまうのではなくて、ヨーロッパ的なふりをするのでもなくて、日本人としてどう生きるのかということが問われてくるでしょう。日本の戦後のカルマ的な総決算ではないかと思いますね。しかし私は非常にいいことだと思いますよ。風呂に入って体をごしごしこすって垢を落としてさっぱりするわけですからね（笑い）。

三つの民族のルーツ

久　日本民族ですが、これはむかしアダムスキーが「日本人は土星人の子孫だ」と言っていましたし、アメリカである方面から聞いた話では、ドイツ人は火星から来た民族だということでしたし、ユダヤ人の祖先は例のアブラハムですが、これはどうも金星人であったかまたは金星人と関係のあった民族ではないかと思っていましたが、これについてはどうですか。

秋　私もそう思います（と強く断言する）。実は土星、金星、火星に象徴されるもので、これは易の五行、木火土金水から言っても、それぞれ相克さずという、ぶつからない三つのエレメント（要素）なのです。土と火と金ですから。たとえば火は水を克しますし、金は木を克します。そこに水と木というエレメントが入っていないんです。

それで、土星の人たちは非常にバランスを大切にしますから、これは日本人には土星的なものを反映していると思いますね。

ドイツは昔から競争の神、狂ったように暴れる火の神、あとバッカスなんかの伝説もあります。これは火の神そのものです。原始崇拝にゆけばゆくほど火ー火星というエレメントが非常に強くなるんですね。ゾロアスターの拝火教にもかかわっていたフシがあります。

そしてキリスト教の古い伝承に基づく流れにゆきますと、これは全部金星の流れなんです。ヨーロッパの方へ行きますと、これは金星の流れと水星の流れが別に出てくるんですがね。ですからこの三つの民族はウマが合うんでしょうね、あるいは縁があるといったほうがよいかもしれません。

自然の変動を逃れる方法

久　ところで、地震についてはどうですか。

秋　長野オリンピックが終わってから一年間のあいだに、数県を含む〇〇地方一帯で非常に大きな地震が起こりそうな動きがあるんです。そこらへんで地震のエネルギーが動きだしていることは事実なんです。地震のエネルギーが動きだすというのは、たんにマグマが活性化するだけではなしに、そのエネルギーを活性化させてしまうような大衆の意識といいますか、つまり破壊を望む願望が原点になっているんです。こんな世の中がなんだという願望ですね。そんな意識が結集して大地を激動させるわけですよ。

ここ一～二年は警戒の時期ですね。しかしやたらと恐怖心を起こすのはよくないですね。いつ、どこで地震が発生しても大丈夫なように万全の備えをしておればよいことですからね。想念の使い方のうまい人なら、関東大震災のような大激震でも生き残る人はいますからね。逆に瓦礫の下で一瞬のうちに死んじゃう人もいます。

これはやはり想念の使い方の単純な違いだけの問題です。つまり他人を責めず、裁かず、自分自身を裁かずに、なるべく楽しんで生きることですね。これは難しいことですけれど、なるべく楽しんで生きるという心の豊かさの中に身を置くことではないかと思います。といって「絶対に楽しまなければいけないのだ！」と強く執着すれば、これはまた逆に苦しみになります。なるべく楽しむということでしょうね。

特に大地というのは現実生活の象徴ですから、身近な現実の生活そのものとか、仕事だとか、とにかく身近にある自分の生活範囲の中を、どれだけ楽しく出来るかということだと思います。それが自然の大変動を遠ざけるコツだと思いますね。

人間の感情の違いが形の違いを生むわけです。でまた形の違いがある種の対立を生んだりする場合もありますし、ある種の出会いを生む場合もあるわけです。これは非常に微妙な世界です。とにかく人間は良い波長に乗ること以外にはないわけです。そういうものの見方がこれから本当に大切になってきます。

NASA's Fake Report On Mars
by Toshiki Sugiyama

NASAによる火星探査報告の欺瞞性

杉山敏樹

筆者は古くからの日本GAP会員で、東北大工学部出の科学者。数名の科学者との共同研究で反重力の発生実験に成功した論文がイギリスの学会誌に掲載された。今年七月のNASA（米航空宇宙局）による火星探査機マーズパスファインダーの探査結果がインターネットを通じて公表されたが、その内容に重大な疑惑があるとみて綿密に調査分析したところ、以下のような欺瞞に満ちた結果が出たという。

火星探査機マーズパスファインダーが日本時間で七月五日に着陸してからは、NASAがインターネット上に逐一新しいデータや画像を公開するようになりましたので、それらを閲覧しておりましたところ、これまでは不明瞭だった隠蔽事項らしきものの実相が、いささか具体的にわかるようになりました。以下は考察事項の概略です。

1・大気密度について

公開情報では、火星の大気は地球の地表大気の約一〇〇分の一だとしており、高度が増すにつれてさらに希薄になってゆく測定グラフが発表されています。このグラフの信憑性を評価するために、もう一つの別のグラフを使うことにしました。

大気圏に突入して着陸するまでの間、時間経過と減速の過程が見て取れるグラフをNASAは公開しております。このグラフを分析すると、突入開始時点での初速度が約七〇〇〇m／秒であることがわかりました。この値は軌道計算によって得た速度とも一致しますので、公開された減速グラフは信頼できる数少ない証拠であると考えます。

次に、火星上空からの大気突入シミュレーションプログラムを開発し、コンピューターによって計算してみました。（反重力の研究にて、惑星上での物体の落下についてはさまざまな角度から検討してきましたので、この手の問題は得意とする分野です）。計算には、着陸船の寸法と重量が必要でしたが、ちょうど植木淳一さん（日本GAP会員）も火星について調査されていましたので、教えて頂きました。シミュレーションの目的は、公開されている減速グラフとシミュレーション結果の一致性を確かめることです。計算するにあたって、当然のことながら火星上空の各所の大気密度のデータをあらかじめインプットしました。

コンピューターは、着陸船が時間と共に減速する過程を出力したのですが、NASAが公開した減速グラフと合わないのです。いろいろ条件を変えながら何度計算しても充分減速しないうちに地表に激突してしまうのです。

このことは、公開されている火星大気の密度では、安全に着陸することはできないことを意味しています。

では、どれくらいの大気密度があれば公開されている減速グラフとシミュレーション結果が一致するでしょうか。このことを調べるために、インプットした大気密度データにある倍率を掛けてみました。その倍率が約三〇倍のときに、コンピューターは実際の減速過程を出してくれたのです。三〇倍という大気密度は、地球ではチョモランマ（エベレスト）の頂上の大気密度に近い値です。チョモランマ頂上では酸素ボンベを使わなくても人間は呼吸できますので、計算結果が正しいのであれば、火星地表の大気も人間が呼吸することができるかもしれません。

2・空の色について

大気が太陽光線を散乱する原理は大気の組成に無関係であることが定説です（電子通信学会編「電磁波工学」に散乱理論が詳しく述べられています）。太陽光線は、大気分子や浮遊するチリによって散乱されますが、波長の短い色成分ほど強く散乱され、結果的に空が青く見えるわけです。この原理は大気が透明であるかぎり、どの惑星上空でも等しく働きます。

朝や夕方の空が赤っぽく色づいている理由は、低い仰角の光線は彼方から分厚い大気層を通ってくるので、青色成分が散乱により充分抜き取られており、もはや暖色系の色しか残っていないためです。

インターネットで公開された画像では、火星の日の出や日没時の空の色も赤いのですが、昼間の色も赤いのです。これは矛盾しています。朝焼けや夕焼けが鮮やかな紅に色づいているのであれば、昼間は当然青くなければならないのです。このことをつくろうかのように八月二八日の朝日新聞夕刊に「火星の夕日青かった」という見出しの記事が写真入りで掲載されました。青い夕焼けの写っている一カットと全く同じものがインターネット上の写真の中にもありますが、それは鮮やかな紅の夕焼けなのです。

3・空の明るさについて

空の明るさは、光の散乱の量によって決まります。光の散乱の量は大気の濃さに比例します。つまり空をカメラで撮影する時の適切な露光時間は大気の濃さに比例するわけです。パスファインダーが送ってきた画像の中には地表と空の両方が写っているものが数多くありますが、地表と空が同程度で写っていることは何を意味するのでしょうか。地表の明るさは直射日光によりますから、露光時間は地球のそれとあまり変わらないはずです。もし大気密度が地球の一〇〇分の一しかないのであれば、空は真っ暗に写るはずです。

ホワイトサンズUFO搭乗事件(2)

UFO Pick-Up At White Sands
by Daniel Fry/Translated by Hachiro Kubota

ダニエル・フライ／久保田八郎訳

〈前回までのあらすじ〉
一九五〇年七月四日の夜、米ニューメキシコ州ホワイトサンズのロケット実験場で技師として活動していたダニエル・フライは、暑さに耐えかねて砂漠地帯へ散歩に出かけたとき、突然空中から不思議な円形の物体が降下して眼前に着陸した。驚いている彼の耳にどこからともなく人間の声が響いて、地球の科学の誤りその他について説教し始めた。フライは茫然として聞くのみ。これは実際に発生した驚異的な事件として世界のUFO研究界を動揺させた。この記事は彼の手記の全訳である。

基本的な真理は簡単なもの

異星人の声は続く。

「そして基本的法則は今や分かれ始めて反対の方向に散らばり始めていることに気づきます。すると科学者は心によって受け入れられる知識の限界に近づいていることや、あらゆる物理的な法則は究極的には全く統計的なものになるという結論に達します。これは地下鉄の列車に乗って行くようなものです。たぶん最後には目的地へ着くでしょうが、どこへ行くかが分からないために、同じ場所へ着くのにもっと短くて容易な方法があることを確かめることができません。あなたがたの科学は今こんな立場にあるんです。

たとえば地球の科学者は電子が粒子で、波動性の二重性をもつものと定義せざるを得ない状態にあります。彼らは電子は確率波をもつ粒子だということによってこれを正当化させようとしています。これは心中で描くことのできない状態であって、そのために進歩の唯一の方法として抽象的な数学に頼らねばならなくなります。

正しく眺めれば、基本的な真理は常に簡単で理解が容易なのです。

だから幹の上から眺めれば、枝は〝枝〟として簡単な、理解の容易なものになるのです。てっとりばやく言いますと、あなたがたの科学が進歩し続けるために必要なのは、あなたがたがとまっている枝から枝との分岐点まで降りて、ふたたび登り始めることです。これを実行しようとするのなら私達が援助してあげられますが、ただしあなたがたが援助を望んで私達が示す道に従うならばのことです。しかしこれは未来のことです。

地球人を援助するための条件

私達が地球人を援助する前に二つの事が達成される必要があります。第一に、私達の（訳注＝これは異星人を意味するが、我々の太陽系とは異なる別な太陽系の惑星から来た人を意味すると思われる）肉体が地球の環境に生物学的に順応するようになることです。そうすれば地球人の中に入り込んでも間違えられなくなりますからね。

第二の条件はもっときびしい。地球の各国間に存在する政治的緊張が和らげられる必要があります。地球の二大国が互いに相手に対して決定的な科学的勢力をもつようになれば、当然絶滅の戦争が起こるでしょう。私達は戦争を起こす国を助けるために来るのではなく、戦争を起こす動機をなくすような、ある程度の進歩をうながすために来るんです。私達も数千年昔、自分達の戦争の動機をなくしたんです。

だが、待てよ――あなたは砂の中に立って科学や社会のあり方に関する話を聞くのにくたびれてきたようですね。

この宇宙船は遠隔操縦の貨物輸送機

それで私の方がもてなし役だということを思い出しましたよ。

船体の中へ入って少し飛んでみませんか。これは遠隔操縦の輸送機なのだが、単調ながらも全く快適な二～三人用の椅子のついた小さな乗員室もあるんです」

私は答えた。

「船体の中を見せてもらえれば嬉しいのだが、しかも乗せてもらえるとすれば有難いね。だが、どんなふうにして入ればいいの？　船体の周囲を一周したけれど、入口らしいものが見当たらないよ。しかもあなたは地球の大気に慣れていないと言ったじゃないですか。私が中へ入れば体といっしょに空気を

持ち込むことになるはずだ。あなたに何かの影響を与えるんじゃないですか」

「前にも言ったように、この宇宙船は遠隔操縦の貨物輸送機です。私はこの宇宙船内にいるのではなくて、あなたが〝母船〟と呼ぶかもしれない司令船内にいるんです。それはいま地球表面から約一四四八キロメートルの位置にいます。この貨物輸送機は地球の大気の見本の採集に使用されます。

それで我々は自分の体をそれに慣らすことができるんです。貨物船倉をカラにすると、取入口を開くとともに船倉は空気で満たされる。また空気中の細菌も、研究や抗毒素の製造用に空気といっしょに取り入れられます。取入口は船体の頂上にありますから、さあ、それを開くことにしましょう」

船体内に入るフライ

すると船体の頂上からシュッという、つぶやくような音が聞こえた。私はその音の小さいのに驚いた。一五秒間でこの大きさの船体を空気で満たせるほどの大きな船倉ならば、すごく大きな音が出るはずだからだ。

そこで、この船体はほとんど防音になっていることに気づいた。しかも吸い込まれる空気の音のほとんどは船体の内部で発するだろうから、外にはほとんど聞こえないのだろう。

イラスト／池田雅行

すると船体表面からカチッという音が一回だけ聞こえた。小さな音だがするどくて、シングル・アーム・リレーまたはソレノイドの作動のために起こるような音である。

見ていると、そのうちに船体の左側の一部分が数インチほど引っ込んで横に動き、船体の壁の中に消えた。すると高さ約一メートル三〇センチ、幅九〇センチのタマゴ型の入口が現われた。

私はその入口の方へ歩み寄って、頭を少しかがめながら入口の中へ入って行った。もちろん船体の湾曲のために私の足はまだ地面にあったが、頭は中へ入っていた。

不思議な透視装置のある内部

のぞき込んで見た乗員室は船体の小部分を占めているにすぎない。奥行約二メートル七〇センチ、幅二メートルほどの部屋だが、床は地面上約四〇センチの所にあって、天井は床から二メ

ートルばかりの高さがある。壁はわずかに湾曲して、壁と壁との接合部は斜めになっているので、鋭い角はない。もちろん私に最も近い角は船体そのものであり、内外に同じように湾曲している。この壁は約一〇センチの厚さがあり、ドアーがこの壁の中に引き込まれている。

この部屋には四つの椅子があるが、それは地球の近代的な〝体にぴったり合う椅子〟によく似ている。ただし地球のものより少し小型である。各椅子は私が立っている入口に向かっており、部屋の中央に二つずつ二列に並んでいる。椅子類と両壁の間には通路がある。

うしろの壁の中央の天井と接する所にパイプとレンズの付いた箱のような物があるが、これは小型映写機に似ている。しかしフィルムのスプールやその他の可動部分は見当たらない。このレンズから光が出ていた。映写機から出るような光線ではなくて散光状の輝きだが、べつだん強烈ではなく、心地よく眺めるのに充分な光量を放っている。

この椅子と照明がなかったらガランとした金属製の部屋にすぎないが、これらがただ一つの器具であるようだった。

「これはどう見ても招待用の部屋ではないな。まるで独房だ」と私は思った。

時速一万三千キロの飛行！

声が響いた。

「前にも言ったように殺風景な部屋だが、椅子は座り心地がいいですよ。乗りたければ中へ入って座りなさい。あまり時間がないんだ」

ほとんど自動的に私は船室の床に足を踏み入れて椅子の一つに向かった。座る前にカチッという音がして、背後の壁の中からドアーがすべり出始めた。

本能的に私は後ろの広々とした荒野の安全な場所へ飛び出ようとするかのように半分振り向いたが、ドアーはすでにしまっていた。もしこれがワナだとすれば、私はすでにその中に閉じ込められている。逃れられないワナに対してもがいても無駄だ。

「どこへ行きたいですか」

と、また声が響いた。今度は私のそばから聞こえるのではなくて、むしろ体の内部から響いてくるような感じがする。まるで自分がしゃべっている言葉を聞いているかのようだ。

「あなたの持ち時間内にどこまで連れて行ってくれるのか見当がつきませんよ。おまけにこの部屋には窓がないので、どこへ行こうとかまいませんよ。私には何も見えないんだから」

すると返答が響いた。

「あなたは外を見ることができるんです。少なくとも夜間に飛行機から見れるほどには見えるんだ。こちらのすすめを受け入れてもらえれば、あなたをニューヨークへ案内して約三〇分間でここへ連れて帰ってあげましょう。約三二キロメートルの上空から見るニューヨークの夜景は、この地球上で最も印象的な光景ですよ」

「ニューヨークへ――三〇分間で――帰ってくる！」と私はわめいた。

「そうなると時速約一万三千キロメートルになるぞ！　いったいどうしてこんな宇宙船にそれほどのエネルギーが出せるんだ？　この椅子には安全ベルトも付いていないじゃないか！」

「あなたは加速度から悪影響を受けることはないんです。実際には加速度というものを全く感じないでしょう。とにかく座りなさい。発進させるからね。飛行中に何か分からないことがあったら説明してあげますよ」

私はドアーに最も近い左前側の椅子に座ったが、それが実に座り心地のよい椅子であることを知った。作られた材料はビニライトのカバーをつけたフォームラバーのように感じられたが、外側のカバーには縫い目やつなぎ目がなければならないのに、そんなものがないところを見ると、材質が何であるにせよ、たぶん一回だけの工程で型にはめて作ったものだろう。

透明になったドアー

するとまた声が聞こえてきた。

「船室の照明を消して透視光線をつけましょう」

その瞬間、室内は真っ暗になった。そして映写機のような物がふたたび作動し始めた。今度は散光ではなくて、映画またはスライド映写機のような光線である。この光線は可視スペクトルの最上端の濃い紫色だ。これがドアー部分に広がった。

このドアーは最初のときのように壁の中に入り込まないで、ただ存在しなくなったのである。少なくとも見た目には消滅したのだ。まるで極上の板ガラスの澄んだ窓を通して見ているような気がする。

「この宇宙船や我々異星人について、あなたが知りたいと思う物事のすべてを完全に理解させるほどの時間はありません。だが、あなたにとって奇妙と思われる基本的な原理を少しは説明できるでしょう」と声が言った。

というよりも私の声が言ったのだ。なぜなら、聞こえてくる音声は音波として耳に入ってくるのではなくて、私の脳の中で直接に発生していることに気づき始めたからだ。

「あなたが見ていたドアーは透明になったんです。このためにあなたは驚いています。というのは、あなたは金属というものを完全に不透明なものとして考える習慣があるからです。しかし普通のガラスは金属類と同じほどの密

●デザートセンターのUFO

1997年1月1日、日本GAP内の支援グループ「黎明会」のメンバー12名と久保田会長が、1952年11月20日にジョージ・アダムスキーが金星人と会見した米カリフォルニア州デザートセンターの砂漠地帯を訪れたとき、午後3時30分頃、南の上空に出現したUFOを全員が目撃して歓声をあげた。そのとき加藤純一本部役員幹事がビデオで撮影した写真。秋山眞人氏によればアダムスキー型のスカウトシップが横倒しになった姿であるという。©日本GAP

●世にも不思議な写真

1997年10月5日、日本GAP月例セミナーが都内港区東京タワー前の機械振興会館6階67号室で開催された際、最初に挨拶に出た篠芳史司会者を西川太が撮影して後日現像に出したら、まるで二重写しのように司会者にダブって風景が写っていた。この風景は本部役員幹事・加藤純一の川崎市の自宅前の光景だという。西川はこの風景を撮影した事実はない。しかも不思議なことに風景は画面中の黒板の面積だけに写し込まれている。秋山眞人氏によると、たぶんスペースピープルの操作によるもので、篠司会者に対して「心の透明な人間になれ」というメッセージが伝えられたのではないかという。黒板の背後はカーテン。©日本GAP

度があり、しかも固いのですが、それでもたいへん容易に光を透過させます。

いま、ドアーの金属の表面に作用しているエネルギーの放射線は、いわば周波数増大器ともいうべきものです。この放射線は金属を透過して、そこへやってくる光に作用します。これは光の周波数が、あなたがエックス線として知っている物と宇宙線スペクトルとのあいだの幅の周波数にまで増大されるからそうなるのです。

このような周波数になると光は全く容易に金属を通過します。そこでこの波がドアーの内壁上で金属から離れるとき、ふたたび放射線と相互に作用しあって、光の元の周波数と同じのいわゆるビート周波数を生じさせます。そこであなたは表面的には金属を透して見ているようにみえても、実際には再生像を見ているんです。そちらの準備ができたら宇宙船を発進させましょう」

本能的に私は座席の中に自分をしっかりと埋めて、両手でひじ掛けを握った。

凄まじい上昇力を示す宇宙船

小さい丘の向こうに隠れていた実験場の陸軍基地の灯火が急に視界に飛び込んできて、母鳥から呼ばれたヒナ鳥みたいにいっしょに流れ始めた。数秒後にはラスクルーセスの町の灯火が窓の左下方に見えてきて、わずか二〜三秒間で少なくとも約三〇〇メートルも上昇したことがわかった。船体は上昇するにつれて左の方向へわずかに回転している。

ラスクルーセスからエルパソへ続くハイウェーも見える。狭い道路だけれども、そこを走っている無数の自動車のヘッドライトで、道はきらめくリボンのように輝いている。エルパソとシウダドホアレスの灯火は地平線上の固まった鈍い光にすぎなかったが、上昇するにつれて、それが接近して、種々の光の帯のように分かれてくるように思われた。プレシディオ地域を示す光の帯や、フォートブリスの無数の灯火、エルパソ下町地区の強烈な灯火帯なども見える。またエルパソをメキシコ側のシウダドホアレスから分けているリオグランデ川の薄黒いスジを識別できたと思った。さらに数秒間たって船体はなおも回転していたが、やがてこれらの都市の灯火がスクリーンの右手の端に消えてしまった。

透視スクリーンはいま南東の方向に向かっていて、船体の回転は止まっている。もう地球の表面はかすかな緑色のリン光を発して輝いているように思われた。同時に船体の外の空はうんと暗くなり、星々の輝きは倍になったような気がする。

「成層圏に入ったにちがいない」と私は思った。「そうだとすれば、一五ないし二〇秒ほどで一六キロメートル以上も上昇したのだろう。だが加速の感じが全くしない！」

すると声が聞こえてきた。

「あなたはもう地表から約二一キロメートルの所にいるんです。そして秒速約二・四メートルで上昇しているんですよ。少し速度を落としたから、空中から地上の都市をもっとよく見ることができるでしょう。水平飛行をするために約五六キロメートルまで上昇させましょう。その高度なら船体の動きに対してほとんど抵抗を示さないほどに空気が希薄になってくるんです」

私はたずねた。

「ところで月はどうなったんです？私が船内に入ったとき、月はちょうど昇ってくるところだった。まだ空中のどこかにいるにちがいないが、外は何もかも真っ暗ですよ」

声が響く。

「暗く見えるのは光を散らすほどの充分な空気がこの高度にないからです。月がスクリーン上に直接輝かないかぎり、月光の形跡はあなたには見えないでしょう。月光は大気の上で非常に激しく輝いているので、私はわざと船体の回転を止めて月光をスクリーン上に出さないようにしたんです。月が見えているあいだに他の物を見るのは不可能ではないにしても困難でしょう。あなたはもう垂直に水平運動を加えるほどの高度に達していますよ」

人体が物凄い加速度の影響を受けない理由

声は続ける。

「このあとの数分間は見て面白いものはないでしょうから、ここであなたが疑問に思っていた二〜三の物事について説明しましょう。

まず第一にあなたは〝安全ベルト〟について何か言って、加速に耐え得るかどうかと考えた。これは地球の科学者たちの心にしばしば浮かんでくる疑問ですね。

我々の宇宙船が地球人から観測されるときや、宇宙船の速度とか加速度について話が出るときには、彼らは必ず不信感を起こします。地球の一流の科学者が次のように言うのを聞いたことがあります。『人間その他の高等生物が、この種の（宇宙船の物凄い）加速度に耐えられるはずがない』と。

これは地球人の知性を評価するときに、いつも我々を失望させる問題でした。地球の一般的な知識をもつ普通の知的な素人でさえも、この言葉をただちに否定できるはずです。もちろんこの解答は簡単です。船体を加速させるフォース（力）が、船体自体のあらゆる原子ばかりか内部に乗っているパイロットまたは乗員などの人間のあらゆる原子にも等しく作用するのです。地球の飛行機は状況が全く違います。プロペラまたはジェットエンジンが付い

ていて、それが機体の一部に推力を加えます。この部分的な推力が機体を加速しますが、パイロットの体までは加速しません。パイロットは座席に密着している肉体の各部分を押しつける推力によって加速されるにすぎません。すると肉体の他の部分の慣性のために圧迫が生じて、そのために加速感が起こり、極端な場合は意識不明または肉体の崩壊が起こります。我々の加速度の唯一の限界は、利用し得る力の限界なのです」

（訳者注＝以上の件についてもっとわかりやすく説明すると、異星人の宇宙船は船体内部に人工的な引力（正しく言うと重力場）が発生させてある。この引力が内部にいる人間の肉体を引っ張っているので、凄いスピードで進行しても回転しても、飛行機やジェットコースターで体験するような、いわゆるGフォースと呼ばれる壁に押しつけられるときの圧迫感を人間は感じることはなくて、地上にいるときと同様に平然としておられる。地球が物凄いスピードで自転していても人間が宇宙空間に放り出されないのは、地球の引力が人体を引っ張っているからで、宇宙船もそれと同じ原理で作動しているから超高速で進行していても内部の人間はなんともないという意味。この原理はアダムスキーも説明している。したがって地球の航空機も異星人の宇宙船のような人工的な引力を発生させる装置を開発しないかぎり超高速の宇宙船の開発は不可能である。宇宙船に人工的な重力場を持たせて惑星の重力場と釣り合わせるならば船体は空間で無重量状態になるので、あとはわずかな推力で想像を絶するスピードが出せることになる。この推力も燃料を使用する噴射推進方式によるのではなくて静電気を利用する。アダムスキーによれば金星のスカウトシップ〈直径約一〇メートルの二～三人乗り円形探査船。俗に空飛ぶ円盤と呼ばれる〉は秒速で地球を二回半回るほどのスピードが出るという。地球の科学はまだここまで思い及ばないという意味のことをフライの乗った宇宙船の遠隔操縦者が述べているのである）

なぜ無重量状態にならないのか

「しかしこの場合、なぜ私は落下する飛行機の内部の人間や物体のように船内の空間に浮かばないのだろう？」と私は思った。

すると声が響いた。

「その理由も全く簡単です。船体が動き出す前にあなたは椅子に座った。するとあなたの肉体と椅子の間に一つの引力が作用したんです。船体とあなたの体の両方を加速するこの力は等しい割合で物体に作用するし、地球の引力もこの両方に作用し続けているので、あなたの体と椅子との間の元の力はいつまでも残っている。ただし地球の引力が距離とともに減少するにつれてその力も減少します。

惑星と惑星の間を飛行するときには自然の引力の場からはるかに離れてしまっています。それで実際的な理由によって、この引力を人工的に作りだす必要があるんです。私たちの体が慣れている引力は地球の引力の半分程度にすぎません。だから我々が地球人の仲間になるのに多くの時間がかかるわけです。

いま我々が地球の表面に着陸して船体の保護装置をとり去ると、地球の強い引力のために我々の肉体の内臓にひどい緊張が起こって、数日間で重病となり、ついには死ぬでしょう。これは単なる予測ではありません。過去に数度発生したために真実であることがわかっているんです。我々が受けるその地球の引力をコントロールすることが可能な宇宙船内にとどまって、わずかながら一定の増加力によってその力を増すことにより、我々は肉体の補充組織を作りあげて筋肉を増加できるし、やがて地球の引力をも我々の引力と同じほどに自然に利用できるようになるでしょう。

そうなったら、あなたやオープンマインド（寛大な心）をもつ少数の地球人が我々を援助して、我々とあなたがたのあいだに存在している大きな淵に橋をかけることができるでしょう。

しかし前にも言ったように、我々は自分の知識や文化を地球人に押しつける気は毛頭ありませんし、地球人がそれを望んでいるという明確な兆候が出てくるまでは、地球人に近寄ることもしません。

この地球探査の目的は全くの博愛のためではありません。地球人と我々の両方の進歩のために利用できる物質が地球にあるんです。それは地球だけにあって、この太陽系の惑星にはほとんどないような物質です。我々はこの物質の利用を望んでいるのですが、我々の地球人に対する奉仕はこの物質と引き換えに行なわれているのではありません。こちらから与え得る知識または援助は自由に提供されるんです」

宇宙船の作動原理

「この宇宙船の作動原理を説明してくれませんか」と私はたずねた。

「この宇宙船をこんな高速に加速できるほどの物凄いエネルギーをどのようにして作り出すのですか？　またそのエネルギーを応用しているという形跡を外部に洩らさないで、どんなふうにそれを応用しているんですか？」

声が説明した。

「それを説明するには基礎物理学の全く新しい原理をあなたに伝える必要があります。前にも言ったように、あなたがたの科学は一本の低い枝を知識と

いう全体の樹木に変えていて、そのために科学がひどく複雑になっているんですよ。だからこの地球の科学が実用面で応用されると、出来あがった装置は手が出ないほどに複雑になるんです。

あなたがたにとって最も必要なのは、自然の基本法則または事実は全く簡単だということを悟ることにあります。そうすればあなたがたは現在不可能と思われている物事を容易に生みだすことができるでしょう。（訳注＝宇宙船の作動原理については、異星人があとで述べている）

アインシュタインは間違っていた

地球の技術者が貨物または乗客の乗物を造る場合、彼らは推力として乗物自体の中にエネルギー発生装置を備える必要があると考えています。しかし地球人の祖先は数千年間、船に乗って地球のあらゆる場所へ旅行しました。この船（訳注＝ここでは帆船）というのは内部にエネルギー源を持たないので、全く大気のエネルギー（訳注＝風）によって動かされるんです。これは頼りになるエネルギー源ではないのですが、けっこうまくいったものですから、自然界では多くのタイプのエネルギー発生源がいつも利用できるということを地球人に気づかせたはずです。ですから望ましい結果を生み出すためには、エネルギーの流出を見るような方法を講じさえすればよいのです。

あなたがたの科学の急速な進歩に対する根本的な障害の一つは、科学者たちが物質とエネルギーの簡単な同一性をまだ充分に把握していない点にあります。地球の最大の思索家の一人であるアルバート・アインシュタイン教授は、ずっと以前に物質とエネルギーの同一性を量的にあらわした数式を発表しました。この式は数学的には全く正しいのだけれども、誤った結論に達しています。つまり物質はエネルギーに転換するし、その逆にもなると言っていますが、実際は物質もエネルギーも一つの実体の異なる面にすぎないのです。

二つの次元をもつ幾何的な平面を考えてごらんなさい。この面があなたの視線に対して直角をなすとき、あなたはそれを平面と感じます。これはその実体の物質面をあらわします。つぎにあなたがその面を九〇度ほど回転させると、その面はあなたの視界から消えて一次元のみとなります。これはその実体のエネルギー面です。

あなたはその面を取り替えたわけではない。ただ観点を変えただけです。技術的に言えば関係位置を変えたのです。一定の物体に含まれていると思われるエネルギー量は、一定の観測者にとって質量エネルギー軸を中心にそれがどれぐらい回転したかにかかっているんです。別な関係位置から同じ物体を見ている別な観測者は、全く異なる量のエネルギーを見るでしょう。

宇宙空間を進行している二個の惑星のそれぞれに一人ずつ観測者がいるとしましょう。この惑星はいわば光速の半分で動いているとします。しかしどれも等速度で平行に進行しているんです。もし宇宙空間に他の天体が存在しないとすれば、二人の観測者は当然のことながら自分たちの惑星は運動エネルギーを持たないと考えるでしょう。なぜなら二人の関係位置が同じエネルギーレベルにあるからです。そこで三番目の惑星を置いたとして、これが空間に静止しているとすれば、二人の観測者は自分たちの惑星が相関的には運動エネルギーを持たないのに、第三の惑星に関しては凄まじいエネルギーを持っていると感じるでしょう。しかし実際にはどの惑星が動いているかを決定する方法はありません。ただ惑星間に相対的な運動または異なるエネルギーがあると言えるだけです。しかし物理的な問題についてはまたあとで話す時間があるでしょう」

素晴らしいニューヨークの夜景

異星人の声が続いた。

「北方に見える大きな都市はセントルイスで、前方のひっそりした地平線上の輝きはシンシナティーです。するとまもなくピッツバーグの町の光が見えますよ。

私たちが地球の英語ばかりでなく地球の地理についてもずいぶん学んだことはあなたに分かるでしょう。アメリカの歴史は私たちにさほど知られてはいません。あなたがたの民族は過去に関して多くを考えないからです。もちろん地球の太古の文明の歴史はあなたがたよりも私たちの方がはるかによく知っているんですがね」

この最後の説明はそのときの私の意識に焼きつかなかった。シンシナティーの灯火が約五六キロメートル下方の地上で音もなくこちらへ押し寄せてくるのを夢中になって見つめていたからだ。

東部への空中旅行のために、月はいまや頭上あたりにあるにちがいないが、地表はその反射光の形跡をほとんど示してはいない。ニューメキシコ州で上昇したときに見た緑色の燐光はほとんど消えている。私は地表の反射光の測定についてはほとんど聞いたことがなかったが、この高さで暗黒に近いことから判断して、少なくともその地域の反射はきわめて低かったと思う。もちろん私が判断の基準としたのは月光だけであり、また反射光の正確な見積りをするのに地表からあまり離れていなかったのだ。

シンシナティーの灯火は今や大体に真下にあった。無数の灯火がひしめいていて、しかも密集しているので、そ

の多くを個々に識別することはできない。なんとか見えたのはある大きな篝火である。それは輝く炭層に燃え広がっていて、まるでスポットライトの中の水晶のようにきらめく凄く明るい光点が二〜三ある。

もちろんシンシナティーがこの位置から見えるただ一つの都市ではない。約五六キロメートルの高度からは視界がかなり伸びるし、透視スクリーンのせまい範囲内でも、いつでも同時に文字通り無数のさまざまな大きさの〝燃えさし〟や火花や光点などを見ることができた。それらはすべて人間が同居していること、仕事が行なわれていること、ガイドビーコンがあることなどを示していた。

「あと数分間でニューヨークの上空へ来ますよ」と自分の中で響く声が聞こえてきた。

（以下次号）

（次号ではテレパシーの受信法、円盤推進の基本原理等を異星人が説明する）

●カナダのUFO

一九七三年六月、カナダ、オンタリオ州に出現したUFO。目撃者は男二人。一人がカメラを取り出して連続七枚撮影。氏名は伏せてある。

宇宙論の疑惑と

ニセ宇宙開発報告類①

False Theory Of The Cosmos And Fake Report
On Space Exploration　by Yoichi Koyama

小山洋一

崩壊したビッグバン説

素人の私がこんな事を書くのは僭越の至りですが、勉強するにつれてやむにやまれぬような気がわいてきたからです。

一点目は現代の宇宙論がアインシュタインやホーキングなどの数学愛好家の説を鵜呑みにしているからです。数学で割り切れる宇宙論などあるはずがないからです。数学自体が一つの方程式で割り切れないのに、宇宙が割り切れるはずがないからです。理論のみが先行してしまったのです。科学は本来実証主義だったはずで、実験や観測にそぐわない時点で捨て去る勇気を持たねばなりません。宇宙がビッグバンより始まり、一〇〇億年か二〇〇億年の歴史しかないという説は、少なくとも八〇〇億年はかかるといわれる超銀河の大集団が一九九〇年代にかけて発見されたことにより、根底から覆ってしまいました。定常宇宙論、アルベーンのプラズマ宇宙論（オーロラから重大なヒントを得て、従来の重力理論で説明できない銀河の渦巻構造をコンピューターで完璧に再現しました）が脚光を浴びることになりました。

さらにビッグバンのもう一つの根拠というべき赤方偏移が遠くの星ほど大きいと思われてきたのに、ホールトン・アープ博士が、若い星ほど赤方偏移していることを発見したのです。しかもいちばん赤方偏移している星はいちばん近くにあったのです。彼はパロマー天文台で観測に没頭した人です。つまり実証主義であって理屈屋ではありません。

アホー派の虚構

さらにもう一つの根拠としてのブラックホールなど証明もされていないし検証もされていないのです。観測事実と矛盾が多すぎて、ホーキングなどがその穴をつくろうのに必死になっていますが、ますます拡がっているのが現状です。

またアインシュタインの相対性理論は、ログノフ博士が「相対性理論を独自に打ち立てたのは（一九〇二年）ポアン・カレである」と発言しています。いま二人の科学者を否定するには勇気が必要ですが、現代科学を中世のごとく遅らせていることをお知らせしたいからです。ゲーテは「科学者を進歩的であると思うのは大間違いで、彼らは作った理論を必死に守るだけだ」と言っています。

ア（インシュタイン）ホー（キング）理論が全世界にはびこって大きなピラミッドを構成し、それに反対する理論や科学者を排除し迫害すらしています。ホールトン・アープ博士はアメリカに居ずらくなってドイツのマックス＝プランク研究所におられます。彼はアメリカにいたとき、アホー派（アインシュタイン、ホーキングの主流派）の有名な科学者からこう言われたのです。

「物事はそういうものだ。我々には金があり、君達にはない」

アホー派には国から予算がまわってくるのです。同僚からは「君の研究は正しいかもしれないが、ビッグバン理論を否定しているから間違っている」と言われるのです。私が感銘を受けた本『ビッグバンはなかった』エリック・・J・ラーナー著（河出書房新社）をお読みになって見解を承りたく存じます。

相対性理論の誤り

科学者は常に真実に謙虚でなければなりません。権威にはウソが多いからです。レーザージャイロは相対性理論の誤りを証明しています。光がジャイロの中でアインシュタインの言うように変化を起こさないものなら、日本のN2ロケットはどの原理で世界一の正確さで飛んでいるのでしょうか。光の精密な観測ができるようになったあとでさえ、機械の伸び縮みによる誤差であると結論づけたのです。まず最初に相対性理論ありき、なのです。

フィッシャーのだまし絵の中に、永久に階段を昇り続ける絵があります。これは二つの点を私たちに教えてくれています。相対性理論から抜け出せずに永久に進歩をやめてしまう点。絵の上では成り立っても、現実には成り立たないものがあるという点。つまり数学では成り立っても現実には存在しないのです。光の絶対性の出発点が誤りであれば、難解な数学でいくら説明しても意味がありません。光が太陽のそばを通過するとき、空間が重力で曲げられて光が曲がるなども、たんなるプリズム現象の可能性が高いのです。

数学が万能ではない

ホーキングなど数学が大好きですが（私も好きですが）数学が万能とは思いません。ビッグバン以前が虚数時間と言い出して顰蹙をかっています。ホーキングを世に出した恩師でさえ否定を始めました。相対性理論にあらずば物理学にあらずという雰囲気があるのです。まして若い研究者などクビになる恐怖や笑いものにされないかと心配でしょう。最近は国立大学の教授のなかにも公然とビッグバンを否定する

人が出始めました。自由に発言できなければ科学に進歩はなく、現代は中世の時代にあると言わねばなりません。

月面探査結果のごまかし

次に太陽系には高度な文明があるという事実です。私はこの点については先の点ほど簡単には説明しにくいのですが、米ロの二大国によって発表されている事実の多くがデタラメなのです。

ＮＡＳＡは月には大気も水もないと言っていますが、月に大気や水があることは簡単に証明できます。月に落ちる隕石は地球と同じく光り輝きながら燃えます。これが大気がある証拠です。月面に着陸したアポロ飛行士が立てたアメリカ国旗が風になびいたこと。これは後に針金入りで固定しました。ビデオで見れば誰でもわかります。

（編注＝月面の旗のひらめきはビデオで明確に確認できる）

これは重大な点を二点証明しています。ロケットは一グラムでも軽量化しなければならないという至上命題があります。一グラム軽くするためには数千万円かけることも安いのです。まして月着陸船です。一段目ロケットとはわけが違います。真空中で針金で旗を固定する必要性は全く考えられません。このことは米政府が月に大気がある事を知っているということ。その事実を隠そうとしているということです。

次はＮＡＳＡが発表した月面写真の少なさと、ほとんど白黒です。カラーは修正しにくかったのです。遠くの写真（天体望遠鏡並み）と近くの写真だけ異常に鮮明です。中間距離は砂漠に修正されています。月に乱反射の光や霧が写っている写真は沢山あります。

火星探査報告の欺瞞

火星に探査機がパラシュートで降下したのに、ＮＡＳＡは火星には大気はほとんどないと発表しました。それなのに火星に台風はどうして起こるのでしょうか

（編注＝一九七六年七月二〇日、ヴァイキング一号火星探査機がパラシュートで火星のクライス・プラニシア地域に着陸。数週間後にヴァイキング二号探査機がユートピア・プラニシア地域に着陸した。それより前の一九七一年にアメリカのマリナー九号が火星周回軌道に乗ったけれども、当時火星全体は巨大な砂嵐に巻き込まれて二カ月間地表を覆っていたと発表された）

火星には人工の運河があるという多くの天文学者たちの血のにじむような観測結果があるのに、ＮＡＳＡは火星探査の結果、運河はなかったと発表しました。

（編注＝一八七七年、イタリアの天文学者スキァパレリが望遠鏡で火星を観測して、火星の表面に巨大な黒いスジが沢山存在することを発見。これは運河と呼ばれた。日本でも有名な火星観測家の佐伯恒夫氏が多数の運河を発見している。しかし一九六九年にアメリカが打ち上げたマリナー六号と七号が火星表面を撮影した写真によって運河説は否定されたが、これもきわめてあいまいな発表であった）

それならＮＡＳＡは、なぜ地球でも観測できる火星の天体写真と、どこで撮ったかもわからない近接写真（おそらく砂漠地帯）しか発表しないのですか。中間距離がまずありません。その理由は火星の森や建物や湖が写っているからです。（ヴァイキングは）五万枚近い写真を撮ったことがわかっていますが、数十枚しか発表していません。最新鋭の大型カメラ六台と観測機器を積んでいました。

火星に着陸したときの最初の写真は空が青かったのです。それで大騒ぎになったことは有名です。それでＮＡＳＡは急きょ空をピンクに修正して、あれは間違いだったと発表し直しましたが、空が青いということは地球と気候が変わらないということを意味します。

ウソの報告類に満ちた宇宙開発

太陽に近い星は熱く、遠い星ほど寒いと教科書には書いてあります。こういう単純な疑問にも答えましょう。それには、ストーブにあたっているようなイメージを思い浮かべられるでしょう。それだと、近づくと大変熱くて離れれば寒いのです。しかし太陽は真空中にあって、しかも大変遠くにあるということです。

もう一点、太陽は電磁調理器のような働きをしています。ご存じのように電磁調理器は手で触っても冷たいのですが、金属が触れると熱を発生します。太陽も電磁作用ですので、地球の大気に触れて初めて熱を発生します。ゆえに大気成分が大きく影響します。

他にもバンアレン帯のような放射線帯が増幅しています。月の重力比が地球の約六分の一というのもウソで、約二分の一です。大気圧も約二分の一です。ちょうどチベットのような大気圧で、減圧室で一日過ごせば酸素マスクも必要ありません。重力比はアポロでの地球と月の重力均衡点の数字で明らかですし、宇宙飛行士が月でジャンプしたときの解析からもわかっています。

月面での宇宙飛行士の活動はスローモーションフィルムを放映しました。また月でのアポロの乗物は六分の一の重力では空回りして運転できないこともわかっています。中央アート出版社の新アダムスキー全集（一～一一巻）の一巻だけを読んで下さい。大きい図書館にあると思います。次に二巻か五巻か別巻をお読み下さってご意見をお聞かせ下されば幸いです。これは真実であると思ってまず読んで下さい。

My UFO Sighting Diary
by Junichi Kato

UFO目撃日記②

加藤純一
日本GAP
東京本部役員幹事

九七年一〇月

●五日（日）東京本部月例セミナーの日。本部役員はセミナー会場の準備等で午前中から集合している。

この日の朝一〇時頃、地下鉄神谷町駅から地上に出て空をふと見上げると、いきなりオレンジ色の二個の物体が視界に入ってきた。かなり高空のようだが回転している様子が確認できる。一緒にいる岡田茂君も見ている。

その約五分後、セミナー会場である機械振興会館の入口付近の上空をゆっくりと通過する白い円盤状のUFOを他の役員三名と目撃。

とにかくこのような出現と目撃は月例セミナー当日にも頻繁に起こる現象なのだ。そういえば六月と八月の月例セミナーの時にもやはりUFOが出現している。

●同じく五日のセミナー中の写真で総司会の篠芳史氏のカットに不思議な風景が写り込む。よく見ると篠氏自身が透明化しているのだ。撮影者の西川太氏によると、月例セミナー用のフィルムはいつも新品で開封直後のものを使用するとのこと。また、ネガをチェックしてみると、一枚目のカットであった。（本号13頁に掲載）

もう一つの不思議な現象はその写真中の黒板に写っている夕暮れ時の風景。実は筆者加藤宅の二階から見た風景そのものが写っているのだ。スペースブラザーズ（友好的な異星人）の光学技術は我々の想像を絶するものだと西川氏とため息をつく。そういえば鑑定用に焼き増しした際に写真屋の店員の方からもあまりの不思議さに、どうやって撮ったのですかと聞かれたくらいだった。これで思い出すのは久保田先生のお言葉である。

「スペースブラザーズの方々は我々GAP会員のことについては、精神状態から生活行動まですべて熟知しておられるのだ」

●三一日（金）UFOの夢を見る。自分で言うのも気恥しいのだが、この夢の翌日からの目撃は凄い。まるで空から降ってくるかのように、そして「よく見つけたね！」といわんばかりに出現して下さった一一月の目撃日記をどうぞ。

九七年一一月

●一日（土）本部役員の岡田茂君とともに家族で都内のM公園へピクニックに行く。実はこの日、久々に井の頭公園で日中観測をしようと一週間前からイメージしていた。しかし当日になって岡田君の「M公園の方がよいのではないか」という意見に何かピーンとくるものがあり、すぐに変更して一人遅れて現地に着くと、予感どおりの出現（しかも複数！）が待っていた。しかもこの日の目撃は合計三回にもわたり、編隊の動きや出現パターン等もよく確認できたのが特徴だった。

①午後二時四〇分から約五分間。まずはじめは駅から公園へ歩いて行く途中で、ふと公園の入口とは逆の空を振り向いて見ると、ビルのすぐ上に銀色の球体が滞空している。発見とほぼ同時にゆっくりと上昇しようとしていた。カメラを向けて撮ろうとするがタイミングが合わない。なるべくフォースフィールドをまとっていない本体を狙いたいのだが―。不思議なのは九四年の一〇月末にもほぼ同じ場所で流星形のはじめて見るタイプの不思議な形のUFOを目撃したことだ。

②午後三時三〇分頃、北西の方向を見ていると突然、空間に金色に輝く楕円形の光体が低空に出現した。これは岡田君と妻も確認した。

③帰りがけの三時三五分から約三〇分間、多くのUFO目撃の中でも長時間にわたる目撃を行なう。岡田君が突然球形の光体を発見。以後、そのはじめの一機を中心として付近の空間に一個ずつ増えて（出現して）ゆき、全部で四機になった。他の一機が動き出すと、その先でまた別の一機が出現するという繰り返しの動きを何度もくり返した。最も興味深かったのは時折（といっても二回）超低空で別な銀色の円盤タイプのUFOが頭上をゆっくりと飛んだのだが、そのまわりを一個から二個の超小型のスキャニングディスクが輝きながら飛び回っていたことだ。

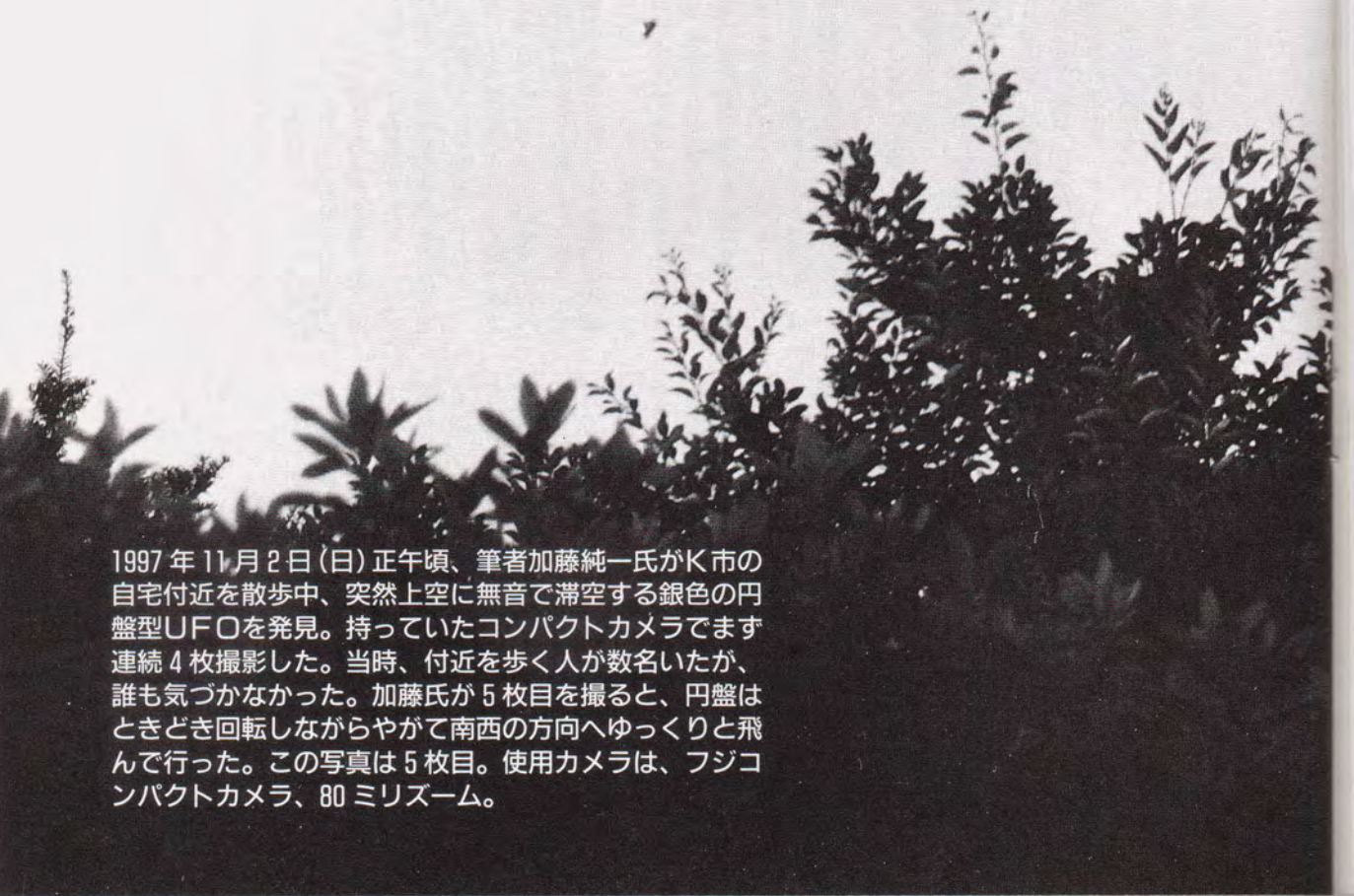
実は九四年にも岡田君と一緒にこのM公園で七機もの楕円型のUFOの編隊を目撃している。このときはもっと複雑なフォーメイションをとっており、北斗七星、正方形、横一直線等、その動きは明らかに知的に操作されていることをはっきりと認識させる動きであった。ここはパワースポットとしても優れているようだ。

●二日（日）この日の目撃には特別な思いが込められている。またも超近距離撮影に成功したのだ。一〇時五〇分頃に第一回目の目撃をする。その後一二時頃に突然頭上に出現！　持っていたカメラで写す（**左頁の写真。他の一枚は本号表紙に拡大写真が掲載されている**）

●三日（月）買い物の帰りにまたも妻と目撃。このときは光体が視界にパッと入ってきた。

（以下次号）

●神奈川県K市上空のUFO



1997年11月2日(日)正午頃、筆者加藤純一氏がK市の自宅付近を散歩中、突然上空に無音で滞空する銀色の円盤型UFOを発見。持っていたコンパクトカメラでまず連続4枚撮影した。当時、付近を歩く人が数名いたが、誰も気づかなかった。加藤氏が5枚目を撮ると、円盤はときどき回転しながらやがて南西の方向へゆっくりと飛んで行った。この写真は5枚目。使用カメラは、フジコンパクトカメラ、80ミリズーム。

私の透視能力開発法

How I Develop My Clairvoyance　by Kazuaki Takanashi

高梨一光（日本GAP伊豆支部代表）

一九五九年、史上屈指のコンタクティー、ジョージ・アダムスキー氏はGAPを設立された。

その直後、久保田八郎先生はジョージ・アダムスキー氏の著書との運命的な出会いを迎えられる。

他惑星と理想的社会の存在を知った久保田先生は、ただちにジョージ・アダムスキー氏と文通を開始された。

一九六一年九月、ついに日本国においてのGAPコーワーカー（同じ活動をする人）となった久保田先生は、日本GAPを設立される。

爾来、UFOと宇宙哲学研究のパイオニアとしてその名はとどろき、今なお壮年を凌ぐインテリジェンスと胆力を駆使し研究啓蒙活動の真っ只中におられることは周知の事実である。

今回「透視」について拙稿をしたためることができましたのも、日本GAP会長久保田八郎先生のご指導の賜物と感謝申しあげます。

「アダムスキー哲学」あるいは「宇宙哲学」は、人間の本質的なものに気づき、それに帰れるようにと指導している。

「内部の印象に従うこと」

「想念観察をすること」

このふたつのことは、日本GAPで幾度となく教えられ、実行されてきたことである。

「テレパシー」その存在を万人が認めた時、初めて平和な世界がやってくる。

今回のテーマである「透視」は、実は、「内部の印象に従うこと」

「想念観察をすること」

の一部分と思っていただきたい。

なお「透視」の開発法や各自の理解の方法は、千差万別と思われますので、私の方法に固執なさらぬよう、拙稿をご覧いただきたいと存じます。

透視とは何か?

拙稿は透視能力開発がテーマであるが、そもそも透視能力とは何であろうか?

グランド辞スパ　for　Windows95　Copyright（c）Gakken1996の国語辞典で「透視」を引いてみた。

②に、（特殊な感覚で）肉眼では見えないものを見ぬくこと。「―力」「―術」

とある。

この見ぬくことという表現はとてもよいと思った。

私は透視能力はテレパシーの一種と考えている。

定義は人によって、さまざまな表現がされている。

例えば超能力のことを超能力と呼ばず、超常能力と呼ぶ人もいる。

超能力はPKとESPに分けられるはずだが、現在ではその本来の意味を失い違う意味としても理解されているようだ。オーラも本来の意味を失い、違う意味にとらえられている。

気功法にしてもそうだ。その意味は時間とともにたえず変化している。

定義はたえず変化しているといってよい。

「これはこのように違う」といちいち目くじらをたてていては一向に先に進まない。

要は上辺だけを見ず、本質を見よということに尽きるのであって、その言葉の意味の本質を知ることにある。

これはジョージ・アダムスキー氏の宇宙哲学を学べばわかることである。

「内部の印象に従う」ことである。

テレパシーというものは何なのかということについては、次のごとき決定的な道標がある。

新アダムスキー全集1

「第2惑星からの地球訪問者」

第II部　驚異の大母船内部

第一二章　偉大な指導者（マスター）との再会

二九三頁　四～八行目

「あなたがたは人間が五つの感覚から成り立っていると主張し、さらに第六感第七感などを加えています。真に存在する感覚を理解し発達させるかわりにこれらの独断的に考えられた感覚を発達させようとしています。

透視力、透聴力、テレパシー、超能力などの力が存在することを明言するのに、一語で全部を表現できるものを少なくとも四つにそれぞれ分類しています。その結果、人間の真の本体が混同され、失われるようになっています」

四つの感覚器官

長い間、ジョージ・アダムスキー氏の宇宙哲学を学んだ人は、テレパシーの感受方法について、次のようにいくつかの要素に分けて感知するのもよいという私の考えをご理解していただけるだろう。

目に関係ある情報は、光、映像などである。

だからどのような光が見えるか、感じてみます。

耳に関係ある情報としては、音、音楽などである。

だからどのような音が聞こえるか感じてみます。

鼻に関係ある情報としては、香りである。

だからどのような香りがするか感じてみます。

口に関係ある情報としては、味である。

だからどのような味であるか感じてみます。

感覚に関係ある情報としては、温覚、冷覚、圧覚、痛覚などがある。平衡覚、深部覚、振動覚などもこれに含める。

だからどのような身体感覚がするか感じてみます。

気分、感情に関係ある情報としては、気持ちよい、気持ち悪い、喜怒哀楽などがありますが、どのような気持ちか感じてみます。

その時自分の身体のどこがどのように感じたでしょうか？

感知した想念はすべて観察してすぐに捨てないで浮かんだままにしておきます。

そして、機を見てそれを整理する。整理する時も内部の印象に従って行う。するとひとつのテーマに関しての真相が浮かんできます。

テレパシーの情報というものは、本来は純粋な波動であるから、センスマインドに達して初めてセンスマインドにわかりやすい形で表現されるといってよい。

テレパシーとは、感知した純粋な波動をその人が普段使用している言葉や映像、その他の表現に変換することである。

テレパシーの発達をさまたげる要素

テレパシーの送受信などがあまり上達しない理由のひとつとして、テレパシーの存在を意識的、無意識的に否定したり、あるいは疑念を抱いていたりすることがあげられる。これが内在していると、なかなかテレパシーは発達しない。だから時には奮起して、

「テレパシーは届く！」

「遠くとも届く！」

「宇宙の意識の力によって完全に届く！」

というように、

「ミラクル・ワード」を唱えたり、「ミラクル・イメージ」を描いたりするとよい。

あるいは理解を深めるために仲間と話しあったり、日本GAP会長久保田八郎先生訳されたところのジョージ・アダムスキー氏の著書を読んだりして、ある程度の論理的な確信も養っておく必要がある。それが自信につながる。またテレパシーの練習は日常茶飯事的に行なうのがよいし、また行なえるものである。第一、毎日の生活そのものがテレパシーであるといっても過言ではない。

「遠いとテレパシーは届かない」というような思い込みに関しては次のように教えてくださっている。

新アダムスキー全集1

「第2惑星からの地球訪問者」

第II部驚異の大母船内部

第6章母船内での質疑応答

二〇四～二〇六頁でオーソン氏はアダムスキー氏にテレパシーについて話をされている。

ここの二〇五頁の6～7行目では、「ここでもう一度言いますと、距離は障害になりません。」

さらに二〇六頁の4～5行目では、「前にも申しましたように―これは特にはっきり記憶していただきたいのですが―地球人のいう空間または〝距離〟は全然障害になりません」

偉大なる透視能力者

透視といったら真っ先に思い浮かぶのは亀田一弘先生だ。

二〇年以上前、日本GAP会長久保田八郎先生が数々のご講演や「Uコン」バックナンバー（旧号）で頻繁に紹介されたところの大透視能力者亀田一弘先生は未だもって史上傑出の透視能力者として語り継がれている。

日本GAP会長久保田八郎先生は長期に渡りこの亀田先生とご親交を深められていた。

この点や他の多くの理由を鑑み、実は久保田先生の透視能力はもちろんのことテレパシーなどの能力は、凡夫には察せられぬレベルにあると私は常々言い切っているのです。

私も一度だけではあるが亀田先生に観ていただいたことがあった。当時の日本GAP機関誌の記事を頼りに日本橋浜町の事務所をお訪ねした。お目にかかり私は驚いてしまった。

これが本当の超能力なのか！

初めての体験であった。

祈禱も行なわず、一切の儀式もない。仰々しく「そうですか。お話は伺いました。少しお待ちください」などと言って目を閉じ沈思することもない。偉大な人であるにもかかわらず、途方もなく謙虚である。

普通に懇談しながら次々と何もかもわかるのには驚き入った。

過去はすべてわかっているようだ。

私自身がすでに忘れていることも話題にしたりする。

驚きながら、そうかこのようにして透視を行なうのかとその方法を肌で覚えようとしたことを今でも思い出す。

偉大なる透視能力者だ。

私は弟子になろうかと考えたが、どうしてもその気にはなれなかった。

宇宙哲学を学んでいる人間は自力でそのような能力を得る方がよいと考えたからだ。

しかし、亀田先生の名著「透視術入門」は何度も読んで勉強は続けた。

亀田先生の著書から透視を学ぶのは、困難を極めた。

懸命にチャレンジしたので少しは成果はあったが、それを他の人に説明しても、他の人にはわかってもらえない。同じようなレベルの友達がいたなら、この能力は格段に進歩しただろうと今になって思う。

写真に刻されている映像

亀田先生に影響を受けていたそのころ。透視の勉強も佳境を迎えた。

そしてついに写真に刻されている静止画像を見ることができるようになった。

それを見る方法は次の通りです。

「まず見るべきテーマを明確にします。そして必ずや見えると自分に言い聞かせます。

見えないはずがないというような気持にまでなりきるのです」

パッと見た目、あるいは普通に物を見るような目の使い方では、その映像は見えない。

いわゆる心眼のような目で、写真のほとんど表面を見るようにする。

「内部の印象に従う」

「想念観察」

「宇宙の意識との一体感」

というようなGAPの必須方法を練習している人は、この通常心眼と呼ばれる「意識眼」で見るのはそう難しいことではない。

当然、写真上には、例えば人物ならば目や鼻や口や耳や髪が写っている。普通の見方では、それ以上のものは見えない。

しかし、目を目としてだけ見るのではなく、鼻を鼻としてだけ見るのではなく、陰影や曲線や直線をとらえ、それが何かに似ている形であったら、それが見るべき対象なのかどうかも考慮にいれ印象的に従いながら見ていく。

そこに焦点を固定したり、視線を移したりしながら、ジーッと見てみる。

そこに何かが刻されていて、また見られるべき条件にかなっている状況に達した瞬間に、突然はっきりと画像が浮かびあがる。

その映像は二重写し（二重露出）のように鮮明に出る。

あまりに鮮明なのでとても驚く。

さらにその映像に焦点を合わせているともっとはっきり見えることがある。

写真によっては見えないものもある。

また見る人によっても見え方もちがうことがあるようだ。

だから仮に人が透視映像が見える写真はこれだといっても、同じものが見えるとは限らない。

また画像も鮮明なものと鮮明でないものがある。

当時は、日本GAP会長久保田八郎先生が社長をされていた出版社発行のUFO専門誌が一世を風靡していた。

一大ブームを起こしたその雑誌に掲載された写真を見て、映像をとらえる練習をしたことがある。（このUFO写真は本物か否か？）というテーマで映像をとらえたと思う。あるUFOの写真を見ているとある人物が浮かんできた。複数であったかどうかは忘れてしまったが、はっきりと出てきた。全身像である。私は驚いてしまった。

二重写しのように、そこに他の惑星の人が着る宇宙旅行用と思われる服を着た姿が浮かんでいるのだ。

何度見ても、確かに見える。

いつも同じように見える。

顔もはっきりしている。

しかし、私は当時はまだ未熟であった。それからどうすることもできない。ジーッと見ていても、その映像が動くわけではなく、これをどのようにすればどのようになるかさえわからない。

他の写真の表面にも色々の映像が見えたが、その映像をどのように利用すればよいのか、当時はわからずじまいだった。

しかし、写真に二重写しのように明確な映像を見るということを獲得したのは大いなる自信となった。

これはもちろん、その写真に関する想念波動が何かに反映してそのように見えたのである。

映像の解像力の段階

静止映像は、写真の二重写しのように写真の表面に見える。

しかしもちろん透視の映像はこのように見えるものだけではない。

私が見える画像の鮮明さを順番に掲げると次のようになる。

一番鮮明なのは

覚醒して、目をあけて見る実際の映像。

次に鮮明なのは

睡眠における夢の映像。

だが夢は独特の映像と独特の現実感をともなうこともある。

次に鮮明なのは前述の静止映像。

動かないが、写真の二重写しを見ているのとほとんどおなじ映像なので、これが見えるとかなりの自信がつく。

次に鮮明なのが、今回のテーマであるところの透視映像。

これは何かをじっくりと思いだしている時の映像によく似ている。

意識してゆっくりと映像を見ている状態。

慣れると、目を開けたまま見える。

普通の状態ではやや色がついている。

自動的に動いたりする。

動かそうと思うと動くことがある。

またその都度、質問をするとそれがはっきりとすることがある。

例えば、「この洋服の色は何色ですか？」とたずねると色がでてくることがある。

次に鮮明なのが、普通に思考している状態の映像。

これはほとんど形にはなっていない。

見えたとしても抽象的な映像といってよい。

この段階での映像事態は、鮮明でなく、例えばUFOならUFOとはっ

きり思い浮かべられ、それとはっきりわかるが、透視をじっくりとしている時に得られる映像ほど鮮明ではない。

また言葉が優先される状態である。

以上は私はこのように見えるということです。

私の透視の具体的方法

透視することに決めたなら、まず最初に宇宙の意識を意識する。次にテレパシーの機能は万全と強く意識する。そして透視するべき目的を明確に願う。そして思念したことは忘れて、あとは静かに待つ。情報の伝達経路、あるいは映像がどこに映るのかを確認しておくとより早く映像が映ると思う。私の場合は、情報が全身で受信され神経の伝達などによって背骨を上昇し大脳皮質に到達するようなイメージを描く。私の場合、映像は心の中に結ばれる。具体的にどこのスクリーンに結ばれるかということについては、各自模索していただくとよいだろう。

私は目を開けても、映像が見える。しかしこれは大抵の場合である。何も映らない人は、ここで壁にぶつかっている。陰影とか線とか四角とか丸のような抽象的な映像は描けるはずだ。

さきほど出会った素敵な人とか、電車の映像だとか、何かが思い浮かばない人はいないと思うがどうであろうか？　とにかく映像を得てから次に進む。今いる場所の映像あるいはイメージでもよい。そのイメージから、次の映像を待つのだ。それを見ている。記録するのだ。求めるべき対象でないようでも見ておく。それが重大なヒントになることがあるのだから。

早く結論づけず、情報は暫定的に心の中にいれておく。どうやらこれが求めるべき対象かも知れないなというような映像がでてきたら、それを詳しく見る。その技術は、誰かの顔を思い出すことに似ている。「あの人の目はどんなだったかな？」と思うとはっきりと目の形が浮かぶように、これは何のかと問いかけながら見ていく。質問し、答えを待ち、また質問する。何に対してかというと、いうまでもなく、「宇宙の意識」にだ。そしてこれは時間をかけて行なわなければならない。パッパッという素早いリズムでは、詳しく鮮明で正しい映像は得られない。

さて映像が正しいか否かの判断は、これは練習していってその判断の方法を自らが習得していかねばならない。

またその判断をどのようにしたらよいのかということも、透視の技術の重要な部分である。

透視の実際の例

●人物を透視する

肩こりを訴えて来院された若く美しい既婚の女性のご主人を透視することになった。内部の印象に従いながら、映像を見てみた。

ある日、偶然にそのご主人の家の前に行くことになった。（外に出ているといいな）と思いながらそこに到着すると偶然にも透視映像とほとんど同じ男性がいらっしゃる。その人こそ私が拝見したかったなつかしのご主人だ。すでに透視で映像はとらえているのだから、初対面であって初対面でなく、なつかしいと感じるのである。ご主人と私は面識はない。まるで知り合いのように自分を見つめている私を見て、ご主人もさぞかし違う意味で奇妙であったかも知れない。急いでいたので声もおかけしなかったが、私は感激していた。当然の話だが透視映像と違っているのは、実際よりは輪郭がはっきりしていること、より鮮明なカラーであること、背景があること、そしてたえず動いていることだった。これは大いに自信を深めた透視のひとつであった。

●郵便受けの透視

少し離れている郵便受けの中を見る。これはあらためて透視をしなくても、テレパシーで何があるかは大体わかる。日本GAP関係であるとか、そして誰から来たのかぐらいはわかる。郵便物の内容も中を開けなくともどのような様子かは大体判断がつく。

このようなテレパシーでなく、透視で、郵便受けにどのような形のものが、届いているか何度か行なったことがある。メモを用意して、瞑黙し、郵便物の形を素直に見る。ある部分が透明な封筒を透視できた時はとても嬉しかったことを覚えている。これは答えが明確なのでよい練習になる。

●過去生透視

過去生の映像は見る機会が多いが、正解かどうか確かめようがない。

現在砂漠のところも二千年前は草原であったということもある。砂漠を透視したはずなのに、草原が出てくるのは奇妙と感じてもそのまま見ている態度が必要だ。

特に歴史は、都合のよいように、変えられていることが多い。江戸時代は鎖国をしていたということだが、一般庶民も船は持っていたので、渡航できたという話がある。

（以下次号）

GAP短信 GAP NEWS

★イスラエル聖地遺跡の旅、大成功

既報のとおりイスラエルの旅は昨年一一月二二日より二九日までの八日間実施されて大成功裡に全員無事帰国した。参加者は二五名。男女約半々の旅は非常に愉快で、現地は連日快晴続き、優秀な現地ガイドさんの懇切丁寧な説明と指導のもとに和気あいあいたる雰囲気のなかを、古都エルサレムの市内のイエス関係遺跡めぐりを皮切りにイエス生誕地ベツレヘム、死海沿岸のクムラン洞窟、マサダの古戦場遺跡、ガリラヤ湖畔のティベリアその他を貸切りバスで巡遊し、最後はテルアビブで一泊後、往復ともイギリスのロンドン経由で北回り航路を飛びきった。終止全く安全な旅で、会長によれば過去一七回のGAP海外研修旅行で、これほどに愉快な旅はなかったという。会長の詳細な旅行記は本号に掲載。今年度のGAP海外旅行の行き先はまだ未定なるも、いずれ発表するという。

★久保田会長との質疑応答会

先号で発表された日本GAP内部の有力な支援グループである黎明会主催による第四回目の久保田会長との質疑応答会も昨年一二月二一日に埼玉県大宮市の超高層ビル「大宮ソニックシティー」で開催され、約五〇名余が出席。これまた大成功であった。会長はユーコン誌本号の編集で多忙ななかを駆けつけて、終始温厚なるも熱意のある態度で丁寧な回答を行ない、きわめて有意義な三時間を過ごした。終了後は忘年会をかねてイタリア料理店「ヴィノ」で歓談の花を咲かせ、そのあとは大宮駅前の「庄や」で二次会を開催。尽きせぬ名残りを惜しみながら深夜に解散した。

★東京月例セミナーの会場変更

すでにご存じの方もあるが、従来東京本部の月例セミナー会場は港区東京タワー前の機械振興会館六階六七号室で開催されていたが、この部屋は種々の事情により不便なので、昨年一二月より地下三階の第二研修室に永続変更した。この部屋は過去に一時期使用していたことがあるが、再度そこへ帰ったわけで、広くてゆとりのある場所のため落ち着いて過ごせる。月例セミナーでは毎回UFO関係の珍しいスライドやビデオの映写も行なって視覚面で効果をあげている。多数の会員の方々のご来場をお待ちしている。非会員でも入場できる。一時より五時まで開催。終了後は希望者のみの夕食会を新橋駅そばの料理店で開催している。

★久保田会長、韓国でUFO講演

韓国ではかねてからアダムスキー派の研究家で日本GAP会員でもあるカン・ビュン・キュウ法学哲学博士が活躍しておられたが、一二月に同博士から久保田会長宛の連絡によると、最近十余のUFO研究団体を糾合した韓国UFO総連合会が発足し、博士が会長となって来たる三月二一日に記念講演会の開催が決定したといい、久保田会長に出演要請の依頼があった。会長は快諾し、ソウル市でアダムスキー問題について講演を行なう。助手として本部役員幹事の加藤純一と副幹事の津田篤孝が同行する。カン博士はアメリカ留学経験あり、韓国では大学の学長を経て世界平和運動の指導者でもある。日本語と英語は母国語並みの方。

★秋田支部大会、今年度開催

秋田支部は隔年ごとに支部大会を開催してきたが、今年は一一月二二日に開催が決定している。この日は二連休の初日（日）で、前日の土曜日を加えれば三連休になる人も多いから盛況が予想される。詳細予告は本年七月発行予定のユーコン誌一四二号に掲載の予定。

★日本GAP全国支部も月例セミナーを活発に開催

日本GAPには全国に一六支部があり、毎月一定の日にセミナーを開催している。これは東京本部で行なった久保田会長の宇宙哲学解説講義を録音テープかまたはビデオで音声を聞きながら学習したり討論を行なったりするもので、実質的には東京月例セミナーの受講と大差はない。詳細は本誌巻末に掲載されているので地方在住の会員の方はふるって参加されたい。

★東京造形大学でUFO講演

久保田会長はかねてから都内の八王子にある東京造形大学で春秋の二回、UFO問題の講演を行なってきたが、昨年一一月一四日にも同校で一時間半の講演とスライド映写を行ない、好評を博した。この講演は授業の一端として行なわれるもので、今回は一年生約二〇〇名を対象に実施された。

★日本GAP維持会員制度

日本GAPは普通会員とは別個に維持会員制度を設けている。これは一種の寄付制度でありGAPの運営と発展に寄与するための援助活動で、絶大な役割を果たしている。これに加入すれば久保田会長が毎月上旬に個人で発行している「意識の声」と題する小冊子のエッセイが維持会員に直送される。これは本誌に掲載されない秘話、会長が実践している宇宙的能力開発法、会長の珍しい体験、GAPの行事速報、その他有益な記事が満載されている。特徴はいつも大いなる信念と勇気と希望を起こさせる内容にある。このエッセイ「意識の声」はA4判紙面にぎっしりと印刷された記事が四頁分ある。美麗オフセット印刷。維持会員に加入希望の方はハガキに「維持会の案内書送れ」と書いて日本GAP本部宛に送れば直送される。

★本誌用の原稿を募集

会員諸氏より本誌掲載用の原稿を募集している。内容はUFO目撃体験と写真、能力開発実践体験、科学記事その他。原稿は任意の用紙に手書きでよい。掲載分には薄謝を進呈。

〈宇宙〉

■土星探査機発射に「ゴー」
電力源にプルトニウム利用

米航空宇宙局（NASA）は、土星とその最大の衛星タイタンを観測する探査機カッシーニの打ち上げに、ホワイトハウスの正式な許可が得られたため、一月一三日に打ち上げると発表した。カッシーニは、電力源としてプルトニウムの崩壊熱を利用する原子力電池を搭載していることから、環境団体などが事故でプルトニウムがまき散らされる危険があるとして、打ち上げ中止を求めていた。

ホワイトハウスの科学技術政策局（OSTP）がその安全性を検討した結果、「科学的な成果が潜在的な危険を上回る」として、ゴーサインを出した。

カッシーニは打ち上げ後、いったん地球に近づいて、その重力を利用して加速し、二〇〇四年七月に土星に到着する。

土星本体の観測のほか、搭載している欧州宇宙機関（ESA）の探査機ホイヘンスがタイタンに着陸する。土星観測は一九八〇年代初めのボイジャー一、二号以来で、土星だけを目的とした探査は初めて。四年間続く探査で大きな成果が期待できそうだ。（10・8朝）

■NASAの探査機「測量士」
九月一二日に火星到着

米航空宇宙局（NASA）の火星探査機マーズ・グローバル・サーベイヤーが日本時間の九月一二日午前、火星に到着する。「測量士」という名前の通り、火星の軌道を回りながら地形をくわしく調べる予定。エアバッグを使って着陸したパスファインダーが大気観測で支援、チームプレーを展開する。

サーベイヤーは九六年一一月に打ち上げられた。先月下旬、地球から約二億三千七百万キロ、火星から約四百万キロの地点で最終的に軌道を修正、時速一万八百キロで火星を目指している。

火星に到着したら、二二分間エンジンを噴射して火星を回る長円軌道に入り、その後約五カ月かけてほぼ円に近い軌道に修正する。それには大気の抵抗を利用して減速するエアロブレーキを使うが、心配なのが火星名物の砂あらし。抵抗が著しく高まってブレーキが利きすぎてしまうからだ。

パスファインダーが送る火星の大気のデータで砂あらしの発生が予測されると、高度を上げて危険を避ける。観測は軌道が定まった九八年三月半ばから始め、一火星年に当たる六八〇日間続ける。

観測カメラは高解像モードで一・四メートルの大きさまで見分けることが可能。かつて大量にあったと見られる水がどこへ消えたのか、ダイナミックな地形がどうやってできたのか、火星のナゾに迫る手がかりが得られると研究者は期待している。（9・10朝）

（注＝このサーベイヤーの消息は全く発表されていない。このこと自体が不可解である）

■カッシーニ打ち上げ
プルトニウム汚染の危険も

米航空宇宙局（NASA）は一〇月一五日午前四時四三分、土星探査機「カッシーニ」を搭載したタイタン四型ロケットをフロリダ州のケープカナベラル空軍基地から打ち上げた。土星単独を目指す初の探査機で、多くのナゾを残す土星の素顔に迫るものと期待が高まる一方、電力源として過去最大の三三キロのプルトニウムを積んでいるため、かつてない規模で打ち上げ反対の大合唱が起きた。カッシーニは人類の「夢」と「懸念」を乗せて宇宙に飛んだ。

カッシーニ計画は米国と欧州が協力、昨夏火星に着陸した「マーズ・パスファインダー」の総予算の一〇倍以上の三四〇億ドルをつぎ込んでいる。全長六・八メートル、重さ五・八トンはNASA史上例のない大型探査機。

一九九九年八月、地球に最接近し、地球の重力を利用して加速を付けながら二〇〇四年に土星に到着。土星や土星の輪、衛星タイタンの組成や構造を四年かけて調べる。土星を周回する探査機カッシーニが初めて。

しかし。カッシーニが電力源として強い放射性毒性をプルトニウム238の崩壊熱を利用することから、反核市民団体「フロリダ平和連合」などが「失敗するとプルトニウムが飛散する」と警告、打ち上げ反対運動が広がった。広島や長崎からも抗議の声がホワイトハウスに届けられた。

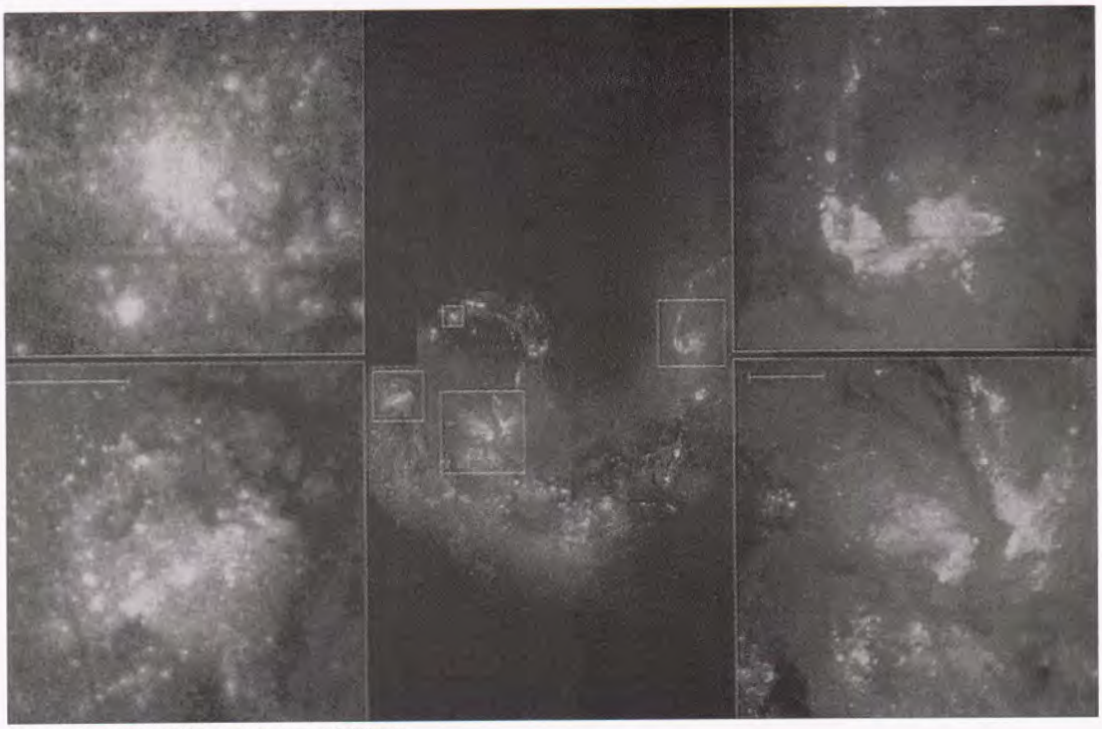
反対グループが懸念するのは二年後の地球最接近。時速六四万キロの高速で地球の上空八〇〇キロを通過するが、わずかな軌道計算ミスでもカッシーニが大気圏に突入、プルトニウムの微粒子が世界に降る危険があるという。

これに対し、NASAは「最接近失敗の確率は一〇〇万分の一。プルトニウム電池には万全の対策を施してある。万が一、大気圏に突入しても、これが原因で将来ガンになって死ぬ人は世界中で一二〇人ぐらい」と安全性を強調している。（10・16 毎）

■天王星に新衛星二つ

米コーネル大学などの研究グループは

▲木星の重力を利用して土星に向かう探査機カッシーニの想像図。



▲ハッブル宇宙望遠鏡でとらえた二つの銀河の衝突で発生した「花火ショー」の凄まじい光景。

一〇月三一日、天王星で新たに二つの衛星を発見したと発表した。天王星の衛星はこれで計一七個になった。ハワイなどにある大型望遠鏡による観測で見つけ、国際天文学連合（IAU）が確認した。

衛星の直径は約八〇キロと約一六〇キロで極めて小さい。一つは赤い色をしているという。太陽の周りを回っているうちに天王星にとらえられて衛星になったらしい。

天王星の衛星は、今世紀半ばまでに見つかっていた五個に加え、米国の探査機ボイジャー二号が一九八〇年代後半に一〇個の微小衛星を見つけた。これらの微小衛星にはオフェリア、ジュリエットなどと名付けられた。今回見つかった衛星はU1、U2の符号で呼ばれているが、発見者に命名権があり、いずれ命名される。（10・31朝）

■銀河が衝突、大花火大会

米航空宇宙局（NASA）は一〇月二一日、二つの銀河が衝突して千以上の星団が生まれている様子をハッブル宇宙望遠鏡がとらえたと発表した。それぞれの星団には百万個以上の星が含まれており、研究者は「宇宙の大花火」と形容している。

「花火」が見つかったのは、六千三百万光年のかなたにあるアンテナ銀河。二つの銀河が衝突してできたとみられ、核の部分（写真の囲まれた部分）に多くの生誕が生まれていることが分かった。（10・22朝）

〈科学一般〉

■自然科学の日本の研究レベル
米と、なお隔たり〈文部省調査〉

日本の自然科学分野の学術研究レベルは地道な向上を続けているが、トップランナーの米国との隔たりは依然大きい。文部省がまとめた研究論文に関する比較調査から、こんな実態が浮かび上がった。

この調査は、世界の有力な学術雑誌約四千誌に掲載された各分野の研究論文を網羅している米国のデータベースを利用して、各国の自然科学分野の論文の件数と、論文が他の研究者から引用された回数をそれぞれ比較したもの。

それによると、一九九六年に各国で発表された論文のうち、日本の論文が占める比率は世界第二位の八・四％だった。一〇年前より一・三％上昇し、九三年に英国を抜いてからは二位の座を保っている。しかし米国の九六年の占有率は二九・八％。日米の隔たりは一〇年前の約四分の三まで縮まったが、その差は依然大きい。

一方、個々の論文の「質」に密接にかかわるのが引用回数。九五年に各国で発表された論文が引用された合計回数のうち、日本の論文の関連分は六・二％。これは米国（四一・三％）英国（九・一％）ドイツ（七・二％）に次ぐ四位だった。

日本の論文の引用回数を研究分野別に見ると、「農学」「化学」「材料化学」などは八〇年代から世界二位を維持しているのに対し、「生態学・環境学」「地球科学」などはベストテンの下位に位置する。

今回の国際比較調査は、文部省が一二月五日にまとめた九七年度版「わが国の文教施策（教育白書）」で取り上げられている。（12・5読）

■透明な半導体可能に
東工大グループ、金属酸化物使い

透明な金属酸化物で半導体ができるこ

とを東京工業大応用セラミックス研究所のグループが発見し、一〇月三〇日付の英科学誌「ネイチャー」に発表した。これまでのシリコン半導体とは異なり、光を通す半導体が作れるため、窓に張りつけるだけで発電ができる膜状の太陽電池など、幅広い応用をもたらす材料として注目される。

金属酸化物を処理して、光を透過する性質と、金属のように電気が流れる誘導性を兼ね備えるようにした材料は、液晶表示板や太陽電池の電極として使われている。

このような性質の金属酸化物は電子が自由に動き回れるn型と呼ばれるタイプだけで、電子が自由に出入りできる正孔（ホール）をもつP型は知られていなかった。

同研究所の川副博司教授と細野秀雄助教授らは、デラフォサイトという結晶を使って透明で誘電性のあるP型金属酸化物を作ることに成功した。

P型とn型を組み合わせると、可視光を透過する半導体ができる。この半導体は紫外線を吸収して、赤外線を反射する。ガラス窓に張るだけで断熱材の役目を果たしながら発電する太陽電池を作ることができる。

従来の半導体の限界とされる波長よりもさらに短い青から紫外線の領域までのレーザーを発光することも分かった。コンピューターや映像記録装置に使われている光ディスクの記録容量を拡大できる青色レーザー光源としても有望だ。

川副教授は「単一の構造で、いろいろな性能が取り出せるので、工業的に応用可能な材料の幅が広がる。電気伝導度がもうすこし上がれば、実用レベルになる」と話している。（10・30毎）

〈医学〉

■ロボット使い、内視鏡手術 将来は触感も。進む研究

開腹手術に比べて傷が小さく、患者の体の負担も少ないため、内視鏡外科手術が国内で急速に普及しつつある。しかしモニター画面を見ながらメスやカンシを使う手術は見たいところがすぐ見られず、間接的で触感がないなど不自由さがあり、長期の訓練を要する。そこで注目されているのが手術ロボット。使いやすさと安全性を目指して医師の声による指令に従って視野を調整したり、医師の手と同じように動いて触感まで伝えたりするロボットの研究が進んでいる。別の病院に光ファイバーでモニター画像を送って遠隔で手術指導をする試みも始まった。

「イソップ」「ライト（右へ）」「ムーブ・イン（接近して）」

東京都新宿区の慶大病院の手術室。大上正裕医師（外科）の呼びかけに従って「イソップ」と名付けられたロボットの腕が動き、先端に付いた内視鏡が次々と新しい画像をモニター上に映し出す。大上さんはそれを見ながら両手を使って胆石の手術を進めていく。約四〇分で胆嚢が取り出され、消毒、縫合して、手術は終了した。慶大では胆石のほか、虫垂炎、ヘルニア、食道炎、最近では早期のガンや大腸ガンの手術などにも活用している。しかし内視鏡外科手術には、直視下でなくモニターを見ながら行なうこと、直接臓器に触れられないことなどいくつかの壁がある。こうした困難を克服するために登場したのがイソップのような手術支援ロボットだ。

名前の「イソップ（AESOP）」は自動制御内視鏡手術支援システムの略。あらかじめ登録した医師の声だけに反応し、二三種類の指令をこなす。米国で開発されたロボットで、無理な力がかかったり、体内の組織に近づきすぎたら危険と判断して自動停止する。安全性や信頼性にかかわる部分では米航空宇宙局（NASA）の技術が使われている。慶大病院では一昨年導入し、これまで二十数例の手術をこなした。国内では九州大や愛知県の藤田保険衛生大でも使い始めている。（9・1朝）

■免疫力ガン新薬認可 米食品医薬品局

米食品医薬品局（FDA）はモノクローナル抗体で体の免疫力を高めるガン新薬を認可した。新薬はリタキサンと呼ばれ、ガンの一種の非ホジキンリンパ腫だけに使われるが、ガン細胞を「魔法の弾丸」のように攻撃する理想的な薬として期待されてきたモノクローナル抗体ガン新薬の始めての認可となった。この薬を遺伝子工学でジェネンテック社は「副作用は化学療法より少ない」とし、三週間後に販売するという。

この新薬は、非ホジキンリンパ腫で異常になっている免疫細胞のB細胞の膜にあるタンパク質に結合してB細胞を攻撃する。実際には化学療法と併用する必要があり、これだけでガンの治療薬ではないが、臨床試験では患者の四八％のガンが縮小した。

モノクロナール抗体は均一の分子からなる抗体で、特定の物質に結合するため、微量物質検出や病気の診断、基礎研究に一九八〇年代から広く使われている。（12・4読）

■第四のリンパ球「NKT細胞」 活性化物質を発見 千葉大、ガン転移を大きく抑える

千葉大医学部・谷口克教（免疫学）らのグループが、「第四のリンパ球」として注目される「NKT細胞」を活性化する物質を突き止め、この物質によりマウスのガン転移を劇的に抑制することに成功した。

免疫の担い手であるリンパ球には、T細胞、B細胞、NK細胞という三グループが知られているが、NKT細胞は、これらと異なる新たなリンパ球。全身性エリテマトーデス、慢性関節リウマチなどの自己免疫疾患では著しく減少することから、免疫で重要な役割をリンパ球として関心を集めている。しかし、活性化の仕組みなどはわかっていなかった。

谷口教授らは、「α－ガラクトシルセラミド」という糖脂質がNKT細胞を活性化させることを発見した。そして①通常のマウス②遺伝子操作でNKT細胞をなくしたマウス③リンパ球のNKT細胞だけがあるマウスにガン細胞を注入し、微量（五十万分の一グラム）の糖脂質を二週間に三回注射した。すると、NKT細胞がないマウスだけが、ガン転移を起こし、ほかのマウスはほとんどガン転移が見られなかった。谷口教授は「人間にもNKT細胞はある。近く臨床試験も開始されるだろう」と話す。（12・12読）

UFOをよく見る私　川野　学

私は栃木県と茨城県の県境の町に住んでおります。このたびお手紙を出したのは、同封の写真(下の写真2枚)を見て頂きたいと思ったためです。写真は97年8月10日から12日にかけて長野県の松本市へ家族4人で旅行に出かけた時のものです。道路が写っているほうは8月10日の朝5時30分頃の軽井沢付近のものです。もう1枚は12日の帰宅時に、途中、群馬県の草木ダムにて撮影したものです。いずれも現像してから（UFOに）気づきました。ネガにも写り込んでおり、写真屋さんもゴミやキズではなく、間違いなく何かが写り込んでいると言っていました。「もしかすると?」という思いとともに、この道の権威であります先生にぜひ見て頂きたいと思い、ご多忙中失礼ではありますが、お手紙を書いた次第でございます。そもそも私がユーコン誌と出会ったのは約11年前の86年頃になります。何か引き寄せられるようにしてユーコン誌を持っていたのを覚えております。そして翌年87年元旦の早朝にUFOを目撃して以来今日までなんらかの形でUFOらしき光体を目撃してきました。まだ至近距離での目撃はありませんが、回数は多くなっているようです。(以上原文のまま)

編者注＝写真に添えて多数の目撃図が添えてあった。下の2枚の写真について秋山眞人氏は本物のUFOだと鑑定している。集合写真の右端が川野学氏。

Question & Answer Session
With Hachiro Kubota

久保田先生との質疑応答会

●1997年12月21日（日）午後1：00〜4：00
●埼玉県大宮市「大宮ソニックシティ」6階

▲上は回答中の久保田先生。 撮影／加藤純一

昨年一二月二一日に大宮市で開催された第四回「久保田先生との質疑応答会」は予想を超える約五〇数名の大人数となって関係者一同驚喜しました。年末の多忙な時期にこれほどの熱意を示された方々に心から感謝の意をささげたいと思います。

質問は多種類に渡って出されましたが、例によって久保田先生の博覧強記による見事な回答ぶりに一同感嘆した次第です。月例セミナーでもそうですが先生は全く逡巡することはなくユーモラスに活発に話を展開されますので、聴いていても爽快な感じがします。なかには「先生にどうしても質問したいことがある」といって九州の宮崎県からわざわざ来られた片田忠氏のような超熱意を示された方もありました。有難いことです。

会の終了後、夕方の五時から桜木町のイタリア料理店「ヴィノ」で忘年会をかねて美味しいイタリア料理を賞味しながら愉快に二時間を過ごしました。イタリアへ何度も行かれた久保田先生によれば本場に劣らぬ上質な料理とのことです。そのあとは大宮駅前の料理店にて二次会を開催して、今度はうんと打ち解けた雰囲気の中を大歓談。こうして今年も無事に終わりました。

この質疑応答会の内容は本誌には掲載しない方針だということで、内容に関しては出席者だけの特権ということになります。版権は主催者の黎明会に帰属しますので、録音テープ等から原稿を起こして他の印刷物に掲載することは出来ませんのでご了承下さい。

今後もまた機会があればこのような会合を開催して会員の皆様の便宜を図りたいと思います。ご要望があれば黎明会宛にご遠慮なくお申し越し下さい。今年も頑張りますので今後ともよろしくお願いいたします。（加藤純一）

◀写真中央は久保田先生、その右は加藤純一東京本部役員幹事、その右は副幹事の津田篤孝。先生の左は黎明会代表・西川太、その左は副代表の会田裕子。
撮影／久保田八郎（セルフタイマー）

宇宙の法則のもとに生きるスペースブラザーズ(3)

Space People Living With Universal Laws
by George Adamski/Translated by Hachiro Kubota

ジョージ・アダムスキー／久保田八郎訳　〈アダムスキー講演集連載20〉

（前号からの続き）

パンを買おうとしても何を買おうとしても同じことです。まもなく私は、私には誰も何も売ってくれないことがわかりました。そこで私はどうしたと思われますか？

大自然界に救われる

私は広大な森の中に入って行きました。するとまもなく小川の音が聞こえてきました。水が流れているのです。それを創ったのは人間ではありません。それは神が創ったのです。

その小川は私に言いました。

「そんなに喉が渇いているのなら、この川から好きなだけ水を飲みなさい」

私の喉の渇きは癒されました。

さらに歩いて行くと、野イチゴの薮がありました。野イチゴがぎっしりとなっています。すると野イチゴが言いました。

「そんなに腹がすいているのなら、ここでたっぷり食べなさい」

そこで私はたっぷり食べました。さらに野ウサギまでがやってきて言うのです。

「私を殺して私の肉を食べて下さい。私はあなたに食べられることによって、あなたの体内に入ります。そうすればウサギでいたのでは体験できないことを、あなたと一緒に沢山体験することができるようになるでしょう」

そこで私は言われたとおりにウサギを殺して、彼を有難くいただきました。

さて、町にいた頃の私は、しょっちゅう病気にかかっていました。スモッグを吸ったり、食品保存剤やその他のさまざまな毒素を口にしつづけていたために、私の体は本来の健康状態にはありませんでした。

しかし二年に及んだ森の中での健康的な生活のおかげで、私は素晴らしい健康を取り戻すことができたのです。

それで、ある日、町の様子が恋しくなって私は森から出て行きました。

教会を裏切ったのは神自身

町を歩いている私に、ある女性が気づきました。それで彼女は友達に「アダムスキーを見たわよ」と言ったのです。

町の人々は私がすでに死んでいるものと思っていました。過去二年もの間、私を見た人が一人もいなかったからです。そのために「〇〇夫人がアダムスキーを見たそうだ。とても健康そうだったらしい」という噂がアッというまに町中に広がって、それは当然のごとく、あの宗教指導者の耳にもはいりました。

その噂を聞いた彼はすぐに集会を開き、人々に言いました。

「教会を裏切ったやつは誰だ（笑い）。（編注＝これは教会に隠れてアダムスキーにひそかに食物を与えた人間を意味する）

アダムスキーに食べ物をやったやつは、どこのどいつだ！　彼はとっくの昔に餓死していたはずじゃないか！」

実際には、教会を裏切ったのは神自身だったのです！　神（自然界）は私をとてもよく養ってくれました。そうでしょう？　自然界は我々を決して落胆させません！　自然界は我々に真実を教えてくれるのです。なぜなら自然界は万物の「母」であるからです！　このようにして自然界は善良で忠実な夫に仕える妻のように創造主に仕えているのです。

問　我々はたしかに自然界を必要としていますが、より多くの事を学ぶためには人々との接触も不可欠ではないでしょうか。

ア　我々は自然界からのほうが多くの事を学ぶことができます。イエスの教えを考えてみて下さい。彼が語ったことや教えたことが書物になったのは、彼が死んでから四〇〇年もたってからのことです。たとえ私が今ここで話していることでさえも、皆さんが後で誰かに話して聞かせるときには、どこか違ったものになってしまうはずです。それが四〇〇年も昔に語られたものだったとしたら、どうなるでしょう？　そんなに長いあいだ人々の口から口へ

と伝わってきたのです。少なくともオリジナルだとは絶対に言えません。

大自然界こそ真実を伝える

そこで皆さんが、どの部分がオリジナルで、どの部分がそうでないかを確かめることの出来る唯一の方法があります。それは自然界を観察することなのです。

その方法は、もし皆さんが、ある特定の原理が自然界の中で生かされている様子をを発見したとすれば、それは（イエスの言葉の）オリジナルです。しかし、もし特定の原理が自然界の中で生かされていなかったとしたら、それは人間が利己的な目的で、あるいは無知のために創作した無意味なアイデアにほかならないことをあらわしています。

皆さんが自然界の中で発見するものはすべて真実です。自然界は皆さんがこの世にやって来るはるか前から存在し、皆さんがこの世を去った後も延々とここに存在しつづけるのです。自然界はとてつもなく多くの体験をしています。そして自然界と接することは母親と接するようなものです。自然界は皆さんが知りたい事を喜んで教えてくれるでしょう。

大自然界は人間に正しいことを教える

自然界が人類のために行なってくれたことに思いをめぐらして下さい。たとえば、この地球上に最初に出現した最初の人間のことを考えてみて下さい。彼はいかなる道具も持っていません。当時も今も天候は似たようなものです。雨も降れば雪も降ります。そこで彼は何らかの避難所が必要だと考えました。

彼は自然界を観察し始めました。そして最終的に火打ち石を見つけました。つづいて彼はそれを加工して斧とナイフを作りました。そしてそれで穴を掘り始めました。雨や雪をしのぐための洞穴です。後に彼は同じ道具を用いて木を切り倒し、丸太小屋を作りました。そのようにして自然界から学びながら彼は着実に生活を向上させていきました。

想像してみて下さい。そこには学校もなければ教師もいませんでした。自然界が彼の唯一の学校であり教師だったのです。

彼は音楽でさえも自然から教わりました。彼は風の音に耳を傾けました。松の木を抜けてくる風の音。他のさまざまな木々や葉の間を抜けてくる風のざわめき。鳥たちのさえずり。カエルの鳴き声。そしてその他、自然界が作り出すあらゆる音に耳を傾けて、いつしか彼は「なるほど、それぞれが、それぞれに異なった音を出すんだ。それらをつなぎ合わせたら、どんなものになるだろう？」となどと考えるようになりました。彼が美しいメロディーをくちずさむようになったのは、それからまもなくのことでした。

このようにして自然界は人類にあらゆることを教えました。でも、今の時代に生きている人間で、どこかの深いジャングルの中に、何も持たされずにおいてけぼりにされたとして、ちゃんと生きてゆける人間がどれほどいるでしょう。斧を作るための火打ち石を見つけだすことのできる人間が、どれほどいるでしょう。

現代の人間はみな学校でしっかりと教育されています。いや、教育されすぎています。しかし初期の人類には学校などはありませんでした。でも彼らは自然界を観察する目を持っていました。そして、それからあらゆることを学びました。母なる大自然は子供たちに、どんなときにも常に正しい事を教えようとしているのです。

問　他の進歩した惑星では、都市部に生まれた子供たちが、田舎で生まれた子供たちよりも自然界から学ぶ機会が不足しているというようなことはないのでしょうか。

ア　いや、そもそも彼らは全員が都市部で誕生します。ただし彼らの都市は地球の都市のような混雑した場所ではありません。彼らの都市には、自然界がたっぷりと存在しています。ですから彼らはいつも自然界と接しているのです。

実を言いますと、我々はすでに新しい都市計画を練り上げています。アメリカ合衆国の都市がたとえば戦争などで破壊されてしまったとしたら、その後に我々は金星の都市をモデルとした都市を建設することになるでしょう。その青写真がすでに出来上がっているのです。

転生の真の意味

問　あなたは本の中で、我々がレタスを食べると、それは我々の一部となるとおっしゃっておられます。私は栄養学的なことはよく分かりませんが、我々の肉体の細胞がそれ自身を常に再生しているということだけは知っています。

そこで、我々の細胞が再生をくり返しているとしたら、古い細胞と一緒にレタスの生命も我々の体内から排除されてしまうのではないでしょうか。

ア　いや、レタスの本質は決して排除されることはありません。なぜならば、たとえ細胞が新しいものに変わったとしても、その心臓部は決して変わることはないからです。その部分は再生しないのです。

細胞が再生するときに捨てられる部分は、皆さんの洋服のようなものです。皆さんは、服が古くなったら、それを捨てて新しい服を買うことができます。細胞の再生もそのようなものです。で

も、細胞の心臓部は再生することはありません。そしてレタスの本質はその中に存在しつづけるのです。それは、そこに、あなたの肉体が最後を迎えるまで安全にとどまりつづけます。

問 あなたのお話はどうも物質的側面に関するものばかりのような気がします。もし私が間違えていたならば訂正して下さい。私は人間というものは本質的には霊的なものだと感じているのですが。

ア 霊と物質は一体です。それを否定することは誰にもできません。あなたは、あなたの人生の支えであるあなたのご主人を崇拝するべきだからといって、母親としての自分を否定するでしょうか？　自分は物質で、ご主人は霊的だと言いますか？　あるいは、あなた一人で子供の父親と母親の両方になることができるでしょうか？

神と人とは一体

問 私は、神は最初に人間を男女双方の要素を持った者として創造したと信じていますが。

ア いや、いや、それは違います。『創世記』の第一章に書かれているではありませんか。そこには「神は自分の形に似せて男と女を創造した」と明確に記されています。

第二章では、神は最初に男を造り、つづいてその肋骨から女を造ったと書いてありますが、あれは誤りです。第一章が正しいのです。

問 我々はまだまだ肉体を持ちつづけるかもしれません。でも、いずれ我々は霊のみの存在になるのではありませんか？

ア いや、それは誤りです。あなたはポイントをはずしています。私が今日お話ししてきたことが、あなたには何の役にも立たなかったようですね。原因と結果は一つのものであり、一体なのです。結果が発生するためには原因がなくてはなりません。結果は原因なくしては存在し得ないのです。原因と結果の双方が互いに相手を代表しているのです。

これは神と人との関係と同じことです。人のお蔭がなかったならば、神は我々の知る神として知られることはありませんでした。と同時に神のお蔭がなかったならば、人が今ここにいることはありませんでした。その二つを名前が違うからといって分離することはできないのです。あなたはそれらを一つの単位として結びつける必要があります。それは一つの単位なのです！

たとえば、あるとき私は知り合いの牧師にたずねました。

「この地球を造ったのは神なのかい？それとも人間なのかい？」と。

彼は躊躇（ちゅうちょ）なく答えました。

「それは神だ」と。

そこで私は言ったんです。

「なるほど。だったら、あんたはなぜそれを（人間と神を）分離しようとしているんだい？　あんたは、地球の一部である何かを持ってきて、それに水などを（聖水と称して）振りかけては『その物が浄化されて聖なるものになった』などと言っている。その物自体は神が造ったものであって神と一体なんだ。もともと聖なるものなんだよ。その神をさらに浄化することなんかできるわけはないじゃないか」

我々はいつもそのようにしてラベル、つまり名称で踊らされているんです。我々は自分自身をも同じようにして分離しています。それで我々が今試みようとしていることは、そのラベルをはがして、生命のすべてを、二つの異なった部分にではなく、一つの単位の中に持ち込むことなのです！

問 あなたは、人間は次の生涯に本質的なアイデンティティー（正体）を持ち越すが、肉体的なアイデンティティーは持ち越さないとおっしゃいました。そうだとすれば、肉体と霊との間には分離が存在するということにはなりませんか？

ア いや、あなたは死んだ後に急速に新しい肉体を得ることになるのです。あなたが肉体と離れて生きることは絶対にありません！

問 私が死んだとき、個性を持った私の実体は、この『容器（肉体）』を離れるわけですね？

ア そうです。それはあなたの『意識』です。『個人的な意識の光線』です。

問 つづいて私は生まれ変わるのですね？

ア ええ、急速にです！

問 別の肉体の中に移動する……この世にすぐ戻ってくるということですね？

ア そのとおりです。急速にです。

問 それでまた最初から始めるのですか？

ア いや、違います。我々は常に成長をとげているのです！

問 この物質的次元においてですか？

ア そうとは限りませんが、一度この世界に戻ってくることも充分に考えられます。それはちょうど子供が学校に行くようなものです。あなたのお子さんが、たとえば大学の一年生で、その学年で学ぶべきことを学ばなかったとしたら、そのお子さんは二年生になる前にもう一度一年生をやらねばなりません。それと同じことです。

問 私がたずねたことはそういうことではないのですが・・・。あなたは私たちが存在可能な別な次元の存在を信じておられないのでしょうか。

（訳注＝ここでは質問者が霊界に言及している）

ア 我々が存在可能な別な次元？　そんなものは（霊界は）存在しません。あなたの「意識」は一歩一歩進化して

ゆきます。ちょうど階段を登るようにしてです。階段を一歩登るたびに、あなたはほんの少しずつ進歩するわけです。でも、その階段はいつまでも同じ階段です。

私は死後の世界の存在を、あなたに負けないぐらい、いや、それ以上に信じています。でも、あなたが信じている死後の世界と私のそれとは、どうやら違うようですね。

問 あなたがどのように信じておられるかが良く分かりませんので、私には何とも言えませんが・・・。

ア この宇宙に無数の世界（惑星）が存在するのは、一体何のためでしょうか！

問 あなたは、人間が死んだら必ずまた肉体を持って生まれ変わるとおっしゃるんでしょう？

ア そのとおりです。この地球でまた生まれ変わるかもしれませんし、別な惑星へ行くことになるかもしれませんが、いずれにしても、必ずそうなります。人間が肉体を持たないであちこちを浮揚することなど絶対にないのです。

問 我々は最終的にあなたがおっしゃる『意識的意識』に到達したとしたら、どうなるのでしょうか。その後も永遠に生きることになるわけですね？

問 （別の声）食べ物なしで？

ア あなたはもちろん永遠に生き続けます。ちょっと待って下さい！ 私の話を聞いて下さい！ もし時間があれば……三週間は必要だと思いますが（笑い）……あなたの過去の生涯を、そうですね……五百億年ほどさかのぼって、すべて透視してあげられると思います。そうすれば、あなたがこれまで肉体を持たずに存在したことは一度もないことがはっきりするはずです

（訳注＝アダムスキーは遠隔透視、過去世透視、テレパシーその他の能力を持つ大超能力者であった）

問 それは理解できます。

問 （別の声）でもそれは過去の事ですよね？

ア 確かにそうです。しかし未来も全く同じことです。

問 そうでしょうか。

ア ええ、もしあなたが生命の永遠性を信じているならばね。

あなたがたが見ているものは分離なのです。そしてその分離が、あなたがたを混乱させているのです。もしあなたがたが、過去も未来も永遠であるということを信じていさえすれば……

問 私はそう信じていますが？

ア だとしたら、過去の中にも未来の中にも、同等の永遠生が存在しているということがおわかりでしょう？ 永遠は永遠です。始まりもなければ終わりもないのです。

問 ええ、私もそう信じています。

ア そして重ねて言いますが、もし私があなたの過去五百億年の生涯をたどったならば（訳注＝透視したならばの意）、そのすべての生涯で、あなたが肉体を持っていたことが分かるでしょう。

問 ええ、私もそう思います。

ア そしてあなたは、今後も果てしない数の生涯を生きつづけるのです。

問 私もそう信じています。

ア これが輪廻転生（りんねてんせい）と呼ばれているものなのです。

問 ええ、よく分かります。

問（別の声）でも、私たちは、もう一歩先に行きたいのです。

ア え？ あなたは常にそうしているではありませんか！ あなたは常にもう一歩先を行こうとしているのです。そしてその結果、ゆっくりと、しかし着実に成長をつづけているのです。学ぶ意欲を完全に失い、前に進もうとすることを完全にやめてしまわない限り、あなたは永遠に成長しつづけます。学ぶ意欲を失わない限り、あなたには常に次の一歩を踏み出す機会が与えられるのです。

問 ええ、その点に関しても全く異議はありません。

ア 言いかえるならば・・ああ、そうだ、この話をしましょう。

問 もう充分に分かりました。今のお話はそのとおりだと思います。

ア あなたは私の申し上げたいことを理解なさっていないようですね。なぜならば、いいですか。キリスト教徒たちは誤解しています。問題をはっきりさせましょう。

彼らが言うには、我々は天使ガブリエルがラッパを吹くまでは……彼がいつになったら吹くのかはわかりませんが……墓の中に横たわっていなければならない、と言っています。そして、そのラッパの音とともに我々は墓の中から急に飛び出して、ふたたび生き始めると言われています。

実にバカげた話です。もしそんなことになれば、過去に死んだ無数の人々の魂のための肉体を造るのに、とてつもなく大量の土が必要になります。地球上には、これまでこの文明以前にも多くの文明が存在しました。これまでに地球上では、まさに天文学的な数の人々が亡くなっているのです。そして彼らの肉体を造るためには土が必要です。しかもとてつもなく大量にです。

もしそんなことになったら、たとえ彼らが生き返ったとしても、この地球上には、彼らが住むための場所がなくなってしまうでしょう。でもキリスト教徒たちは――もちろん全員ではありませんが――こんな話を本気で信じているのです。

そして心霊主義者たちは、人間は死んだら、あちこちの空間、あるいは、どこかの神秘的な世界の中をふわふわとただようことになると信じています。これもまた同じくらいにバカげた話です。

（以下次号）

UFO写真展

日本GAP主催一九九七年度

昨年度に日本GAP東京本部は関東地区の次の各都市において計六回のUFO写真展を開催した。結果は上々で、アダムスキー撮影の金星の大母船やスカウトシップ等を主体にしたUFO写真類は多数の人を驚かせて大好評を博した。

⑴東京都豊島区「池袋パルコ」
九六年一二月二八日～九七年一月九日（一三日間）
⑵神奈川県幸市「市民ギャラリー」
六月一三日～八日（六日間）
⑶神奈川県川崎市「教育文化会館」
七月一二日～一六日（四日間）
⑷埼玉県熊谷市「市民ギャラリー」
八月七日～二日（六日間）
⑸横浜市「たまプラーザ東急百貨店」
八月一五日～二〇日（六日間）
⑹埼玉県川越市「県民ミニギャラリー川越」
四月二日～八日（七日間）

右の各会場の内「幸市民ギャラリー」「川崎市教育文化会館」「熊谷市民ギャラリー」「たまプラーザ東急百貨店」の四カ所で写真展開催期間中にアンケートによる調査を実施した結果、次のような集計結果が出た。

①UFOに興味がありますか。
「興味がある」　九二％
「興味がない」　四％
「無回答・その他」　四％

②UFOや異星人は実在すると思いますか。
「実在する」　九三％
「実在しない」　二％
「無回答・その他」　五％

③UFOを目撃したことがありますか。
「目撃した」　二七％
「目撃したことはない」　五六％
「無回答・その他」
人数で割り出すと目撃した人は四五名になる。

④UFO観測会を企画したら参加しますか。
「参加する」　三五％
「参加しない」　五四％
「無回答・その他」　一一％

⑤最も印象深い写真は？
「金星人オーソンの肖像」　二一％
「金星の円盤」　一六％
「金星の母船」　四％
「金星のシンボルマーク」　四％
「金星文字と図形」　四％

⑥UFO写真展はどのようにして知りましたか。
「ポスター」　三六％
「友人から聞いた」　二六％
「チラシ」　三％
「新聞」　一％
「無回答・その他」　四四％

写真展の宣伝としては金星のスカウトシップの写真入りポスターを会場入口、駅前、コンビニ等に貼り、チラシ配布も実施。

来場者数と年齢別、性別等の分析は一会場のみをあげると次のとおり。
「川崎市教育文化会館」の場合。
●来場者数　四日間で計三五七名。
●年齢別
一〇代未満　四％
一〇代　一七％
二〇代　一四％
三〇代　一七％
四〇代以上　四八％
●性別
男性　七四％
女性　二八％

以上で見ると人出の多い大都市が有利であり、また男性が圧倒的に多いことがわかる。今後は東京都内、埼玉、千葉両県で開催を増やすことを企画している。

（本部役員　会田裕子）

◀四月に開催した埼玉県川越市の市民ギャラリーにて。

またも日本GAPの楽しい企画が出ました！　ふるってご参加下さい。お待ちしています。

①ユネスコ村でUFO写真展

●期　間　2月7日～3月24日
●会　場　「ユネスコ村大恐竜探検館」－UFO写真展は2階展示場で開催－
〒359 埼玉県所沢市上山口2227　　TEL 0492-22-1370
●交　通　JR池袋駅から西武池袋線に乗り換えて「西武球場前駅」下車。

日本GAPは今年度UFO写真展の皮切りとして、人出の多いユネスコ村大恐竜探検館で約1カ月半にわたる長期間、UFO写真展を開催します。これは周知活動に圧倒的な効果をもたらすものと期待し、役員一同張り切って準備中です。

また開催期間中に下記のような「UFO写真展見学ツアー」を実施し、テレパシーによるUFO観測会もあわせて行ないますので、日本GAP会員の方はふるってご参加下さい。ご家族友人ご同伴を歓迎します。当日はUFO男の加藤純一と久保田会長も参加します。何が出るでしょうか。お楽しみに！

②UFO写真展見学ツアーと観測会

★日　時　3月15日（日）〈ユネスコ村の写真展開催期間中〉
★会　場　交通ともに上記と同じ。
★スケジュール　13：00　「西武球場前駅」改札口に集合（改札口は1つだけ）。
写真展見学。ユネスコ村名物「UFO」に搭乗。
15：00　狭山湖近辺の公園にてテレパシーによるUFO観測会を実施。
※雨天の場合は中止。
17：00　解散。その後、希望者による夕食会を開催。
会場は池袋の「天狗」を予定。
★費　用　ユネスコ村入園料￥1,250／UFOの乗り物料金￥500
事前の申込みは必要ありません。
★問合せ　日本GAP黎明会代表　西川　太　　TEL 03-5997-0730
★食事等　ユネスコ村周辺には飲食施設が少ないので、当日は昼食をすませてご参加下さい。

Trip To Israel Yields Many UFO Sightings by Hachiro Kubota

イスラエル―UFO目撃の旅

日本GAP会長　久保田八郎

かねてから予告したとおり日本GAPは第17回海外研修旅行として「イスラエル聖地遺跡の旅」と題する団体旅行を去る11月22日より29日までの8日間実施した。参加者は筆者を含めて25名。終始絶好の快晴に恵まれて歓喜と感動の旅を終えた。特に旅行中はたびたびUFOの出現を加藤純一その他のメンバーが目撃して多大の成果をあげた。以下はその内容。無記名の掲載写真はすべて筆者撮影。（使用カメラはフジGSW65mmとニコンFE2・ニッコール28mm―70mm）

飛行中にまずUFOが出現

一一月二二日朝、成田空港に集合した全員はすべての準備完了のもとに英国航空機にて勇躍出発。飛行機は北回りのためにまず中国東北部を目ざす。しばらくして雪で覆われたシベリアの広漠たる原野を窓から眺める。素晴らしい景観だ。夜にならないので窓外はいつまでも明るい。

加藤君が窓の外に茶色の大きな物体が飛ぶのを見たという。飛行機と並行に飛び、光がオレンジ色に輝いたと話す。これがUFO目撃の第一報だ。

加藤君はたびたび紹介されるとおり「UFO目撃男」と称されるほどにUFOを見る人で、一種の不思議なカルマを持つ人物である。スペースピープルの注目の的になっているらしい。彼と一緒にいれば必ずUFOが出現することは私もよく知っている。

飛行機は一一時間後にまずイギリスはロンドンのヒースロー空港に到着。ここで約三時間待機してから別の英国航空機に乗り換える。空港には日本人の団体が次々と押し寄せる。不景気というのによくもカネとヒマがあるものだ。私自身の海外旅行はこれで三十四回目となり、飛行機旅行には慣れているから狭い三等席に座り込んでいても苦にならない。ここで大宇宙思念法をたびたび実践する。

約四時間後の深夜一時四五分にイスラエル・テルアビブのベングリオン空港着。二時三〇分にバスで北上し、三時二〇分にシェラトン・プラザホテルに到着。立派な大ホテルだ。いったいに今回のイスラエル旅行では一流の高級ホテルばかりに宿泊して快適な日々を過ごした。

私自身のイスラエル行きはこれが四度目であるから、この土地には慣れているつもりだが、来るたびに新鮮な驚きを感じる。

エルサレムという街の特殊性

二三日朝は快晴下をバスで一〇時に出発。まずオリーブ山に向かう。ここの展望台地から見渡すエルサレム市街の光景は天下の絶景で、いつまで眺めていても飽きがこない。一四年前、最初に来たときにはなぜか故郷に帰ったような郷愁を感じて長時間立ちつくしていたが、当時のガイドさんの榊原氏は私が佇立する姿に異様な感動を覚えたと言っていた。

これには理由がある。二千年前に私はイスラエル人としてこの土地にいたのであって、ある人物に近い人間だったとのスペースピープル（以下SPと略す）からの情報があるからだ。そのせいか幼少時より私はその人物に非常な憧れがあり、エルサレムへ行くことを念願としていた。人間は過去世の記

▼オリーブ山から撮影。背後はエルサレム市街。黒い矢印はイエスが処刑されたゴルゴタの丘に建つ聖墳墓教会。右端の黒メガネはガイドの福地波宇郎氏。

憶をなんとなく保っているが、それは転生をくり返しながら記憶が付随してくるからである。

朝の陽光にきらめくエルサレムはこの上なく美しい。特に手前の金色に輝く岩のドームが燦然たる光を放つ。ユダヤ教、キリスト教、イスラム教という三大宗教の聖地として世界の注目を浴びるこの古都は、市の条例によって近代化することが禁じられている。したがって市街は古い石造の建物が多く、民族衣装のユダヤ人やアラブ人が混在して独特なエキゾティシズム（異国情緒）を醸し出している。

一一時にバスで山を下り、嘆きの壁の広場へ行く。この壁は、西暦前六三年にエルサレムがローマ帝国の支配下に入り、続いてヘロデ王の治政下にユダヤ人のバビロニア捕囚後に再建された第二神殿の大改築が行なわれたときの西側の土台の石壁が「嘆きの壁」と呼ばれるのだが、しかし紀元六六年にローマ帝国に対するユダヤ人の大反乱が発生して、七〇年にはローマ軍によって神殿は徹底的に破壊された。今残っているのは「嘆きの壁」だけで、これはユダヤ人の魂の故郷となり、多数のユダヤ人がここへ来て壁に向かってお祈りをする。したがってここは全イスラエルの中心地といってよい。壁の高さは一八メートルもある。

▲嘆きの壁。多数のユダヤ人がこの壁に向かって祈る。

イエスは死んではいなかった

このあと一行は徒歩でウィア・ドロローサ（嘆きの道という意味のラテン語）という小道を歩く。これはイエスがローマ総督のピラトから死刑を宣告されて十字架を担がされて歩いた苦難の道である。むかしと同様に両側にはアラブ人の土産物店が並んで客の呼び込みをやっている。雑然とした喧噪を極める不潔な地域だが、このエキゾティシズムが私には興味深い。

イエスは実際には十字架を担いだのではなくて横木だけを担がされた。縦の柱はすでに現地のゴルゴタの丘に建てられていたのだ。しかし横木だけでも推定四～五〇キロはあったと思われるので、それを担いで五〇〇メートルも歩けば疲労困憊の極に達したことだろう。そのためにときどき倒れたと聖書に記載されている。

その倒れた位置や母親のマリアが激励した場所、ベロニカという女性がスカーフを差し出して血と汗にまみれたイエスの顔を拭いてやったという場所などが記念に残されている。どこまで真実なのかは分からないが、実際の道は現在の道よりも数メートル地下だったという。

イエスが磔刑にされたゴルゴタの丘は現在それを覆うような形で巨大な聖堂となっている。これを聖墳墓教会という。私達はその入口から入って二階へ上がった。むかしどおりにイエスの巨大な像やケバケバしく飾り立てた主祭壇が磔刑の行なわれた位置の前に鎮座し、完全に宗教色に塗り込められている。

ここでイエスは磔にされたが、彼は実際には死ななかった。ローマ兵に槍で脇腹を突かれて失神したイエスは死んだと誤認され、体が下ろされて墓に葬られた。

その夜、墓の所にSPが二人来て、特殊な機械で放射線をあてて蘇生させ、連れ出した。そしてどこかでスカウトシップに乗せて上空にいた母船に乗せて休養させた上、しばらく滞在させてから地上に下ろしたのである。その姿を見た弟子達は仰天し、死者が復活したと騒いでイエスを完全に神格化させた。

▲イエスが倒れた場所を示す浮き彫り。

▼磔刑（たっけい）後イエスの体を横たえたという石板。

以上が宇宙情報であって、これはアダムスキーが側近のごく少数の人達に語った秘話である。二千年前、アダムスキーはイエスの一二弟子の一人であるヨハネであった。ヨハネはイエスの磔の際に近くにいて、最後まで救出の機会をうかがっていたと側近の某女史に語っている。他の弟子達は迫害を恐れて逃げてしまった。

そして二千年後の一九五二年一一月二〇日、カリフォルニア州のデザートセンターに着陸した金星のスカウトシップから降り立った金星人の男はかつてのイエスであって、「今度はあなたを助けてあげよう」と語りかけてきた。

イエスが地球人を救うために金星から地球へ転生してきたことは新アダムスキー全集第一巻「第二惑星からの地球訪問者」の二〇六頁にSP女性によって述べられている。これ以上の凄い話をアダムスキーはたっぷりと聞いたようだが、後難を危惧して発表はしなかった。信用のおける側近数名に断片的に口頭で洩らしただけである。

このような「話」を実話として受け入れる人はほとんどいないだろう。そのようにみると新約聖書は間違いだらけの書物ということになるらしいのだが、まあ、いいだろう。聖書を信じる人達はそれで心の糧を得ているのだ。

聖墳墓教会の主祭壇の少し前に昔は十字架の柱を立てた跡といわれる四角な穴があいていたが、今はその部分が床で覆われて大きな星型のマークがつけてある。主祭壇の真下にも小さい穴があるが、これは手を突っ込んでゴルゴタの丘の岩肌を確認するためである。各国から来た無数の人が触るので岩が滑らかになっているらしい。

イエスの遺体を葬ったという墓所については二カ所の説があり、真偽の論争の的になっている。私が昔から数度訪れて四感を静めた結果では、やはり聖墳墓教会内にある墓所が本物だという印象を受けているが、今回もそうだった。

ユダは裏切り者ではなかった

続いてイエスが弟子達とともに最後の晩餐を開いたという部屋へ行く。これは旧市街の南西の城壁とシオン門の外側にあたるシオンの丘と呼ばれる所の建物内にある。階下にはダビデ王の墓と言われる巨大な石棺が安置されており、階段を昇って二階へ上がると広い部屋に出る。ここが最後の晩餐の部屋といわれる通称二階座敷である。ただしこの建物はイエスの時代のオリジナルではなく、一一世紀に十字軍がビザンツ時代の教会跡に建てた「シオンの丘の聖母マリア教会堂」の一部である。したがってイエスと使徒達が晩餐をとった場所は大体にこのあたりだろうという目安になるにすぎない。

新約によれば、晩餐のときにイエスが「お前達の中の一人が私を裏切るだろう」と言った。弟子達は誰だろうと互いに顔を見合わせた。するとユダが黙って出て行ったとなっている。この記述はマタイ、マルコ、ルカ、ヨハネの各福音書に出ている。

しかしアダムスキーが弟子の某女史に語ったところによると、ユダは実際には裏切ったのではなくて、イエスを助けようとしたのだという。イエスのグループの会計係であった彼は、独断で金を引き出して大祭司カヤパの部下である坊さんに金を渡し、これをカヤパに渡してイエスが助かるように取り計ってくれと依頼したけれども、その坊さんは金を持ったまま逃げてしまい、結局イエスは助からなかったため、悲観したユダは自殺したということらしい。だいいち、最後の晩餐時にイエスともあろう愛の精神の権化たる人が、大勢の弟子達の前で「この中に裏切り者がいる」などと俗物が言うようなことを公言するとは考えられない。イエスは裏切りとか仲間割れとかの低次元なレベルをはるかに超越していたはずである。テレパシー、遠隔透視、未来予知、難病治癒能力その他の物凄い超能力を持っていたイエスのことであるから、一人の裏切り者などが実在していたとしても、身の安全を図ろうとすれば造作のないことだったろう。ここでも新約の記述に重大な疑惑が生じるのである。いったい歴史とは何なのか。師を助けようとした純粋な人が裏切り者の汚名を着せられて二千年間も嫌悪と侮蔑の的にされてきたのだ。

このあとはバスで約三〇分ほどでベツレヘムの聖誕教会へ行く。イエスの誕生地としてここに巨大な教会が建てられたのは、ローマのコンスタンティヌス帝の母であるヘレナが、この地をイエス生誕地としたからである。

イエスは馬小屋で生まれたというので、日本から観光に来る聖職者のグループが「イエスの小屋はどこにあるんだ」と聞いたりして失笑を買うという。二千年も昔の木造の建物が残っているはずはない。イエスが生まれたのは洞

▲イエスの最後の晩餐の場所といわれる所。

窟旅館内であった。臨月のマリアの様子がおかしくなったので、急いで洞窟の旅館へかけあったが、満員のため部屋がなく、やむを得ず馬を泊める部屋を借りてここで生んだのである。

現在、誕生の場所は大理石の床で覆われて直接には見えない。その位置には銀色の大きな星型のマークがつけてある。

素晴らしいガイドさん

ここでわれらのガイドさんを紹介しよう。七日間のバスによる移動中、絶えず説明をされた福地波宇郎氏は、もと九州の出身。高校卒後、イスラエルへ雄飛してキブツ等で働いた後、ヘブライ大学でヘブライ語を学んだという氏のヘブライ語はイスラエル人と変わらぬほどに母国語化しているらしい。それよりもイスラエルの古代からの歴史、地理、文化、旧・新約聖書の内容等に関してはまさに博覧強記そのもので、該博な知識と暗記力には驚嘆のほかない。人格円満にして謙虚な人柄で、これが二四歳とは信じられないほどの立派な人物である。父君が横浜で内村鑑三の流れを汲む無教会主義のクリスチャンとして活動をしておられ、そのために息子さんに波宇郎（パウロ）と名づけたという。

氏によると、山の上に建つイスラエル国立ヘブライ大学はヨーロッパの名門二〇大学に入る高レベルの象牙の塔であるという。これも初耳だった。これはわが旅行団のメンバーでGAP会員の山口栄雄君を喜ばせた。彼は京大大学院を出た工学博士で、現在は名古屋の某大学の教員。来年一〇月にはこのヘブライ大学で開催される国際的な学会で研究発表を英語で行なう予定になっているという。その下見に来たことになるわけだ。

ユダヤ民族の栄光と悲運

いったいに日本ではイスラエルという国がほとんど理解されていない。イスラエル人というのはユダヤ人であることも知られていないし、宗教はキリスト教ではなくてユダヤ教であることや、その経典が旧約聖書であることも日本人は知らない。エルサレムでイエスが死んだからイスラエルの宗教はキリスト教だと思っている人が多いが、イエスは堕落したユダヤ教を批判したからこそハリツケにされたのである。したがって正統ユダヤ人からイエスは憎い異端者と見られたわけだ。またユダヤ人を世界を制覇しようとする悪魔的な民族であるかのごとく書いた本などが昔から出回っているが、これらはすべて金儲けのためにでっちあげた本にすぎない。

旧約の雄大きわまりない歴史を見れば、ユダヤ人が唯一の神との契約で支

▼岩のドームをバックに。前列左端がガイドの福地波宇郎氏。後列左端は筆者。その右はスバルツーリストの小林社長。中央は東京造形大学の佐藤彰教授。中列中央は山口栄雄工学博士。右端は加藤純一マネージャー。

えられた栄光ある民族であることが分かる。そのために他民族から嫉妬されて悲惨な宿命に見舞われたのだ。ノーベル賞受賞者にユダヤ人が最も多いのも彼らの高度な英知を示している。

世界に良い意味で煮ても焼いても食えない民族が三つある。ユダヤ人、ドイツ人、日本人である。ユダヤ人は元金星人の流れを汲む民族で、ドイツ人は火星人、日本人は土星人の子孫である。これは筆者の推量ではなくて、ある方面からの情報にもとずくものである。

榊原氏との邂逅

翌二四日はUFO目撃のラッシュであった。朝九時よりエル・アクサ寺院へ行く。これはにぶい銀色のドームを持つイスラム教の寺院。八世紀に建立され一一世紀に現在の形になった。

オリーブ山から見て燦然たる黄金色のドームがひときわ目立つのが、その右側にある岩のドームである。この内部には巨大な岩があるが、伝承によれば、ユダヤ人の祖先であるアブラハムが息子のイサクを神に捧げようとした岩であり、またイスラム教の祖マホメットが天馬に乗ってこの岩から昇天したと伝えられている。したがってユダヤ・イスラム両宗教にとって聖地である。

昔私が最初ここに入ったとき、悪い波動を感じて胸が悪くなったので、以来ここへ来るたびに中へ入らないで外で仲間の荷物の番をしていた。今回も入らずに外で待機していたが、その前にこの黄金のドームをバックにして全員記念写真を撮っていたら、横から初老の男が私の方へ片手を差し出す。アラブ人がショバ代を要求しているのかと思ったら、「やあ、久保田先生、サカキバラですよ」と言うので全く驚いた。前述のように過去にGAPのイスラエル旅行の際に必ずガイドをやってもらった人で旧知の間柄だ。奇遇に驚喜しながら撮影をそっちのけにして握手をする。

この方は東京の某大学の神学部を出て牧師の資格をとり、後にイスラエルへ渡ってガイドをフリーで専門にやっている人である。どこで誰に出会うかわかったものではない。

岩のドームのそばにいたらまた氏に出会ったので、しばらく語りあった。ここで人間関係についてある意外な話を聞いたが、氏も他人をよく見抜く人であるらしい。結局、人間の純粋さや不純さは誰にも識別できるから、人間はあくまでも純粋でなければならないということをここで教えられたと思う。

氏と別れてから一同はイスラエル博物館へ入り、名高い死海文書その他の展示品を見る。ただしこの死海文書は模造品であって、本物はヘブライ大学に保存してあるという。建物はタマネギを平らにしたような独特な型だ。

ペテロの後悔

バスは鶏鳴教会に着いた。ここはイエスがゲッセマネの庭園で夜通し祈ったあと、朝になってから捕らえられ、連行された大祭司カヤパの官邸のあった場所だ。イエスはここの中庭へ連れ込まれた。このとき師の身を案じたペテロも一緒に中へ入ったところ、官邸の女中から「あんたもあの男（イエス）の一味だろう」と言われて、すぐに打ち消した。続いて二人の男から同様な質問をされて、また二度も打ち消した。そのときニワトリが鳴く声が聞こえたので、かねてからイエスが「今日、ニワトリが鳴く前におまえは私を三度知らないと言うだろう」と予言したことを思い出して、外へ出て激しく泣いたとルカ伝その他に出ている。したがって、大祭司カヤパの官邸跡に建てられたこの教会を鶏鳴教会というのである。

一四年前に最初に来たときの教会は今や全く新しい建物に建てかえられて元のおもかげはない。ガイドさんによると、今年新築されたのだという。

この地下にはイエスが一夜拘留されたという狭い土牢が残っている。ここへまた入ってみた。アダムスキーのように過去透視が自由にやれれば牢の中のイエスの姿を透視できるかもしれないが、そうもいかない。しかし私が立っている位置とイエスが動いて空間に描いた軌跡とはどこかで交錯しているに違いない。急に胸が熱くなる。

外へ出ると左横には長い石段がある。これこそイエスがゲッセマネ庭園に祈

▶昔の大祭祀カヤパの官邸跡に残る二千年前の地下牢。この写真を加藤純一が撮影したら不思議な太い曲線が写っていた。この地下牢の下層部にはイエスが一夜拘留された別な土牢があるのだが、秋山眞人氏によれば、そこから出たイエスの波動が映像化したものだという。

りに行くときに歩いて降りた石段であり、翌朝捕らえられてまた登った石段であることが一八〇〇年代に発掘されて考古学的に判明しているという。

一四年前に最初に来たときにはこの石段が整然と残っていたが、その後三度目に訪れたときには中程の石がかなり盗まれて目もあてられぬ状態になっていた。そして今回はもっとひどい状態になっており、わずかに上端と下の方だけが石段の体裁を成していた。

加藤君は過去世の遠い昔、夜間にこの石段を歩いた記憶があるという。私もここへ来るとなぜか夜間のイメージが強く浮かぶのである。

◀一一月二四日午後六時頃、エルサレムのシェラトンホテルから加藤純一が撮影。同室の津田篤孝も目撃。光体はその後四〜五個となって横並びになった。秋山眞人氏は本物のUFOと証言した。

▲11月24日、オリーブ山上の野外レストランで昼食中、空中に出現したUFOを加藤純一が撮影。秋山氏によれば円形UFOがフォースフィールドに包まれた状態という。

UFO、連続出現！

このあと一同はイスラエル博物館へ行き、内部を見学後、オリーブ山の野外レストランで昼食をとる。眺望絶佳。料理もおいしい。その後、ホーリーランド・ホテルの前庭にある古代エルサレムの都市模型、真実のゴルゴタの丘と言われるゴードンの丘とアリマタヤのヨセフの庭園跡へ行く。ゴードンはどう見ても本物の印象が浮かばない。この庭園もずいぶん様変わりしている。

夕方ホテルへ帰って夕食に出かける準備をしていると、加藤君からの電話で「いまUFOが出ている！」と言う。まもなく加藤、津田の両君がやってきて窓から東の山の方を指さして「あそこだ！」と叫ぶので見ると、かなり強く輝く光体が夜空に低く見える。

「あれは星じゃないんかな」と疑い深い私が言うと、その言葉を打ち消すかのように光体はゆっくりと左斜めに上昇を始めた。「動いたド！　やはりUFOじゃのう！」と叫ぶと、今度はその右手に別な光体が出現して二個になったが、右手の光体はまもなくゆっくりと消えた。最初の光体は強烈な光を発しながら停止している。しかし出かける時間がきたので、残念ながら戸をしめておさらばした。

その日の早朝、実は加藤・津田の両名は彼らの部屋から日の出の直前にもUFOを見たという。五時半頃から加藤は眉間のあたりに微弱な振動を感じ始めた。一種の超能力を持つ彼は、これがUFO出現の前兆であることを知っているので警戒していた。

六時頃の日の出の直前、東のオリーブ山の上空にピンク色の横長の光体が突然出現したのを窓から見た。津田も見た。するとその光体の横にいくつもの同じような横長の光体が並び始めた。カメラやビデオで撮影する。光体は一直線につながっているように見える。やがて日の出となって確認が困難になった。

夕方の六時頃に東の方向に二機のUFOが旧市街の上空に出現。「スカウトシップが二機飛んでいるらしい」と加藤が話していると、突然、二機の強く光る光体が同時に出現した。そこで筆者の部屋にきてそのことを話していると、前述のように二機が出たのである。

この日の最後の目撃は素晴らしいものだったという。夜の一〇時頃、加藤らは空間の両端に強い光が輝いているのをまず目撃。そのあいだは脈動しているように見えた。これは明らかに母船であったという。津田は双眼鏡で観測していたが、一機のスカウトシップが右手から飛来して、母船の前方に帰投して吸収される様子がはっきり確認できたという。一二時近くになると、その母船の下腹部あたりに飛行機が数機やってきた。その直後から母船らしき物は遠ざかっていったが、最後には肉眼で確認できるほどに両端の光が大きく輝いたという。これは別な部屋に

いた人達も目撃したらしい。

宇宙哲学的だったクムラン教団

二五日はバスで南下して死海のそばのクムランへ行く。ここは一九四七年にベドウィン人の少年が洞窟に隠されていた土器を発見し、その中から旧約聖書関係の古代の写本が出てきて大センセーションを起こした場所として名高い。しかしそれよりも筆者に関心があるのは、このそばにはクムラン教団と呼ばれる禁欲的なユダヤ教信徒が共同生活をしていた点である。この教団は別名エッセネ派とも呼ばれる。

このグループの教義はアダムスキーの「生命の科学」的なものだったらしい。つまり四感（四つの感覚器官）をコントロールして内部の意識の声を聞く修養を実践していたらしい。このグループには「義の教師」と呼ばれる人がときどき指導に来たといわれるが、これは洗礼のヨハネかまたはイエスを意味するといわれている。筆者の印象では、二千年前にこのクムラン教団に属していた人で転生を経て現在の日本GAPの会員になっている人が少なからずいるような気がする。

さらにバスは北上してマサダの要塞のふもとに到着。ここは高さ四〇〇メートルの岩山の平らな頂上にヘロデ王が築いた冬用の別荘としての宮殿があったが、紀元七〇年にエルサレムのユダヤ人がローマ軍に掃討されて、追い詰められたユダヤ人が最後の砦としてこの頂上に一大要塞を築いたのである。そして九六七人の熱心党員がここにたてこもって一万のローマ軍を相手に壮絶な死闘を続けたが、ローマ軍の奴隷にされて異教を押しつけられるよりは死ぬほうがましだと決議してついに全員自決した。隠れていた二人の女性と五人の子供だけが助かったため、最期の模様が判明した。それはヨセフスの「ユダヤ戦記」に詳述してある。

バスで南下すると広漠たる茶褐色の砂漠地帯が延々と展開する。まさに旧約聖書の世界だ。夜は死海のそばのニルヴァーナ・ホテルへ宿泊。この死海は標高が海面下四〇〇メートル、塩分の含有量が三五パーセントという異常な水なので人間は絶対に沈まず、水面で仰向けになって本が読めるという不思議な大湖。このホテルも立派だ。担当旅行会社を変えたせいか従来より安い料金で従来より立派なホテルへ泊まれることになった。

二六日はエリコを目ざして北上。ガイドさんによると、かつて日本のUFO研究団体が来てマサダの頂上で手をつないで円陣を組み、何やら呪文を唱えながら空を見ていたが何も出なかったという。低俗な狂信的なグループだったらしい。それで今回も日本からUFO団体が来るというのでガイドを引き受けることを危惧したけれども、日本GAP旅行団は打って変わって紳士的で常識豊かな高度なグループなのに感動したということだった。

またも旧約を思わせる雄大なヨルダン渓谷の中に残るエリコの一万年前の都市の遺跡を訪れる。このあたりはア

▲大祭司カヤパの官邸跡（現在は鶏鳴教会）の横にある石段。イエスは最後の晩餐後にこの石段を降りてゲッセマネの庭園へ行き、一夜祈ったあと、翌朝捕らえられてふたたびこの石段を登り、カヤパの官邸の土牢に入れられた。1800年代に発掘され、昔は石が整然と並んでいたが、その後中腹の石がかなり盗まれて写真のような荒れた状態になった。

▲マサダの大岩山。標高400メートル。この頂上にたてこもったユダヤ人967人がローマ軍相手に2年間死闘を続けて全員自決した。

▲死海写本が発見されたクムラン洞窟。

▲クムラン教団（エッセネ派）の遺跡。遠くの水面は死海。

ラブ人が多い。男はケヒアという布をかぶっているが、その色が黒はパレスティナ系。赤はヨルダン系という。女性のベールはチャドルといい、これまたエキゾティックだ。ユダヤ人は赤ワインを必需品とするのでブドー畑が多い。赤ワインにはガンの発生を防ぐ物質が含まれているので、ユダヤ人はガンの罹病率が低いのではないかと思ったが、これは聞き損ねた。

さらに長時間北上して昼はガリラヤ湖畔のレストランで昼食。この湖でとれるピーターズ・フィッシュを食べる。すごく美味だ。この魚はイエスの弟子であったペテロが釣り上げた魚の中に銀貨が入っていたという伝説で名高い。大体にイエスの一二弟子の内一一人はこのガリラヤ地方の出身であるから、イエスには縁の深い土地だ。湖の彼方にゴラン高原が夢のように浮かぶ。

カペナウムのシナゴーグ遺跡へ行く。二千年昔の柱に刻まれた古代のローマ字を見ると、なぜか胸が騒ぎ出す。過去世の何かの記憶がよみがえるのだろうか。

以前にも何度か来た山上の垂訓教会へ行く。ここはイエスが「幸いなるかな心の貧しき者よ。天国はその人のものである」を筆頭に計八カ条の説教を垂れた場所として名高く、それを記念して八角形の美しい教会が建てられた。

ところが今回来てみて驚いた。以前は教会のすぐ裏手が草原の斜面になっていて美しいガリラヤ湖が一望できたが、来てみると教会の裏に多数の樹木を植えた大きな庭園が造られて湖は全く見えなくなっている。金をかけてつまらぬことをしたものだと宗教関係者の無思慮に残念な思いをした。こんな形式主義にとらわれるからキリスト教が蔑視されることになるんだと「垂訓」を与えたくなってきた。昔ペルーのアンデス高原で見たように、広い草原の中に教会だけが一軒ポツンと建っている光景に魅力があるのだ。

この夜はガリラヤ湖畔ティベリアのアディソン・モーリア・プラザホテルの加藤の部屋で全員が集まって筆者との質疑応答会を二時間開催。熱意ある会合だった。

翌日聞いた話だが、会合が終わって私が自室へ帰ったあと一同は雑談をやっていたが、そのとき室内の窓際に銀色の超小型円盤が瞬間的に出現したのを津田が見たという。これは錯覚ではなくて絶対に目撃したのだと津田は強調していた。母船から放たれたスキャニングディスクなのだろう。これは壁をつき抜けて侵入できるから幻覚や妄想ではないと思う。

ハルマゲドンとは何か

二七日にはイエスが少年時代をすごしたナザレへ行き、受胎告知教会を訪問。昼前にメギドへ着く。ここはハルマゲドンという名でよく知られており、三千年昔のソロモン王時代からの要塞跡が残っている。特に深い水路の跡には一驚を喫する。こんな深い水路をよくも掘ったものだ。全体的な古代の遺跡は壮大なものだ。

問題はハルマゲドン。これはヘブライ語でメギドの丘という意味だが、これが世界の最終大戦争であるかのごとく喧伝されて大衆に恐怖心を与える道具に利用されてきた。この地名が出てくるのは新約のヨハネ黙示録一六―一六だが、子細に検討してみると、「汚れた霊どもは、王達をハルマゲドンと呼ばれる所に集めた」とあるだけで「世界終滅の大戦争が未来に発生する」とは書いてない。その少し前に「これらの（悪魔の）霊どもは全世界の王達のもとに行き、彼らを招集した。これは万物の支配者である神の大いなる日に戦うためである」と書いてある。

どだいヨハネは黙示録全体を訳の分

▲山上の垂訓教会。このあたりでイエスは8カ条の垂訓を群衆に説いた。

▶メギドの壮大な遺跡の一部分。

からぬ文章で書いているから解読は難解をきわめるが、いくらイエス門下の俊才ヨハネといえども現在の地理的な地球世界の概念を持っていたとは考えられない。したがって彼の言う「全世界」というのは当時の中近東とヨーロッパの一部ぐらいのものだろう。その頃は群雄割拠の時代で王は沢山いて戦争に明け暮れしていた時代であるから、これらに言及したのであって、ハルマゲドンを現在の全世界の終末大戦争と解釈するのは荒唐無稽な話である。要するに彼はユダヤ人の未来に関する予言らしきものを書いたと思われるのであって、地球全体の未来予言をしたものではない。ハルマゲドンを持ち出して大衆に恐怖心を与え、「こちらへ来い、そうすれば救われるぞ」と甘言を弄するのは邪教の特徴である。要注意だ。

昼過ぎにカエサリアの古代ローマ時代の水道橋、円形劇場を見学。その他の周遊を終えてバスは地中海沿岸に出る。これを南下して人口一五〇万の大都市テルアビブに着いたのは五時前。ここのホテル「ダン・パノラマ」に宿泊後、翌二八日にテルアビブ空港から帰国の途についた。終止全く安全な愉快この上ない旅だった。参加者各位に深甚の謝意を表したい。

イスラエル旅行に参加して

埼玉県　会田晋一郎

初めての海外旅行であり、初めてのGAPの旅でしたが、久保田先生のご引率のもとに終始なごやかで落ち着いた和気あいあいの雰囲気の中で八日間がアッというまに過ぎてしまいました。こんな楽しい旅行は本当に初めてでして、久保田先生をはじめ同伴の皆様方のお蔭と深く感謝致しております。

イスラエルの初日、オリーブ山よりケデロンの谷を眼下に遥かに広がるエルサレムの市街の眺望は素晴らしいものでしたが、なぜか異郷の地を見ているような感覚ではなく、慣れた土地にいるような感じでした。

二日目の二四日の夜、一〇時頃に加藤さんから「東の空にUFOが出ています！」という知らせに、一〇時三〇分頃、東の地平線よりやや上方に青白い光体が現われて、右から左にかけて移動した後、消えました。その後しばらくして同じ場所に突然二つの青白い光体が並んで出現し、次第に輝きをまして一〇秒ぐらいで消えました。

私は毎日宇宙思念法でUFOの出現を願っていましたが、それが実現して大感激しております。

埼玉県　会田裕子

イスラエル旅行では大変お世話様になり、まことにありがとうございました。やはり久保田先生とご一緒させて頂いた旅行は最高でした。また、ヨハネであったアダムスキー氏の当時からの高貴な波動を少しでも感じることが出来ましたことは、私にとっても父にとっても大変意味深い体験でございました。心から感謝申し上げます。

横浜市　渡辺康英

イスラエル旅行は私にとって大変有意義なものとなり、これからの生き方にも大きな影響を持つ旅行となりました。旅行中には久保田先生、スバルツーリストの小林社長、イスラエル観光ガイドの福地さん、役員の加藤さん、津田さんをはじめ、参加者全員にお世話になりました。有難うございます。

今回の旅行では出来るだけ心を落ち着けて印象を感じ取るように努めました。イエス関連遺跡の見学中には期せずしてこみあげてくるものがありました。ウィア・ドロローサの道を下る途中から涙がこぼれそうになりました。聖母マリアとの出会いの場所、ゴルゴタの丘でも涙腺がゆるくなりました。（中略）恵まれたことを列挙すれば、ガイドの福地さんの専門的で分かりやすい解説、快晴続きの最高の天気、高級でくつろげるホテル、上質で変化に富んだ食事、佐藤彰先生のジョークなどきりがありません。あらゆる面で充実した快適な旅行でした。イスラエルの治安や生活水準は予想以上に高く、安心して旅行を続けることができました。高いレベルの方々に囲まれ、再度日常生活を見直して向上していくつもりです。今回の旅行に参加出来て本当に良かったと感謝しております。今後ともよろしくお願い致します。

神奈川県　城　真美子

イスラエルの旅行では本当にありがとうございました。この土地を訪れることは私にとって、いつまでも見ていたい夢の一つでした。その地で久保田先生の質疑応答会に参加できて感無量です。最高の天候に恵まれてこれ以上はない素敵な旅でした。

皆様方と過ごしたイスラエルの思い出は必ずまた私をイスラエルに行かせるだろうと思います。まだ気持の半分がイスラエルに残っているのです。

新潟県　源川　正

関西、名古屋、関東などのふだんは知らないGAPの会員達、男女半々の二五名での海外旅行は、私にはすべてが初体験であった。東京造形大学教授、佐藤先生ダジャレマン、孫からUFOばあちゃんと言われている英語を使う年配の女性、ピシッと手綱をしめてくれる明るい奥さん風の女性や、団長さんを補佐する三〇代の好青年達。にわか団体なるも何の苦もなく、いつも明るい笑いと各自の気づかいにより楽しい八日間をすごした。特に感じ入ったことは、メンバーの多くの人が海外体験をしており、それなりに積極的に英語を使おうとしている姿であった。ただ一人私だけが憶病で、とてもよくなかった。悪い頑固さを反省している。

（以下次号）

運命を変える光の波動を放出！©

意識生命体から地球人に送られた
高次元メッセージ……。さらなる進化、
それがアプスセカンド。

高次元エネルギープレート＆ペンダント
「アプスセカンド」

「地球人よ、何故あなた方が地球に生まれてきたのかを知りなさい。
瞑想しなさい…。自分が誰なのかを知るために…。
内なる自己に早く目覚めなさい。あなた方の真の姿は光の存在なのです。
もっと光りなさい。そうすれば、きっとあなた方の未来は
大きく変わるでしょう――愛する地球人へ…。」

アプスセカンドは、地球に愛と調和と平和の願いを込めたメッセージです。
あなたの人生にお役立てください。

宇宙に存在する高次元エネルギー…「アプスセカンド」は、オフィス・リビング・寝室等あらゆる生活空間の波動エネルギーを上昇させることによって、心と体の振動数をシフトさせます。プレートは壁掛けとして利用するほか、この上に座り瞑想して頂ければ、潜在意識が高まるでしょう。また、ペンダントを併用すれば、共振・共鳴効果でさらに強いエネルギーが得られます。携帯用プレート「アプスセカンドミニ(5cm)」は、バックやサイフ、ポケットなどに入れておけば幸運を招き、また、枕の下に入れて寝れば、宇宙の夢や不思議な夢を見ることが多くなります。

今お買い上げの方全員にもれなく携帯用プレート「アプスセカンドミニ」をプレゼント！

〈商品写真の上に、タバコや飲物を15分位のせてエネルギーの確認をしてくだされば、本物の商品の強大さは理解出来るはずです。〉

©アプスセカンド

●定価 各18,000円(税別)
※類似品にご注意ください。

アプスセカンドで潜在意識を高めながら、あなたの波動エネルギーが上昇し、あなたから発せられる光エネルギーが高次レベルになると、対人関係、仕事、勉学、金銭面など生活全般に変化が起こり、幸運や金運にも恵まれて、これからの人生観も次第に変わって行きます。

「アプスセカンド」をご希望の方は、電話かハガキ、または、FAXで。

50円
〒150 東京都渋谷区宇田川町36－2
ノア渋谷パートⅠ 905
株式会社エンジェル
日本GAP係

●商品名 アプスセカンドプレートまたはペンダント ゴールドかシルバー
●〒住所(フリガナ)
●氏名(フリガナ)
●電話番号
●職業
●生年月日

▼お電話でのお申込みは(受付AM9:00～PM10:00)
0120 FreeDial **0120-783-718**
※受付時間外はハガキまたはFAXでお申込ください。
FAX03-3464-8616(24H受付)
●商品をお求めの方は、商品名、数量を明記の上、電話かハガキまたはFAXでお申込みください。(翌日発送、送料無料)
●万一商品がお気に召さない場合は8日以内にご返品ください。(但し、未使用品に限る)この場合送料はご負担ください。

●お支払いは代引、または現金書留(商品代金＋消費税)で、ご入金確認後の発送となります。

〒150 東京都渋谷区宇田川町36-2
ノア渋谷パートⅠ 905
株式会社 **エンジェル**
日本GAP係

Letters ユーコン広場

投稿歓迎 字数を問わず。匿名発表可なるも住所氏名明記のこと。

総会への謝辞

神奈川県　橋本　健

貴方様にはご清栄の段、お慶び申し上げます。先日九七年度総会並びに宴会にお招き下され有難う御座います。又、各種の印刷物その他に身に余るご紹介を戴き恐縮の至りです。誠に有難う御座いました。篤く御礼申し上げます。

実は前々から総会などにご招待を戴いて居りましたにも拘わらず、今回初めて出席させて戴きましたのは、太陽系の惑星すべてが、人類生存に適当な温度環境を持っており、高等な人類が棲んでいる、というアダムスキー・GAPの考えがどうしても理解できませんでした。長年の友人でご尊敬申し上げておりますが、この点だけがどうしても理解出来ず、火星、金星が超高温だったり、超低温だったりと報道されているのはNASAの謀略だと言う説にはどうしても納得出来ませんでした。

今回出席して、会長始め、いろいろな方にご質問して私の疑問が解けたかと言いますと、一向に解けません。ただ会に出席して居られるすべての方がアダムスキー・GAP・久保田八郎の考え方を深く信じて居られる事を知り、久保田八郎様の人格の偉大さに深く打たれました。久保田八郎という人は実に偉大な人、恐るべき人であります。益々発展されん事をお祈りいたします。ではご健康とご幸福をお祈り板します。合掌

（編注＝橋本氏は編者の古くからの友人で東大工学部出の理学博士。多数の発明をなして発明王と称される方です）

素晴らしかった昨年度総会

茨城県　坂本貢一

総会では大変お世話になりまして、ありがとうございました。深く感謝しております。久しぶりにお父さんの（久保田の）力強いご講演を聴かせていただいて、パワーをたっぷりと充填させていただきました。若い本部役員の方々が精力的に動き回っていた姿も、とても印象的でした。さすがにお父さんが引き寄せた人たちだと感心させられました。

総会のときにお話ししましたが、二冊目の翻訳書が出版になりましたので謹んで贈呈させていただきます。百年近く前に書かれた本ですが、今でも世界中で着実に売れ続けている驚異的な自己啓発書です。お父さんにお会いできなかったとしたら、私がこの本と出会うこともなかったわけですし、その意味でもお父さんにはいくら感謝しても感謝しきれません。本当にありがとうございました。

（編注＝坂本貢一・茂子夫妻は古くからの会員で夫君は翻訳家。両人とも編者を実の父親のように慕い、いつもお父さんと呼んでいます。先般、坂本氏の翻訳で、ごま書房よりジェームズ・アレンの「考えるヒント、生きるヒント」と題する素晴らしい翻訳書を出されました）

ここも宇宙（コズモス）なのだ！

北海道　大寺　勉

私達は日常、太陽は東から出て西へ沈むと認識しているし、そのように言い表している。決して地球が西から東へ回転しているとは言わない。それでもアポロが月から地球を写した写真を届けてくれたし、日常茶飯事になっているスペースシャトル、ソユーズの宇宙船のためだと思うが、一寸立ち止まって考えて、地球が回転しているという認識に達してきた昨今だなと、私も認識を新たにしている。

でも宇宙や天国はこの地球以外のどこかにあると認識しているし、日常の会話にもそのようにしているし、文学にも記している。天国と地獄、閻魔大王様、菩薩様、キリスト教の神様等のお住まいになるところは、はるか彼方でなくてはならないのである。

しかし二一世紀を前にして、パラダイムシフトを迎える私達は、否応なしに視点を変えざるを得ないのである。それはガリレイの望遠鏡、今日では通信情報、スペースシャトル等々、限りない文明の利器の恩恵から、思考を向上させざるを得ないのである。

脚下照顧してみるならば、宇宙の無限のエネルギーによって生命を吹き込まれている生命体が生物なのであることがわかってくる。水の三態（液体、気体、固体）が示すように人間も態を変えているように思えてくる。地球上にいる人類でもいろんな民族がいるように、宇宙にもいろんな宇宙人（地球人も一宇宙人であろう）がいてもおかしくはないのである。ダーウィンの進化論のように、何も地球にしばりつけておく必要はない。この地球上も「宇宙なのだ」という認識も自然に生じてくるのである。

宇宙の魂に対するあこがれ

神奈川県　西條美保子

総会に出席できずに申し訳ございませんでした。ですがユーコン誌を拝読しておりますと、久保田先生の声が聞こえてくるような気が致します。たとえば「人間には精神的な成長度における差があるのですが、絶対に差というもののない『核心』が、あらゆる人間に内在しています。それは万人を生かしている『宇宙の魂』というべきもので、これをアダムスキーは『宇宙の意識』と名づけています。もっと言い換えれば、『宇宙の創造主』または『神』と言えるでしょう。これが万人の人体を生かしているわけです。その意味において私達は、いかなる性質や知能を持つ人をも差別してはいけないことになります」とあります。

先生の『UFO事件と愛の異星人交信』も拝読しましたが、その中でアダムスキー氏、M氏、Z氏、そしてルールドやファティマの奇跡が書かれていて、宇宙の方々との交信がとても重要な意味を持っているような気がしてならないのです。そして圧巻はパレンケ（メキシコ）の大石棺の石蓋に彫られた絵模様が古代の宇宙飛行士ではなく、女性が祈りを捧げているか、またはトランス状態で宇宙を賛美している、つまり巫女的な存在であるということ、その上の十字架はロケットではなくて、はるかなるムーに通じる宇宙の創造パワーをあらわすシンボルだったこと。これには大変驚きました。多くの本で、この絵模様は古代のロケットとして説明してあったのに、本当はこういうことだったなんて！

それらを考え合わすと、先生のおっしゃるとおり、心を宇宙の意識に合わせて、その声を聞いてごらんなさいということでしょうか。

（編注＝右のパレンケの碑銘の神殿ピラミッドの地下に眠るパカル王の遺体を収めた大石棺の蓋の名高い浮き彫りを編者は何度も視察しましたが、あるとき、この土地に住んで古代マヤ文明を研究していた米人のマーリー・グリーン女史に会ったときに女史から頂いた浮き彫りの大写真の説明によりますと、あの浮き彫りは祈りの姿を表現したものであるということでした。土地の伝承でもそのようになっているということです。エーリッヒ・フォン・デニケン氏は古代の宇宙飛行士だと書いていますがこれは誤りらしい。むかし『神々の戦車』の翻訳権を編者に与えてくれた同氏にはわるいのですが、以上の点を明記しておきます）

火星表面の異常な光景

愛媛県　竹村孝子

先日はUFOコンタクティー誌一三九号を有難うございました。いつもながら感謝して愛読しています。

実はNASAの火星探査機が写した写真ですが、自宅でテレビを見ていたら、NASAからの映像で、中央の山の左右に黒い棒が二つ見えました。そして時間を追うごとに紙で隠されて、しまいにはありませんでした。新聞の写真にも写っていない写真でした。

「ああ、やっぱりアダムスキーの言ったことは正しかったのだ。まだNASAは発表ができなかったのだ」と思いました。

総会に感激

愛知県　山口登茂子

虫の声が近づく秋を感じる今日この頃です。先日の総会では力強いお話をどうもありがとうございました。特に先生の長年にわたるGAP活動の一部を聞かせて頂き、たいへん感激しました。今後の人生で指針として是非活用させて頂こうと思っています。今後ともよろしくご指導のほどをお願い致します

素晴らしかった総会

大阪　三島孝博

総会では今年も素晴らしい体験をさせていただき、本当にありがとうございました。これからも先生について行きたいと志を新たにしています。よろしくお願いします。

総会で元気百倍

神奈川県　城　真美子

九月一四日の日本GAP総会ではお疲れ様でした。大成功に終了しましたことを心からお慶び申し上げます。また私個人としても黎明会一員としても大変に有意義な二日間でした。反省点も私なりに多々ありますが、先生の総会に対する姿勢を身近に拝見しまして、大変勇気が湧き、ベストな状態で望むことが出来ました。本当に楽しくて良い勉強になりました。

ところで、先生は総会翌日に観光が終了したまさにその夜から次のUFOコンタクティー誌の編集作業にとりかかっていらっしゃることをお聞きしました。先生のその姿勢に私達は感激しております。かなりハードなスケジュールだと思いますが、私達一同応援をしております！　何もお手伝い出来ないことが残念でなりませんが、私達が総会で先生に元気を頂いたように、今度は私達が先生に元気の気持ちを送れたらと思います。毎日大変なことと思いますが、どうぞ無理をなさらずにお過ごし下さい。

素晴らしい語らい

埼玉県　岸田朝夫

先日は美味しい酒と肴を頂いたうえ、素晴らしい語らいの時間を頂戴しました。心ある真実の人と幅広い知識の交歓をゆったりと愉しめる機会など、そう滅多にはありません。ほんとうにありがとうございました。益々のご活躍をお祈り申し上げます。

（編注＝岸田氏は編者の著書や新アダムスキー全集等の編集者です）

旅客機内からUFOを目撃

愛知県　小林幸江

実は私も以前にUFOを見たことがあります。小学二年の頃、校庭で鉛色の球体が青空にぽっかりと浮かび雲の中に入ったきり出てこなかったということがありました（これはUFOかどうか疑問ですが）。

それから一五年後の一九八六年三月三日、一九時頃、サイパンから小牧空港へ向かう機中の事でした。カメラのフィルムがあまっていたので一緒に旅行した友人と機内での記念撮影をし、すべてフィルムを使いきった後、ふと窓を見ると、オレンジ色に光りながらフラフラと飛んでいる光を見つけました。

すると、ものすごいスピードでその光の後方から少し大きなオレンジ色の光を放つ物体が飛んできました。するとその大きな物体から小さな三つのオレンジ色の光が飛び出しました。それに気をとられているうちに、はじめの一つは消えて、大きな光も再加速して消え、そして一つ二つ三つと消えていきました。今でもはっきりとまではいきませんが覚えております。その物体を見たことよりも、UFOだと騒ぐ私達の声に動じることなく他の乗客達が座っていた事の方が妙に印象に残っています。

カメラのフィルムを使いきった後で残念ではありましたが、今思うと、その分、窓から見える光景を頭に焼きつけられた事の方が価値があったと思います。

その他、今まで体験してきた不思議な現象等が、このアダムスキー全集を読むことによって解明できたように思います。まだ一度読んだだけですので、これからもう一度全巻を読んでみます。この全巻を読み終えた後のクリアな感じが濁ってしまわないうちに・・・。

宇宙の始まりとUFOの存在

東京　浜田敬博

『プリンピキア（自然哲学の数学的原理）』を著したことで知られるニュートンは、どこまでも限りなく一様に広がった無限の空間である絶対空間と、一方向に均一に流れる絶対時間という二つの概念を前提とした宇宙のイメージを形づくりました。この宇宙のイメージは私達が普通に考える宇宙像と同様なのですが、こうした宇宙を考えると説明ができないパラドックスが生じました。

宇宙が無限の広がりをもち、そこには星々が一様に分布していると仮定すれば、天空のどこを見上げても私達の視線は必ずどこかでいずれかの星に行き当たるはずです。なぜなら、絶対空間の概念より、空間はどこまでも一様で無限に広がっているわけですから、星々の分布も一様で無限にあることになるからです。すると、夜空のどこを見ても必ずそこには星があることになり、全天空はビッシリと星々で埋めつくされていることになり、夜であっても空全体が無限に眩しく輝いていることになってしまいます（オルバースのパラドックス）。

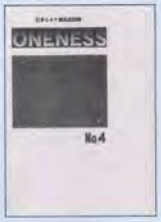
しかし実際には、宇宙は膨脹していると考えて、宇宙の年齢は有限であるために、遠くの星からの光は無視できるほど弱められるので、私達は夜空の暗闇を取り戻すことができることになるわけです。

●こうしてオルバースのパラドックスは宇宙の膨脹、つまりビッグバン現象によって解決されるのですが、ホーキング博士などは（数学での）境界のないことが境界条件であるとして、ビッグバンを無境界点としてとらえ、神の一撃から開放してしまいました。

それでは宇宙の始まりはどうなってしまうのかというと、ここにビレンケンの無からの宇宙創成説というものが現われてきます。それはまず、現在の三次元宇宙の元となるエネルギーの質点が虚数時間の領域をウロウロとしていたと考えるのですが、あるときポテンシャル・エネルギーの山の壁をトンネル効果によって突き抜けて、実時間側のポテンシャルの坂を転がり始めて、これが三次元宇宙空間のビッグバン的な（以下次号）

日本GAP横浜支部報
「ワンネス」第４号頒布中
「ONENESS」No.4

日本GAP横浜支部は不定期刊の支部報「ONENESS」の第４号を刊行中です。きわめて真しな論文・エッセイ等を満載。読者に大いなる勇気と活力を与えます。ご一読を。
B５判・27頁。オフセット印刷。



ご注文は下記へ合計¥400を切手（80円切手５枚）同封の上、お申込み下さい。
〒174　東京都板橋区南常盤台2-13-12-401
清水　正（横浜支部代表）

ジョージ・アダムスキー＝著
久保田八郎＝訳

George Adamski

全面改訂・改訂
全10巻／各四六判

新アダムスキー全集

超絶した文明を持つ、太陽系の他の惑星群の人々とコンタクトしたアダムスキーを米政府機関は密かにマークしていた！ＵＦＯや惑星群の驚異的実態と深遠な宇宙思想を伝える本全集は、地球人類に宇宙的覚醒の必要性と真の生き方を示す永遠の古典。ＵＦＯと宇宙哲学の研究者にとって必読の名著。旧全集を全面改訂した最新決定版。世界に類書なき金字塔！

❶ 第2惑星からの地球訪問者

ジョージ・アダムスキー著　久保田八郎訳
定価（本体1922円＋税）／四六判並製
●世界的に著名なUFO研究家、ジョージ・アダムスキーが金星人と会見、自ら円盤や母船に乗り他の惑星の文明の実態を明らかにした本全集の中心たる書。

❷ 超能力開発法

ジョージ・アダムスキー著　久保田八郎訳
定価（本体1262円＋税）／四六判並製
●人間に内在する宇宙的能力の開発法を説く。四官をコントロールして肉体内部の宇宙意識からのメッセージを感受し、テレパシー、遠隔透視などを学ぶ。

❸ 21世紀／生命の科学

ジョージ・アダムスキー著　久保田八郎訳
定価（本体1262円＋税）／四六判並製
●地球外生命体との接触によって開発されたアダムスキーの超能力開発プログラムの全貌。進化した異星人から地球人に伝えられた12のレクチャーを公開！

❹ UFO問答100

ジョージ・アダムスキー著　久保田八郎訳
定価（本体1262円＋税）／四六判並製
●1985年アダムスキーは世界中から送られてくる質問を分類し質疑応答集をまとめた。UFO問題の疑問を解き、混迷したUFO研究界に解答と示唆を与える書

❺ 金星・土星探訪記

ジョージ・アダムスキー著　久保田八郎訳
定価（本体2330円＋税）／四六判並製
●アダムスキーが大母船に乗せられ、高度な進化をとげた金星・土星を訪れる驚異の体験記録。金星人として生まれ変わった亡き妻との再開。

❻ UFOの謎

ジョージ・アダムスキー著　久保田八郎訳
定価（本体1922円＋税）／四六判並製
●円盤の推進理論や聖書とUFOとの関連など、UFOと異星人問題の真相を解明する書。後半は著者の世界講演旅行記で各国GAP網の活動状況を克明に描写。

❼ 21世紀の宇宙哲学

ジョージ・アダムスキー著　久保田八郎訳
定価（本体1000円＋税）／四六判並製
●地球人が宇宙的な成長をとげるために、心体内部に宿る宇宙意識との一体化を説いた書。既存の宗教・哲学では理解しえなかった意識と万物との関係を解く!

❽ UFO・人間・宇宙

ジョージ・アダムスキー著　久保田八郎訳
定価（本体2330円＋税）／四六判並製
●日本GAP機関誌に掲載されたアダムスキーのUFOと宇宙哲学に関する論文や講演録を編纂。特に他界する直前の最後の講演が圧巻！

❾ UFOの真相

ジョージ・アダムスキー著　久保田八郎訳
定価（本体1922円＋税）／四六判並製
●アダムスキーの薫陶を受けた人々の論説、講演録などを収録。アダムスキーの宇宙的実像と、人間味豊かな庶民性を持つ素顔を多角的にとらえる。

❿ 超人ジョージ・アダムスキー

久保田八郎著
定価（本体1262円＋税）／四六判並製
●アダムスキーの理論と哲学を要約、国際的アダムスキー研究家・久保田八郎が初めて書き下ろした意欲作！アダムスキー入門書。

⓫ 肉体を超えて 大宇宙と一体化する方法

ジョージ・アダムスキー著　久保田八郎訳
定価（本体2800円＋税）／四六判並製
●アダムスキー高弟のアリス・ボマロイ女史が、アダムスキーの膨大な講演録音を収集。久保田八郎氏が翻訳した大著。宇宙哲学の真髄を究めた最高の名著。

別巻・UFO宇宙からの完全な証拠

ダニエル・ロス著　久保田八郎訳
定価（本体2718円＋税）／四六判並製
●アメリカ気鋭のUFO研究家、ダニエル・ロスが全力で展開したUFO問題の真相！アダムスキーの体験の真実性を科学的に実証した書。

＊新アダムスキー全集全巻をまとめてご注文頂きますと
　定価の10％引き＋送料がサービスとなります。
＊定価は、全て税込みです。

CAP
CHUO ART PUBLISHING.,CO,LTD.
中央アート出版社
〒104東京都中央区京橋3-7-13
TEL 03-3561-7017郵便振替：00180-5-66324

CAPのUFO関連書

UFO事件と愛の異星人交信 久保田八郎著

定価（本体2500円+税）送料310円
四六判並製・352頁

世界のUFO事件を研究調査してきた著者が、ルールドの奇蹟やファティマの名高い聖母空艇事件やメキシコのマヤの遺跡その他の謎の事件等に現地調査のメスを入れて、別な惑星から来た宇宙船に起因することを検証し、さらに異星人と交信して愛と救いのメッセージを与えられている日本人青年の感動の実話を加えた心あたたまる希有のノンフィクション。

UFOと異星人の真相 久保田八郎著

定価（本体1650円+税）送料310円
四六判並製・288頁

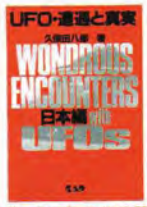
UFO研究者の第一人者・久保田八郎が書き下ろした本書は、別な惑星へ行ってきた青年の驚異の体験をもとにUFOの内部の様子や作動原理、異星人の文明の実態等を明らかにしていきます。加えて超能力等の問題や、氾濫するUFO関連情報の真偽にも迫るUFOを研究する人の必携の書です。

UFOと宇宙哲学の行方（ゆくえ）久保田八郎著

定価(本体1650円+税)送料310円
四六判並製・288頁

本書はわが国UFO研究者の第一人者・久保田八郎が「UFOconteactee」に長年にわたって掲載してきた記事や講演から選りすぐって編纂したもので、UFO問題とアダムスキー哲学に関する著者の研究の集大成ともいえる内容になっています。2部構成になっている本書は、まず第1部ではアダムスキー哲学を人生に生かしたり、難病の治療に応用する実践法を明らかにしていきます。UFOを研究する人のガイドブックとしても最適の書です。

UFO・遭遇と真実—日本編— 久保田八郎著



定価（本体1500円+税）送料310円
四六判並製・264頁

日本で発生した驚異的なUFO事件を8件選び、わが国UFO研究界の第一人者・久保田八郎が書き下ろして読みやすく編纂した本書は、実証主義をつらぬく著者が徹底的に調査した結果、真実そのものであると確認した事件のみを流麗な筆致で活写。読者を大気圏外の世界へ誘います。

※上記の書籍は日本GAPでも取扱います。著者の署名捺印入り。
ハガキでご注文下されば代金後払いで直送します。

CAP ©HUO ART PUBLISHING.,CO.,LTD.
中央アート出版社
〒104東京都中央区京橋3-7-13
TEL 03-3561-7017郵便振替：00180-5-66324

英文版「UFO contactee」No.12 日本GAP

B5版／12頁／コート紙使用／￥500　送料￥190　（No.1～3は品切れ）

日本GAPは日本語版「UFO contactee」誌を年4回発行するかたわら、国際版として英文版「UFO contactee」誌を年1回刊行して世界のUFO研究団体や個人研究家と交流を保っています。本誌にはアダムスキー問題を主体にしたUFOと宇宙哲学関係記事を主体に掲載し、アダムスキー執筆の質疑応答書も連載しています。No.12には日本語版No.137に掲載された「UFO頻出のデザートセンター！」の英文記事が写真入りで載せてあります。流麗な英文による本誌は英語学習にも最適です。日本GAPへハガキでご注文下されば代金あと払いでお送り致します。着後同封の振替用紙でご送金下さい。

From The Editor

編集後記§§§

●イスラエル旅行は大成功でした。この旅に固執するのはイエスという偉人が宇宙的な源泉を有するからで、これはUFO問題にも大いに関係があるのです。容易に信じてもらえないでしょうが、とにかく新アダムスキー全集の第一巻をお読み頂ければ首肯されると思います。

●「火星には大都市があるか！」と題する記事もかなりセンセイショナルですが、筆者の秋山氏はスペースピープルから聞いた話を伝えておられますから現実味に満ちています。火星に関してはNASAは容易にフル報告をしません。何かの重大な発見を隠蔽していることは間違いないでしょう。世界の大混乱を防止するにはそれが賢明かもしれません。

●いったいにいまはUFO問題が下火になったように思われますが、実際には「出るところには出ている」のです。そして見る人は見ています。UFO男と呼ばれる加藤純一氏の「UFO目撃日記」には実はまだ多くの素晴らしい秘話があるのですが本号ではその一部を掲載しました。

●UFO目撃報告、UFO写真、超能力開発体験、宇宙哲学研究実践体験、宇宙科学等の原稿や資料を募集しています。掲載分には薄謝を呈します。

●本誌は多数のボランティアーにより全国の主要書店に直販で卸されています。この活動に参加希望の方はハガキでお申込みください。説明書をお送りします。

日本GAP専門誌・季刊　春季号
UFO contactee　140号
編集発行人　久保田八郎
発行所　日本GAP
〒333東京都江戸川区本一色1-12-1-501
☎03-3651-0958
振替　00140-2-35912
一九九八年一月二五日発行
定価九四五円（本体九〇〇円）・送料240円

※本誌掲載の全記事・写真共、他の印刷物への無断引用転載を禁じます。

本誌バックナンバーカタログ入用の方はハガキで日本GAP宛お申込み下さい。

日本GAP全国月例セミナー案内

支部名	日時	会場	会費	プログラム・テキスト
東京本部	毎月第1日曜日　午後1:00→5:00	港区芝公園3丁目5－8「機械振興会館」地下3階第2研修室。 ☎03-3434-8211、JR浜松町駅下車。東京タワーの正面前。 浜松町駅北口から東京タワー行きバスで約8分。 ※日曜日は正面玄関が閉じられているので、右へ回って建物の右側の入口から入る。 連絡先＝日本ＧＡＰ本部　☎03-3651-0958	会場費 ¥1000 セミナー 受講料 ¥1500 計¥2500	1:00→1:40　会員の講演。 1:45→3:15　久保田会長の能力開発講義「宇宙哲学」 3:25→5:00　超能力開発練習／近況報告／ビデオ映写／質疑。 ※日本ＧＡＰ会員でなくても入場可。 ※会場に臨時売店開設。新アダムスキー全集、ＧＡＰグッズ等を販売。
大阪支部	毎月第3日曜日　午後1:00→5:00	大阪府吹田市出口町4丁目「吹田市民会館」 ☎388-7351。JRまたは阪急電車吹田駅下車。 連絡先＝平塚和義　☎06-411-2367	¥500	東京月例セミナーにおける久保田会長の講義のビデオまたは録音テープを公開。テキストは上記と同じ。
新潟支部	毎月第4日曜日　午後1:00→5:00	新潟市東万代町9「新潟市青年の家」(万代市民会館と同じ建物) ☎025-246-7711。JR新潟駅より徒歩5分。 連絡先＝星　富治夫　☎02579-2-5562	¥500	同上
名古屋支部	毎月第2日曜日　午後1:00→4:30	名古屋市中区金山1丁目5番1号「名古屋市民会館」特別会議室。☎052-331-2141㈹ JR東海・名鉄・地下鉄の金山駅より徒歩5分。 連絡先＝林　国宣　☎0586-45-6468	¥500	同上
山形支部	毎月第1日曜日　午後1:00→5:00 ※日時は変更があるため、毎月事前に柴田宛電話で問い合わせること。	山形県天童市老野森1丁目1－1「天童市中央公民館」 ☎0236-54-1511。天童駅から徒歩10分、タクシー4分。天童市役所の裏側。 連絡先＝柴田光明　☎0233-25-3261	¥500	同上
札幌支部	毎月第1日曜日　午後1:00→4:30 ※日時と会場は不定につき、事前に高野宛問い合わせること。	中央区北一条西13丁目「札幌市教育文化会館」会議室。 ☎011-271-5821 連絡先＝高野省志　☎011-783-6393	¥500	同上
旭川支部	毎月第4日曜日　午後1:00→5:00	旭川市五条4丁目「旭川ときわ市民ホール」3Ｆ　302研修室 ☎0166-23-5577 連絡先＝川上三秀　☎166-61-0044	¥500	同上
沖縄支部	毎月第4火曜日　午後7:30→10:00	宜野湾市嘉数1－6－5早川宅 ☎098-890-1324 連絡先＝里　孝人　☎098-835-3991	¥500	同上
秋田支部	毎月第2日曜日　午後1:00→5:00	秋田市八橋運動公園1－2「中央公民館」趣味の間。 ☎0188-24-5377 連絡先＝伊藤正治　☎0188-62-2831	¥500	同上
横浜支部	毎月第4日曜日　午後1:00→5:00	横浜市中区万代町2－4－7「横浜市技能文化会館」 ☎045-681-6551　JR関内駅、地下鉄・伊勢崎長者町駅より徒歩3分。 連絡先＝清水　正　☎03-5995-6038	¥500	同上
茨城支部	毎月第4日曜日　午後1:20→5:00	水戸市梅香1－2みと好文カレッジ小集会室。 ☎029-224-6602。水戸駅北口より徒歩10分。 連絡先＝清水勝一　☎029-273-1903	¥300	同上
長野支部	毎月第4日曜日　午後1:00→5:00	塩尻市大門7番地「塩尻総合文化センター」第1会議室。 ☎0263-54-1253 連絡先＝博田文喜　☎0264-24-3012	¥500	同上
紀南会	毎月第3日曜日　午後1:00→5:00 ※日時については事前に松口に問い合わせること。	和歌山県新宮市春日1番35号 「新宮地域職業訓練センター」工業コーナー　☎0735-23-0005 JR新宮駅下車、徒歩5分、新宮市役所隣。 連絡先＝松口幸之助　☎0735-34-0384	¥300	同上
南九州支部	毎月第4日曜日　午後1:00→5:00	鹿児島市与次郎2－3－1「鹿児島市民文化ホール」 ☎0992-57-8111 連絡先＝曽我部勇人　☎0992-53-2315	¥500	同上
高松支部	毎月第3日曜日　午後1:30→4:30 ※日時は変更があるため事前に電話。	香川県坂出市寿町1－3－5「坂出勤労福祉センター」 ☎0877-46-2463　JR坂出駅より徒歩10分。 連絡先＝関　高明　☎0875-72-2698	¥500	同上
伊豆支部	毎月第1日曜日　午後1:00→4:30	静岡県三島市一番町20－5「三島市民文化会館」第3会議室。 ☎0559-76-4455。　三島駅より徒歩3分。 連絡先＝高梨十光　☎0558-72-7832	¥500	同上
福山支部	毎月第2日曜日に変更　午後1:00→4:00 ※日時は変更があるため事前に電話。	広島県福山市丸の内1－3「びんご荘」 ☎0849-25-3977　福山駅から徒歩3分。 連絡先＝棗田(なつめだ)　雅則 ☎0847-52-6306	¥500	同上

オーソン肖像写真

1952年11月20日、アダムスキーが米カリフォルニア州のデザートセンターで会見した金星人を、目撃者の一人アリス・ウェルズ女史が双眼鏡で観察しながら描いたスケッチをもとにして女流画家ゲイ・ベッツが油絵に仕上げた絵画の写真。10.5cm×17cm（不許複製転載）

¥1.000　送料¥130

金星のシンボルマーク

中央の眼は万物を見透す宇宙の意識、つまり人体を生かす生命パワーと叡知をあらわし、周囲の４層の放射状ゾーンは人間のマインド（心）の発達状態をあらわしています。人間のマインド（心）は眼・耳・鼻・口の四つから形成されるので４層になっているのです。

¥500　送料¥80

ＥＳＰカード〈超能力開発用〉

テレパシー、遠隔透視等の能力開発用としてアメリカのデューク大学で開発されたカード。５種類の図形カードが各５枚ずつあり、計25枚のセット。堅牢な厚紙製。重さ40g、5.7cm×8.9cm。携帯に便利なポケット用。どこでも気軽に練習できます。使用説明書付き。

¥1.500 送料¥130　（２～５個）¥190

本誌綴込み用バインダー

このバインダー１個に本誌８冊（２年分）を簡単に綴込み可能。美麗背文字入り。背中に年号を書き込めば取り出しに便利です。

¥1.000　送料は１個～５個　一律¥800

ＧＡＰキーホルダー

日本GAPがデザインして製作したオリジナル・キーホルダー。シンボルマークの周囲を「WITH COSMIC CONSCIOUSNESS（宇宙の意識とともに」の金文字が取り巻く優雅なデザイン。円形部分は直径3.2cm。鎖とも全長９cm。非常に堅牢に出来ています。

¥1.900　送料130

会員バッジ

金星のシンボルマークが金色に輝く優雅なデザイン。表面の透明樹脂がキズを防ぎ、光を反射してキラキラ輝きます。男性用は裏の留め金が心棒ネジ留め式。女性用は安全ピン式。ご注文の際は、いずれかを明記して下さい。実物の直径は1.7cm。

¥2.000　送料４個まで130

ブックカヴァー

主として新アダムスキー全集用に作られたカヴァーですが、同じ大きさの四六判の書籍ならどれにも使用できます。表側の中央にシンボルマークと「宇宙の意識とともに」を意味する英文が金色で箔押しされた濃紺色の優美なデザインです。人造皮革製。

¥1.200　送料¥190　５枚まで¥270

ＧＡＰシール

シンボルマークを「宇宙の意識とともに」の英文が取り巻く優雅なデザインのシールです。カバンその他の持ち物に最適。

１枚に大小５個１組　**¥200**　送料10枚まで¥80

新アダムスキー全集　訳・著者　久保田八郎の署名捺印入り

中央アート出版社刊「新アダムスキー全集」を日本ＧＡＰでも取り扱っています。各巻とも扉に久保田八郎の署名と捺印を入れてお届けします。詳細については本誌の広告を参照して下さい。全巻注文の際の定価割引はありません。送料は１冊310、７冊まで¥660、10冊まで¥900。ハガキでご注文下されば代金後払いでお届け致します。

申込先　上記各商品のご注文の際は住所・氏名・品名・個数・電話番号をご記入の上、郵便振替か現金書留でご注文下さい。代金後払いも承ります。その場合はハガキに上記のとおりにご記入の上お送り下さい。商品の中に郵便振替用紙を同封しておきますから、現品当着後、最寄り郵便局からご送金下さい。消費税は無関係です。

〒133　東京都江戸川区本一色1-12-1-511
日本ＧＡＰ　振替　00140-2-35912
☎03-3651-0958

日本ＧＡＰ能力開発カセットテープ

●「宇宙哲学」能力開発テープ ¥1500
送料１本¥190　計¥1690

日本ＧＡＰ東京本部開催の月例セミナーで久保田会長が97年４月から毎月行なう「宇宙哲学」解説講義と質疑応答を録音したテープ。みずから宇宙哲学の実践により青年のような体力と気力を保つ70歳代会長の大いなる信念と勇気を起こさせる話をぜひお聴き下さい。宇宙的な覚醒感により人間が変わり運命も好転します。

申込先　日本ＧＡＰ

●テープのご注文も代金後払いで結構です。○年○月分、個数、氏名、住所、電話番号を明記の上、ハガキでご注文下さい。ただし東京月例セミナーのテープはセミナー終了後、製作に約10日間を要します。

日本ＧＡＰビデオ

臨場感溢れる画像があなたを会場に引きこみ宇宙的な一体感を起こします。全巻VHS。

●東京本部月例セミナー　全１巻　¥3000
〈内容〉久保田会長の解説講義、他、約120分。

●日本ＧＡＰ総会　全２巻各¥3000
〈内容〉毎年開催される日本ＧＡＰ総会を収録。（1989年度分から在庫あり）。

●日本ＧＡＰ海外研修旅行　全１巻　¥3000
〈内容〉旅行のハイライトをまとめた楽しいビデオ。（1989年度分から在庫あり）

●米ワシントン市のアダムスキー大会における久保田会長の講演（英語）。　全１巻　¥3000
〈内容〉1995年９月８日、久保田会長が英語で講演。講演しためずらしいビデオ。英文テキスト付き。日本語翻訳文は本誌131号に掲載。送料はビデオ１本¥300、２本以上３本まで¥700。

申込先　ご注文の際は品名、○年○月分、上下巻の区別、個数、住所氏名、電話番号をご明記の上、郵便振替でお申し込み下さい。（ビデオの代金後払いは不可）
〒162　東京都新宿区富久町36-18　富久マンション103
伊東芳和　振替　00140-8-13811　☎03-3351-9525

UFO contactee 140号 一九九八年一月二五日発行 発行所 日本GAP 〒133-0044 東京都江戸川区本一色1-12-1-511 郵貯00140-2-35912 定価九四五円(本体九〇〇円) 送料一四〇円

何とオーダーメイド！ 秋山眞人先生推奨

あなただけの波動器を作ります!!

■OVOマインドエンジンとは何か？

10年以上にわたる研究によりエソープト・ルトン博士は、いままでの波動学とは別の視点から『波動形態理論』を完成させ、外部電源を必要としない強力な波動コントローラーを生み出しました。電源を必要としないから、クリーンでリーズナブル。また、装置本体は透明高級アクリルと稀少鉱石の美しい組み合わせで、ユーザー一人一人の波動に合わせて作成するという、オーダーメイドです。特殊なシートの中にあなたの波動を転写しプリント基盤（核波動共鳴図形回路）を作成し、アクリル球体の中に封入。さらにあなたの指紋から波動座標を割り出し、それと親和性の高い波動浄化調整済の稀少鉱物とカップリングします。シンプルで美しく個性的・・・これがOVOマインドエンジンです。

■OVOマインドエンジン・直径37ミリ
グラスプレート（9,800円 送料・消費税込）

ミニピラミッドの連続体を刻んだグラスと中核波動形態基盤を、錫を基本とした特殊合金でパッケージしました。
あなたの心身の波動、および、あなたが見たり触れたりしたものの波動を高めます。（グラスプレートについては稀少鉱石はつきません。）

■OVOマインドエンジン・全長最大200ミリ
ヒーリング・コンディショナー（53,500円 送料・消費税込）

スティックタイプの強力型でヒーリングを行う人の心身の波動を守護するものです。他からの質の良くない波動を完全にブロックする（悪質波動と共鳴する回路の遮断）のために作成されました。イギリスにある100年以上も前に建てられたゴーストハウス（幽霊の出る家）に、このコンディショナーを置いたところ、その日から幽霊が出なくなったという現象も報告されており、活用法はあなたのアイデア次第です。

OVOマインドエンジンにできること！

波動の良否のチェック・波動の変調浄化・邪気、波動の消去・マイナス波動のプラス転換・波動の強化増幅まで自由にでき、必要な時間はそれぞれ3分もあれば充分です。OVOマインドエンジンは、いわば良質波動のレンズのようなもので、あなたの心身をシステムの一部として使用します。

注文方法

ハガキの裏面に住所、氏名、生年月日、年齢、職業、TEL、商品名、個数を必ず自筆で記入してください。印鑑を押していただいた後、ハガキに手、または足の指紋（どの指でも可）を朱肉かスタンプインキ（色は問いません）で押してから発送してください。当社口座に入金が確認され次第、作成にかかりますので、商品到着までに3～4週間かかることもあります。入金の際、下記の口座までお振り込み、または、現金書留、郵便為替でご送金ください。

●郵便局：口座名義 オフィス江戸幕府
記号10120 番号36766381

●銀行：口座名義 オフィス江戸幕府
第一勧業銀行 成増支店 普通口座 1682151

●現金書留●郵便為替
〒171 東京都豊島区長崎1-28-23Muse西池袋8・9F
株式会社オフィス江戸幕府
UFOコンタクティー OVOマインドエンジン2係

■OVOマインドエンジン・直径30ミリ石球共
ルミナ波動レンズ（19,800円 送料・消費税込）

40種類以上あるといわれる風水龍穴地の形を分析しさらに独自の技法で組み合わせた12種類の図形回路を作成。12種の基盤の内、2種類をあなたの波動に合わせて選び、エンゼルヘアークウォーツ、レインボーライト、レッドジャスパーなどの30ミリ球とカップリングしてあなたの身体が発する中核波動を転写・調整してお届けします。稀少鉱石球もあなたの波動にあった石を選びます。

■OVOマインドエンジン
フルパワーキット（127,000円 送料・消費税込）

太陽の波動を転写した80ミリ大型波動レンズ球と、スフィンクス（エジプト）の波動と月の波動を転写した60ミリ中型波動レンズ球、さらに定型波動レンズと同じく稀少鉱石球、ヒーリング・コンディショナーなどが、すべてセットになったお得なキットです。波動コントロールは勿論のこと。願望の具現化、霊的問題の解決、人間関係の円滑化、能力開発など様々な分野で活用でき、組み合わせて作動させることによってマル秘の活用法があります。

●その他・波動製品を作るためのプロフェッショナルキットやヒーリングのプロのための特注キットなど制作に応じますのでご相談ください。

■オフィス江戸幕府は、マインドケアに関するあらゆる歴史、文化を研究し、広布するための法人として設立されました。宗教、思想団体とは一切関係なく、メディアへの協力、コンサルティング、セミナー企画、カウンセリング、グッズの開発などを行っています。また、社内にマインド・アンティーク（いやしを与えるアンティーク製品）の博物館（日本初）があり、アンティークをリーズナブルな価格で展示、販売しています。（要電話予約制）

株式会社オフィス江戸幕府
〒171東京都豊島区長崎1-28-23Muse西池袋8・9F
TEL 03-3957-4999
FAX 03-3957-4940 TEL・FAX 24時間受付

株式会社 オフィス江戸幕府 OFFICE EDO BAKUFU To bring freshneuss to your mind 心のトータルケアをめざして！

●超稀少水晶、針入赤水晶・30ミリダビテプレート&30ミリ球おわけします。
限定500セット、特別頒布。